（文部科学省「教育関係共同利用拠点事業」）

令和5年度
教育関係共同利用拠点事業報告書

（拠点名）

人と海の持続的共存・発展を目指した
On-ship 里海教育共同利用拠点

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸

令和6年6月

報告書目次

令和５年度報告

第１章　演習の取組状況

1．瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

2.　Blue Growth を目指したオーダーメイド洋上演習

3.　飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習

4.　里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習

5.　With/Post コロナ時代を見据えた Virtual 乗船プログラム

第2章　共同利用の実績

第3章　共同利用の実施に係る経費

第4章　共同利用に係る検討会議の状況

（参考資料）

第1章

演習の取組状況

（１）シラバス

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

＊科目 No.	2112

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学		開催方法	■対面（　　）		
				□オンライン（同時・録画・資料提示）		
				□その他（　　）		
	2. 正式科目名 副題	瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習		配当年次	1 年次	
				受入学年	1，2，3 年	
	学問分野	番号	33	名称	水産学	
3. 担当教員名	中口和光，山口修平					
4. 単 位 数	2 単位	5. 開講学期	前期集中			
6.開講期間 曜日・時間	2023 年 8 月 7 日（月）～ 2023 年 8 月 10 日（木） 曜日 : ～ :					
7.基礎知識の有無	~~・「基礎知識を必要とする科目」~~（　　） ・「基礎知識を必要としない科目」					
8.募集人数	10 人	9.選考方法	書類選考			
10. 科目内容・ 授業計画	広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」による乗船実習を経験する中で， 里海を育んできた瀬戸内海域の文化・漁業・水産の試験研究を視察するとともに，海洋調査を経験することにより，里海瀬戸内海への理解を深めることを目的とする。 8/7（月）: 広島大学生物生産学部附属練習船基地，乗船・出港，漁船操業の視察と船内講義，愛媛県今治市大三島宮浦沖錨泊 8/8（火）: 宮浦港入港，伯方塩業大三島工場見学，大三島海事博物館見学，解剖実習（三枚おろし）等 8/9（水）: 大三島宮浦港を出港，大崎下島御手洗（潮待ちの港町）視察，海洋観測，船内講義（演習，体験発表会） 8/10（木）: 広島県水産海洋技術センター見学，船内清掃，昼食，修了式後下船（12:30 頃） ＊寄港先の都合等により，予定に変更が生じる場合がある。					
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点，発表とレポート 50 点で評価する。					
12. 別途負担費用	● 授業期間中の食事代*，シーツ洗濯代として 5,000 円程度を徴収します。 *2 日目昼食代は含まれません（上陸後各自での昼食となります）。 ● 集合解散場所の事前事後の交通費は自己負担となります。 ● 開催 10 日前以降のキャンセルについては乗船期間中の船内食事代全額を負担していただきます。 ● 実習にかかるその他経費についてはこちらで負担します。					

13. その他特記事項	● 集合時刻：開催当日（8 月 7 日）は，昼食を済ませておいてください 13:00 までに広島大学生物生産学部附属練習船基地（呉市宝町 7-4） ● 持参物：医療保険証，着替え，運動靴（甲板作業はスリッパ類不可），雨具（傘），作業着上下（長袖，長ズボン），筆記用具，洗面具，タオル類等（長靴とカッパは貸与します。船内での洗濯可），釣り具（持っていれば） ● 傷害保険：事前に学生教育研究災害傷害保険（財団法人日本国際教育支援協会）相当の傷害保険に加入しておいてください。 ● やむなく欠席する場合は，開催 10 日前までに広島大学生物学系支援室(学士課程担当)まで申し出てください。直前にやむなく欠席・遅刻する場合も，必ず連絡してください。 ● 豊潮丸は全面禁煙です。船内での喫煙は認められません。 ● 本授業科目は，広島大学生物生産学部，広島大学他学部，他大学学生のために開講されるものです。 ● https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/（豊潮丸ホームページ） 【問合せ・連絡先】（E-mail：★を@に変換してください） ● 広島大学生物学系支援室（学士課程担当） 〒739－8528 東広島市鏡山 1－4－4　TEL：082－424－4323 E-mail：sei-gaku-sien★office.hiroshima-u.ac.jp ● 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸 〒737－0029 呉市宝町 7－4　TEL：080－1926－4877, 090－3022－4347 E-mail：toyoshio★hiroshima-u.ac.jp		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

（2）受講者・参加大学

受講者名簿（男性　10名　女性　1名 ）

No	大学名	所属	学年	性別
1	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
2	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
3	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
4	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
5	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
6	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
7	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
8	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	男
9	福山大学	生命工学部海洋生物科学科	2	女
10	広島大学	生物生産学部	1	男
11	広島大学	生物生産学部	1	男

（３）実習風景

実習の様子

海洋観測；海の透明度を測定

ロープワークを習う様子

釣獲調査

健康維持のための朝のラジオ体操

豊潮丸の前で集合写真

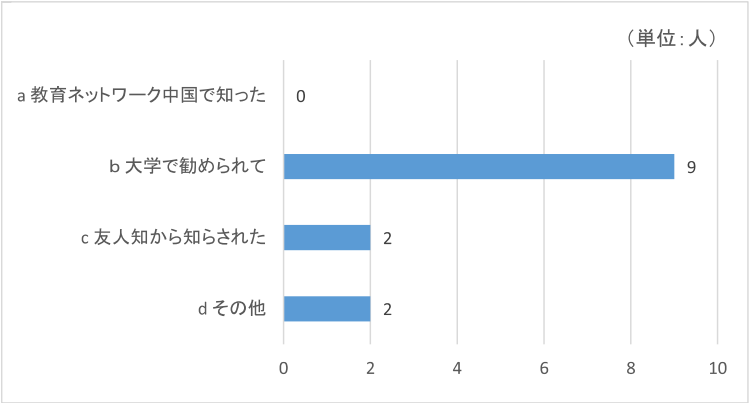
2023.8.7～10「瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習」

（４）受講生によるアンケート評価

回答数：10 人
受講生数：11 人（内、他大学生 9 人）

1－1. あなたはどのようにしてこの科目があることを知りましたか？（複数回答有）

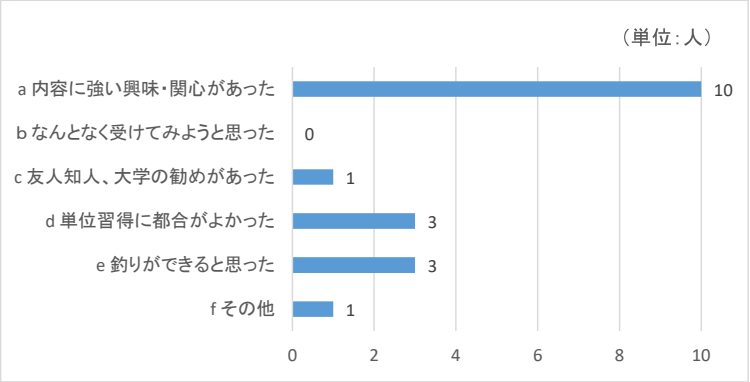
		（人）
a	教育ネットワーク中国で知った	0
b	大学で勧められて	9
c	友人知人から知らされた	2
d	その他	2



1－2. 1－1 でその他と答えた方は記述で回答してください。（原文のまま）
〇大学で案内があった。
〇大学のシラバスを見て。

2－1. なぜこの科目を受講しようと思いましたか？（複数回答有）

		（人）
a	内容に強い興味・関心があった	10
b	なんとなく受けてみようと思った	0
c	友人知人、大学の勧めがあった	1
d	単位習得に都合がよかった	3
e	釣りができると思った	3
f	その他	1



2－2. 2－1 でその他と答えた方は記述で回答してください。（原文のまま）
〇他大学の生徒との交流機会が増えると思ったから。

3. 受講してみて各内容（課題）の印象はどうでしたか？a～dから最も当てはまるものを選択してください。

3－1. 解剖実習*1	（人）
a　良かった、興味深かった	8
b　まあまあ良かった	1
c　あまり面白くなかった	1
d　まったく面白くなかった	0

3－2. 伯方塩業大三島工場の見学	（人）
a　良かった、興味深かった	7
b　まあまあ良かった	3
c　あまり面白くなかった	0
d　まったく面白くなかった	0

3－3. 大三島海事博物館の見学	（人）
a　良かった、興味深かった	8
b　まあまあ良かった	1
c　あまり面白くなかった	0
d　まったく面白くなかった	1

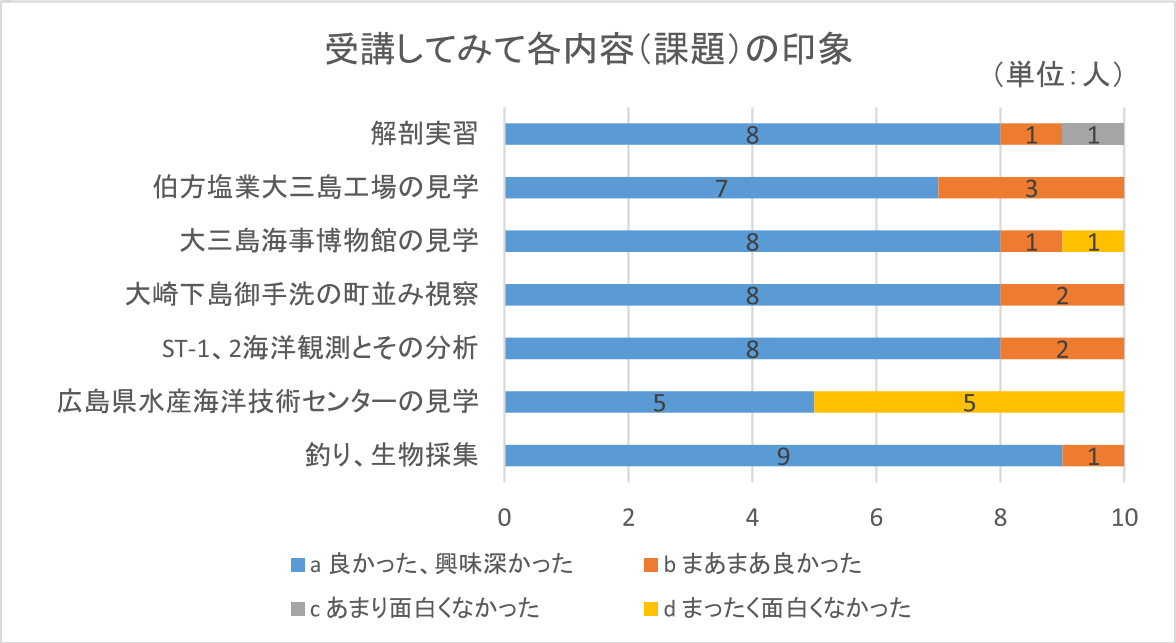
3－4. 大崎下島御手洗の町並み	（人）
a　良かった、興味深かった	8
b　まあまあ良かった	2
c　あまり面白くなかった	0
d　まったく面白くなかった	0

3－5. ST-1、2 海洋観測とその分析	（人）
a　良かった、興味深かった	8
b　まあまあ良かった	2
c　あまり面白くなかった	0
d　まったく面白くなかった	0

3－6. 広島県水産海洋技術センターの見学*2	（人）
a　良かった、興味深かった	5
b　まあまあ良かった	0
c　あまり面白くなかった	0
d　まったく面白くなかった	5

3－7. 釣り、生物採集	（人）
a　良かった、興味深かった	9
b　まあまあ良かった	1
c　あまり面白くなかった	0
d　まったく面白くなかった	0

*1　解剖実習は、魚のさばき方に変更された。
*2　広島県水産海洋技術センターの見学は、台風の影響により大和ミュージアムとてつのくじら館の見学に変更された。



3－8. 受講してみて各内容（課題）について記述したいこと、改善点があれば回答してください。（原文のまま）

○広島県水産海洋技術センターの見学は一番楽しみにしていたので、仕方ないとはいえ残念でした。
○自由時間が多くあったので自分が興味を持ったことを追求する時間にできて凄く楽しかった。
○釣りの時間を増やして欲しい。
○釣りの時間が短かった。
○最後にタイ釣れてよかったです。
○視察、見学等の時間をもう少し長く設けてほしかった。

4－1. 最も良かったと思う内容（課題）を選択してください。

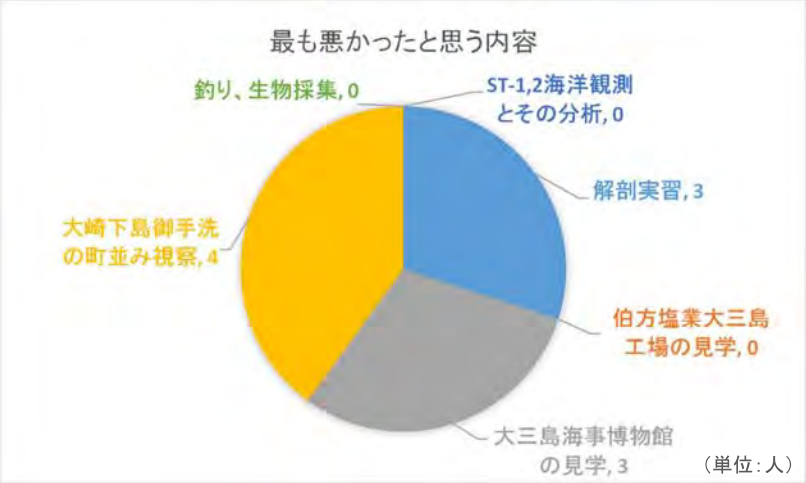
	（人）
解剖実習	0
伯方塩業大三島工場の見学	1
大三島海事博物館の見学	2
大崎下島御手洗の町並み	1
ST-1、2 海洋観測とその分析	2
釣り、生物採集	4

4－2. 4－1 で選択した理由を回答してください。（原文のまま）

- 伯方塩業大三島工場の見学を選択
  ○塩がどのように作られているか学べてとても楽しかったから。あと塩ソフトクリームが美味しかったから。
- 大三島海事博物館の見学を選択
  ○樹齢 3000 年の木に触れたりいろんな歴史を感じることができて楽しかった。
  ○展示物の内容が良かった。
- 大崎下島御手洗の町並みを選択
  ○普段はなかなか行けない所で、昭和のような街並みが趣深いと感じた。
- ST－1、2 海洋観測とその分析を選択
  ○使ったことのない、または数回しか使ったことのない計測機器を用いて瀬戸内海の状態を 2 カ所で比較することが出来たから。
  ○普段の実験、実習では出来ない方法で、海の状態を観察することが出来たから。
- 釣り、生物採取を選択
  ○久々に釣りで良い思いができたから。
  ○二回の釣り実習で魚が釣れたから。
  ○本当に楽しかった。
  ○漁船での調査が初めてだったのでやりがいがありました。

5－1. 最も悪かったと思う内容を選択してください。

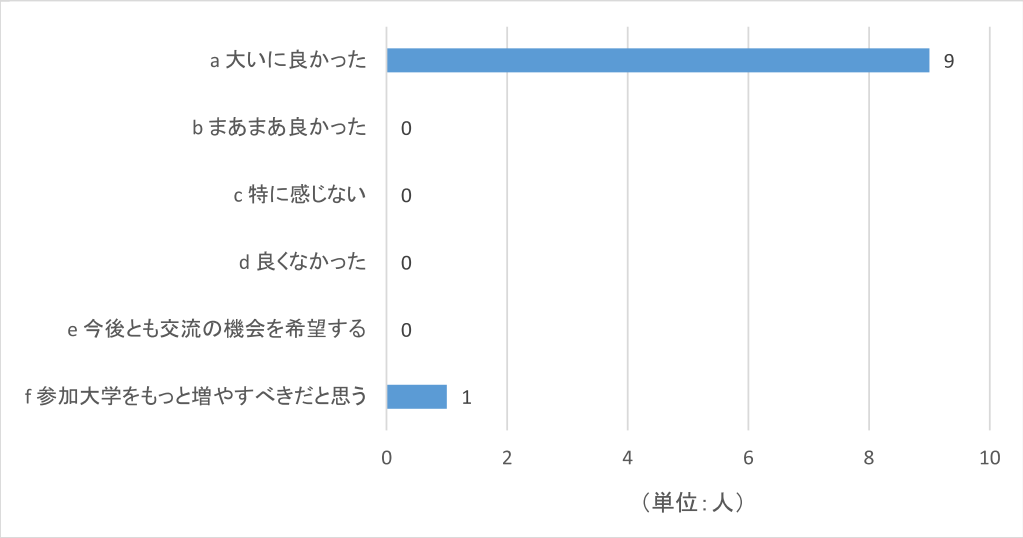
	（人）
解剖実習	3
伯方塩業大三島工場の見学	0
大三島海事博物館の見学	3
大崎下島御手洗の町並み	4
ST-1、2 海洋観測とその分析	0
釣り、生物採集	0



5－2. 5－1 で選択した理由を回答してください。(原文のまま)

- 解剖実習を選択
  ○解剖ができなかったから。
  ○楽しみにしていたが出来なくて残念だった。
  ○自分たちの手で解剖したかった。
- 大三島海事博物館の見学を選択
  ○時間がなくてじっくり見ることができなかったから。
  ○行ってないからです。
- 大崎下島御手洗の町並み視察を選択
  ○どの場所に行って良いのかが分からなかったから。
  ○周り方がわからなかった。
  ○11 時開店や定休日等で店が少なかった。
  ○御手洗の全部を見て回る時間の余裕がなかった。

6－1. 他大学の学生との交流という点ではいかがでしたか？



6－2. 6－1 の回答について記述したいこと、改善点があれば回答してください。(原文のまま)

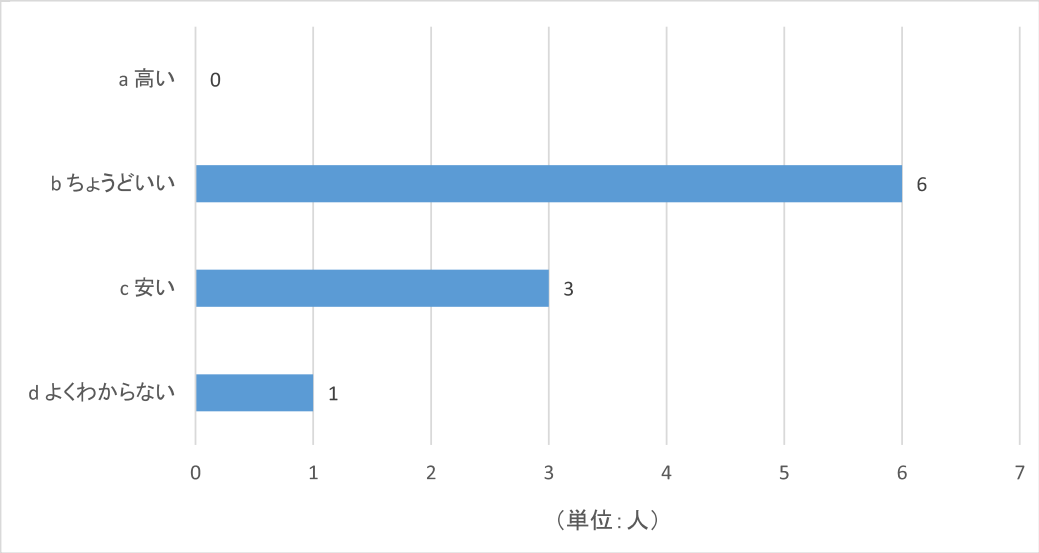
a.　大いに良かったと回答

〇かなり踏み込んだ話もでき、良い友になることが出来た。
〇福山大学と広島大学以外の大学とも交流してみたかった。
〇いろんな話を聞けてよかったです。
〇参加大学が増えたら良いなと思った。

f.　参加大学をもっと増やすべきだと思うと回答

〇もっと多くの大学の人を参加させた方が交流が広がると思う。

7－1. 参加費用についてどう思いますか？



7－2. 7－1 において、『高い』、『安い』と回答した方はいくら位であれば良いと思いますか？（原文のまま）

c.　安いと回答

〇最初 5000 円と聞いていたので、5000 円で良いと思います。

〇5000 円。

〇今のままでいい。交通費が出ればもっと良い。

8. 次の諸点（企画）の感想はいかがでしたか？a～d から最も良く当てはまるものを選択してください。

8－1. はじめの自己紹介

	（人）
a　親切で的確であった	8
b　まあまあ良かった	1
c　あまり良くなかった、有効でなかった	0
d　まったく良くなかった	1

8－2. 実習内容についての説明

	（人）
a　親切）的確であった	10
b　まあまあ良かった	0
c　あまり良くなかった、有効でなかった	0
d　まったく良くなかった	0

8－3. 実習のスケジュール組み

	（人）
a　親切で的確であった	6
b　まあまあ良かった	4
c　あまり良くなかった、有効でなかった	0
d　まったく良くなかった	0

8－4. 豊潮丸の船員の説明、指示、指導

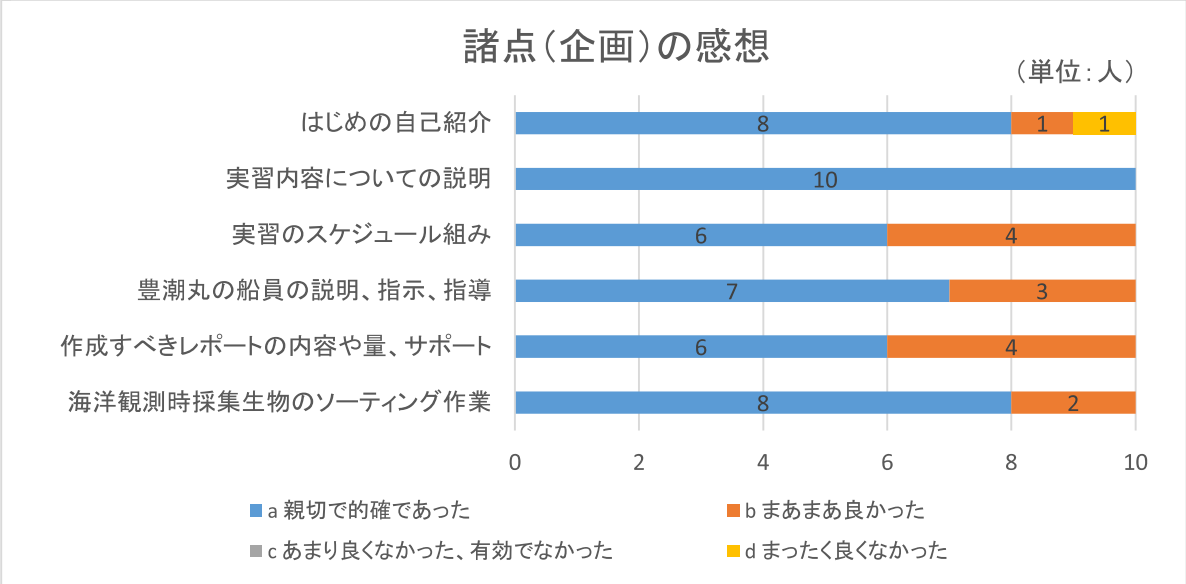
	（人）
a　親切で的確であった	7
b　まあまあ良かった	3
c　あまり良くなかった、有効でなかった	0
d　まったく良くなかった	0

8－5. 作成すべきレポートの内容や量、サポート

	（人）
a　親切で的確であった	6
b　まあまあ良かった	4
c　あまり良くなかった、有効でなかった	0
d　まったく良くなかった	0

8－6. 海洋観測時採集生物のソーティング作業

	（人）
a　親切で的確であった	8
b　まあまあ良かった	2
c　あまり良くなかった、有効でなかった	0
d　まったく良くなかった	0

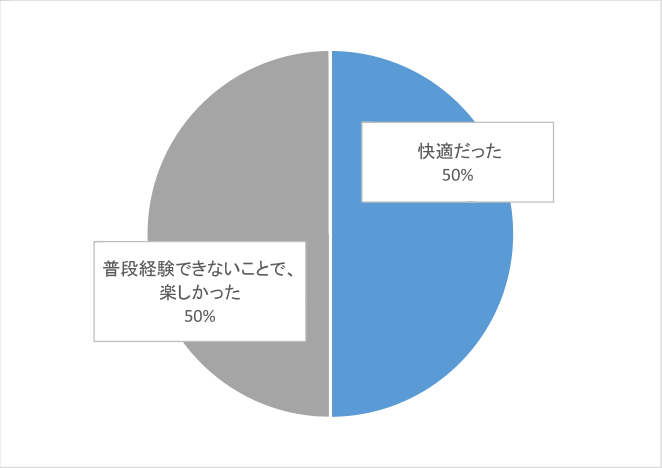


8－7. 諸点（企画）について記述することがあれば書いてください。（原文のまま）

〇中々難しい所もあったが様々生き物は見つかったし、幸運だったと思う。
〇台風が来てしまいスケジュール通りに行かなくて悲しかった。
〇釣りの時間をもう少し長く設けてほしい。
〇採集方法や、データの説明を詳しくして頂けた。座学をもう少し増やして欲しいです。

9－1. 豊潮丸に乗船してどうでしたか、船内生活は快適でしたか？

		（人）
a	快適であった	5
b	まあまあ良かった	0
c	普段経験できないことで、楽しかった	5
d	ベッドが狭く小さかった	0
e	あまり良くなかった	0
f	まったく良くなかった	0



9－2. 9－1 において、その他記述することがあれば書いてください。(原文のまま)

a.　快適であったと回答

〇夜船室のクーラーが強くて寒かったです。

〇揺れも少なく快適でした。

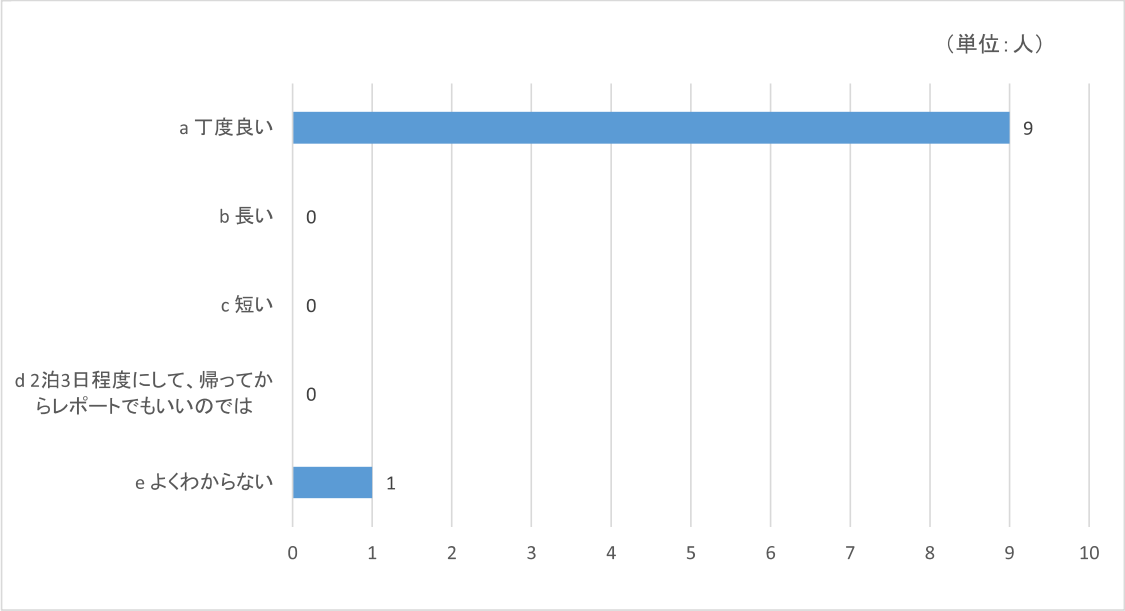
c.　普段経験できないことで、楽しかったと回答

〇持ってくるものをもう少し詳しく説明してほしかった。

〇料理が美味しくてボリュームもよかった。

〇寝室の冷房がかなり効いていて、少し寒かった。

10－1. 3 泊 4 日の日程はどうでしたか？



10－2. 10－1 において、『丁度良い』以外の回答の方は何日程度であれば良いと思いますか？
e.　よくわからないと回答
〇人によるのでわからない。

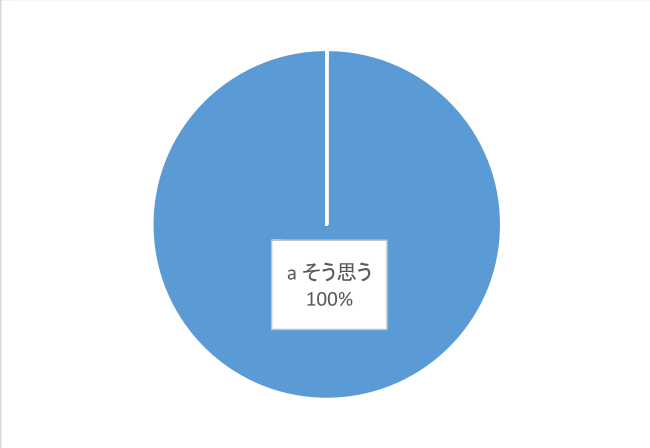
11. 全体として今回の科目の感想はいかがでしたか？

		（人）
a	良かった、興味深かった	10
b	まあまあ良かった	0
c	あまり面白くなかった	0
d	まったく面白くなかった	0

12. 全体を通して記述することがあれば書いてください。
〇これで 2 単位ももらって良いかなと思うくらい楽しかったです。
〇とてもおもしろくて、一生の思い出になった。
〇学びがありました。
〇静岡から広島に引っ越してきたばかりだったので、あまり知らなかった瀬戸内海のことをよく学べてとてもいい経験になった。
〇貴重な体験をすることができた。

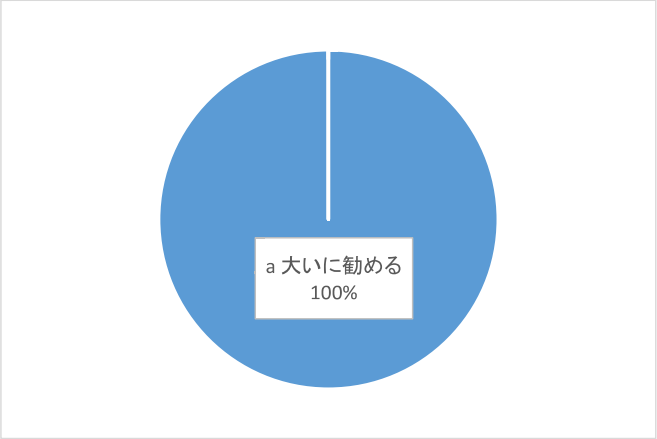
13. こういった科目を来年度以降も開講したほうが良いと思いますか？

		（人）
a	そう思う	10
b	別に思わない	0
c	どちらでも良い	0
d	内容を大幅に変えたほうが良い	0



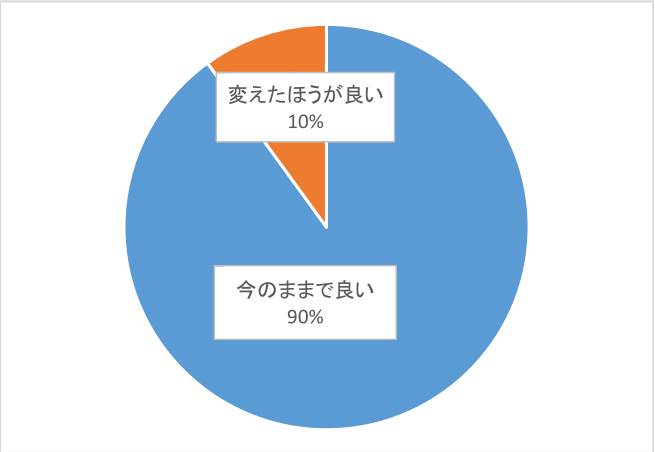
14. 後輩には、今回の科目の受講を勧めますか？

		（人）
a	大いに勧める	10
b	まあまあ勧める	0
c	特に勧めない	0
d	勧めない	0



15－1. あなたがまた乗船するとして、どのような実習内容を望みますか？

		（人）
a	今のままで良い	9
b	変えたほうが良い	1



15－2. 15－1 で『変えたほうが良い』と回答した方は具体的に理由を書いてください。（原文のまま）

〇事前に採集方法についての座学があれば、実習内容がより身についたと思う。

（１）シラバス　《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

＊科目 No.	2114

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学　生物生産学部		開催方法	■対面（　練習船豊潮丸　） ~~□オンライン（同時・録画・資料提示）~~ ~~□その他（　　）~~	
	2. 正式科目名 副題	Blue Growth を目指したオーダーメイド洋上演習		配当年次	4
				受入学年	3－4
	学問分野	番号	33	名称	水産学
3. 担当教員名	小池 一彦，小原 静夏				
4. 単 位 数	2 単位	5. 開講学期	前期集中		
6.開講期間 曜日・時間	2023 年　9 月　20 日（水）～　2023 年　9 月　22 日（金）				
7.基礎知識の有無	・「基礎知識を必要とする科目」　（　持ち込みテーマを遂行できる能力・技術　） ~~・「基礎知識を必要としない科目」~~				
8.募集人数	8　人	9.選考方法	持ち込みテーマ内容・実現性の審査		
10. 科目内容・ 授業計画	【科目内容】　広島大学生物生産学部附属練習船・豊潮丸は，令和 4 年度より第三期教育関係共同利用拠点に認定され，学外に向け共同利用の機会を提供しています。新たに提供する本科目では，EU で採択され，日本も参画している「Blue Growth」（沿岸・海洋の保全を保ちつつ，新たな価値と雇用を生み出すイノベーション）に関連して，現地見学・観測・学生同士のディスカッションを通じて提案書を作成します。Blue Growth で重要視される 5 つのセクター（①バイオテクノロジー，②再生可能エネルギー・脱炭酸社会，③漁業・養殖，④ツーリズム，⑤海洋資源）に関連し「持ち込みテーマ」（2 人ペア×4 テーマ）を募集します。 ◎基本的には水産・環境系の研究室に所属する，卒業論文研究を実施している学生（2 人組）とします。文系・理系は問いません。 ◎演習の 3 ヶ月前を目処に，所属する大学の指導教員と相談の上，上記のセクターに合致するテーマをメールにてお知らせ下さい（担当；小池 kazkoike@hiroshima-u.ac.jp，小原 oharashizu@hiroshima-u.ac.jp）。いかなるテーマにおいても持続的な開発目標（SDGs）や脱炭素社会への貢献を念頭に置いて下さい。 ※拠点経費から各テーマ，二万円までの消耗品を広島大学が負担します。 ◎予定航走ルート（呉→尾道→福山→尾道→呉）に沿って持ち込みテーマを実施します。③漁業・養殖，④ツーリズムに関しては相談の上，見学・体験場所を設定します。それ以外は観測点，使用する観測機器を綿密に打ち合わせの上実施します。 【授業計画】想定されるスケジュール・内容（一例） 9/20（水） 　午前：広島県呉市の練習船基地に集合，出港，船内ブリーフィング 　午後：尾道に向け航行，その途中で採水（例；有用細菌・藻類の分離，など） 9/21（木） 　午前：尾道出港，福山市沖に停泊，漁業現場の見学・漁業者インタビュー 　午後：ツーリズム見学。他テーマは船内で測定・観測・採集 9/22（金） 　午前：福山出港，呉に向け（夕方に到着予定）。船内プレゼンテーション				

様式 2

11. 試験・評価方法	受講態度 50 点，指導教員による評価 50 点		
12. 別途負担費用	約 4,000 円程度（初日昼食～3 日目昼食まで毎食分，シーツ洗濯代など） ※ 現地で徴収 ※ 持ち込みテーマに関わる経費は 2 万円の消耗品代から支出するか自費 ※ 乗下船地への旅費は自己負担 ※ 開催 10 日前以降の履修の辞退の場合，食費該当分は支払いが必要		
13. その他特記事項	● 事前に学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（財団法人日本国際教育支援協会）に加入しておいてください。 ● 広島大学の新型コロナウイルス感染防止対策レベルに応じ，乗船最大人数，乗船前 PCR 検査の必要性，等の要件が異なります。実習 1 ヶ月前を目処に，対策レベルに応じた行動要件を通知します。対策レベルにかかわらず，以下の 3 点は厳守していただきます。 1. 演習開始直近 2 週間、毎日検温を行い体温が 37.5℃を超えていないこと。 2. 2 週間分の健康確認・行動記録表を作成し、演習に持参すること。 3. 演習当日の体温が 37.5℃以下であること。 ● 集合時間（別途通知）を厳守してください。欠員があっても定刻に出港します。 ● 集合・解散場所：広島大学生物生産学部 附属練習船基地 〒737-0029 広島県呉市宝町 7-4（電話 0823-23-4853） JR 広島駅から JR 呉駅約 35 分（快速），JR 呉駅より徒歩約 15 分 練習船基地 位置図 https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/kiti/kitimap.html ● 各自持参するもの：医療保険証，運動靴，船酔止薬，作業着（長袖，長ズボン，帽子），ノート PC（必須），筆記用具，洗面具，タオル，入浴用品，身の回り品等 ※ショートパンツ,ランニングシャツ，サンダル等では作業できません。 ※長靴，雨具は貸与します。 ※タオル，入浴用品は船内に備えていません。各自持参して下さい。 ● やむなく辞退する場合は，速やかに所属大学担当部署及び広島大学生物学系総括支援室に申し出て下さい。 ● 問い合わせ先：広島大学生物学系支援室（学士課程担当） 〒739－8528 東広島市鏡山 1－4－4 TEL：082－424－4323 E-mail：sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp ● 履修希望学生に対する連絡：履修決定者には担当者より履修願に記載されたメールアドレス宛に電子メールで連絡があります。履修希望届を提出した学生は，担当者のメールアドレス（担当；小池 kazkoike@hiroshima-u.ac.jp，小原 oharashizu@hiroshima-u.ac.jp）からの電子メールを受信できるように設定し，電子メールを定期的に確認してください。また，メールアドレスを変更した場合は，速やかに所属大学担当部署と広島大学生物学系総括支援室に必ず連絡してください。 ＊ 新型コロナウイルスの感染状況や天候等の理由により，大幅な計画変更あるいは実習中止となる可能性があります.		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

（２）受講者・参加大学

受講者名簿（男性4名　女性 1名 ）

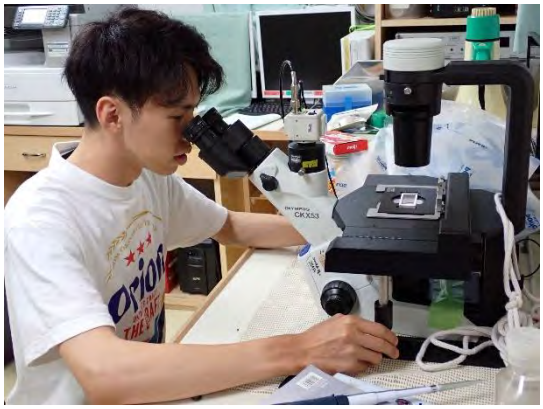
No	大学名	所属	学年	性別
1	県立広島大学	生物資源科学部	4	男
2	県立広島大学	生物資源科学部	4	男
3	県立広島大学	生物資源科学部	4	男
4	広島大学	生物生産学部	4	男
5	広島大学	生物生産学部	4	女

（３）実習風景

実習の様子

ニスキン採水器を降ろしている間に表層水をボトルに詰める

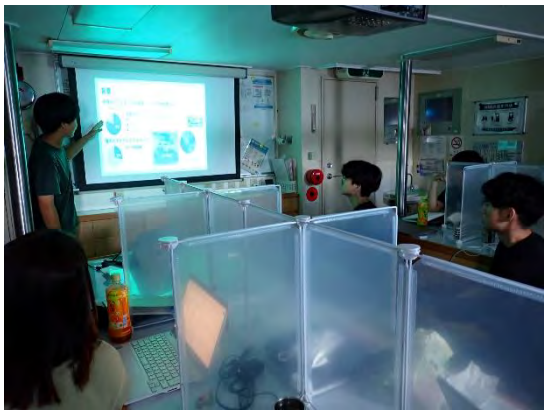
プランクトンネットによる植物プランクトンの採集



海水中の植物プランクトンを計測

実験用のカイアシ類を取り上げる

シーカヤックに乗って海況の変化を実体験



卒業論文について紹介する研究交流会

タイラバ釣り実習

釣果（学生はマダイを 2 匹釣りました）

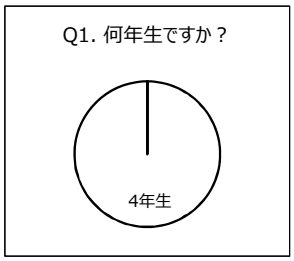
（４）受講生によるアンケート評価

受講生1　受講生2　受講生3　受講生4

Q1. 何年生ですか。

４年生　４年生　４年生　４年生

項目	回答数
4年生	4

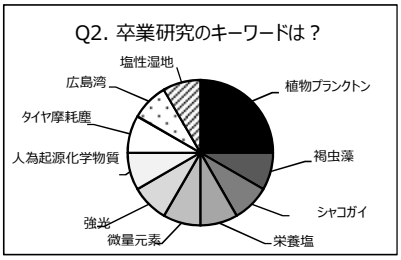


担当教員コメント：
今回は学部４年生のみが参加したが
大学や学部によって卒論配属時期が異なるため，今後も卒論生を広く受け入れていきたい。

Q2.　あなたの卒業研究のキーワードを３つを書いてください（例：植物プランクトン，基礎生産，栄養塩）。

植物プランクトン　塩性湿地　栄養塩
植物プランクトン　微量元素　広島湾
褐虫藻　シャコガイ　強光
植物プランクトン　人為起源化　タイヤ摩耗塵

項目	回答数
植物プランクトン	3
褐虫藻	1
シャコガイ	1
栄養塩	1
微量元素	1
強光	1
人為起源化学物質	1
タイヤ摩耗塵	1
広島湾	1
塩性湿地	1

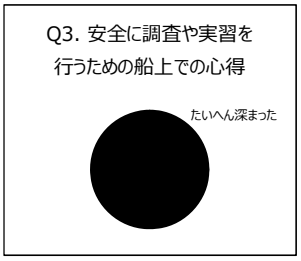


担当教員コメント：
今回はプランクトン関連の研究テーマばかりであった。他の水生生物や漁業経済学，物理化学分野など幅広いテーマの卒論生も受け入れていきたい。

Q3.　本実習によって，安全に調査や実習を行うための船上での心得に関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	4

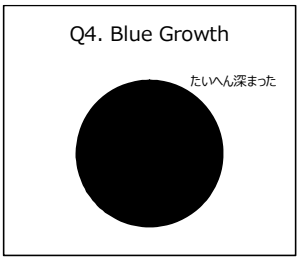


担当教員コメント：
特に船を持たない大学の学生にとっては体験しながら学ぶよい機会となるようだ。卒論研究の一環として船に乗ることで学内者にとっても主体的に安全な調査を心がけるきっかけになったようだ。

Q4.　本実習によって，Blue Growthに関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	4

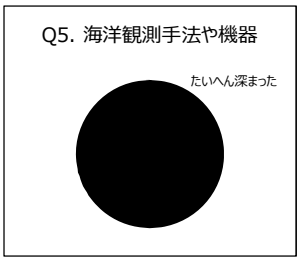


担当教員コメント：
Blue Growthというワードは受講生皆知らなかったが，講義や実習を通してそれぞれが環境への影響を最小限にしながら沿岸を発展させるアイディアを考え，発表した。

Q5.　本実習によって，海洋観測手法や機器に関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	4

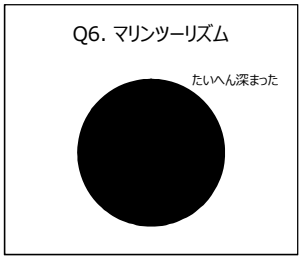


担当教員コメント：
海洋観測では高価な機器も多く，正しく使わなければ壊れてしまうことも珍しくない。正しい手順と扱い方を一つ一つ確認しながら観測した。

Q6.　本実習によって，沿岸ツーリズムに関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	4

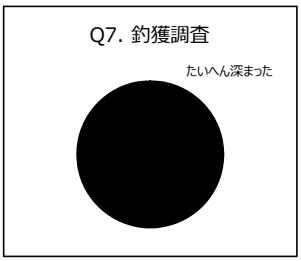


担当教員コメント：
今回はシーカヤックを体験した。シーカヤックそのものも楽しみつつ，途中で生き物を見つけたり，沿岸にある島々の歴史に触れたりと，沿岸でのツーリズムの広がりを体験した。

Q7.　本実習によって，釣り調査に関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	4
やや深まった	0

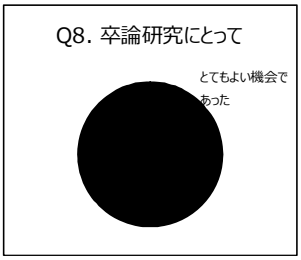


担当教員コメント：
タイラバでの釣り実習を行い，マダイを２匹釣りあげた。釣れた学生も釣れなかった学生も長い時間，真剣に取り組んでいた。

Q8.　本実習は，あなたの卒業研究にとって有益な知識やデータを得る機会になりましたか。

5　5　5　5

項目	回答数
とてもよい機会であ	4

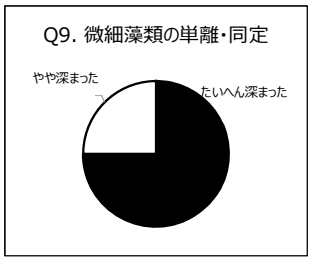


担当教員コメント：
それぞれが卒論に使うデータを取得したり，技能を習得したりした。また研究交流会を通して自身の研究を見つめ直すよい機会になったようだ。

Q9.　本実習によって，微細藻類の単離や同定に関して知識や理解が深まりましたか。

5　4　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	3
やや深まった	1

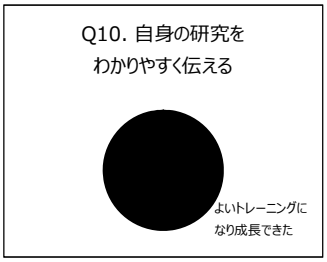


担当教員コメント：
オーダーメイド型の演習の一つとして，受講生が希望する演習をいれた。初めての単離作業ではキャピラリー作りに熱中していた。この演習をとおして単離株をつくる苦労を知り，研究室に戻っても株を大切にしてほしい。

Q10.　本実習によって，あなた自身の研究をわかりやすく伝えるトレーニングができましたか。

5　5　5　5

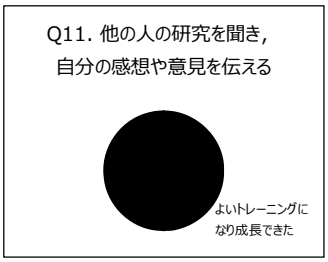
項目	回答数
よいトレーニングにな	4



担当教員コメント：
研究交流会では全員にテーマ発表や結果紹介をしてもらった。また全員が質問することを目標として臨んだ。実際に発表してみると説明が上手くいかなかったり，質問にうまく答えられなかったりすることも多い。他の人の発表をみて，自身の発表に活かせるところもあったようだ。

Q11.　本実習によって，　他の人の研究を聞き，自分の感想や意見を伝えるトレーニングができましたか。
5　5　5　5

項目	回答数
よいトレーニングにな	4



担当教員コメント：
ゼミや発表会で「質問する」ことは，発表者の研究発展や，質問者自身の理解のために必要なプロセスである。全員が質問することを目標として提示したからか，活発に質問し議論していた。よいトレーニングの機会となったと思う。

Q12.　その他，感想や要望などを自由に書いてください。

受講生

Blue Growthについて考える機会はなかったので、今回の経験から水産資源やマリンツーリズム等の見方が変わった。
とても楽しかった。知名度が低いのでもっと宣伝すると良いと思います。
違う分野の研究の話が聞けて面白かったです。単離についても学べて良かったです。
シーカヤックがスリリングで楽しかった

参考として

他大学の人の発表を聞けて、スライドの作り方、話し方など参考になる部分が大きかった。
Blue growthの考え方は議論の上でも一つ大事なので覚えて使えるようにします

担当教員コメント：
本実習ではBlue Growthをテーマとして多様なプログラムを組み込んでいる。中には卒論生自身の分野外の演習もあったが，それぞれが本実習から学ぶことがあったようである。今後はより他分野の学生を混ぜることで多様性に富んだ実習としたい。

（１）シラバス　《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

＊科目 No.	2116

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学　生物生産学部			開催方法	■対面（　練習船豊潮丸　） ~~□オンライン（同時・録画・資料提示）~~ ~~□その他（　　）~~	
	2. 正式科目名 副題	飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習			配当年次	2－3
					受入学年	2－3
	学問分野	番号	33	名称	水産学	
3. 担当教員名	小池 一彦，小原 静夏					
4. 単 位 数	１単位	5. 開講学期	後期集中			
6.開講期間 曜日・時間	2023 年　10 月　10 日（火）～　2023 年　10 月　11 日（水）					
7.基礎知識の有無	・「基礎知識を必要とする科目」　（　SDGs に関する基礎知識，英語会話能力） ~~・「基礎知識を必要としない科目」~~					
8.募集人数	3　人	9.選考方法	上級生から受入れ			
10. 科目内容・ 授業計画	【科目内容】　広島大学生物生産学部附属練習船・豊潮丸は，令和 4 年度より第三期教育関係共同利用拠点に認定され，学外に向け共同利用の機会を提供しています。新たに提供する本科目では，タイ・インドネシア・ミャンマー等のアセアンの中でも特に水産依存度が高い国々から来日した留学生と共に一泊二日の航海を体験します。特に SDGs 達成に貢献する水産人材を育成することを念頭に置き，瀬戸内海の水産業の見学，漁業者との対談，実際の海洋観測を通した問題発見から，世界の貧困人口が集中する沿岸域の持続的発展に，水産業がどのように貢献できるか学生同士で議論します。海に根ざした文化を理解するために，重要な文化財であり，沿岸漁業が盛んな大崎下島・御手洗地区への見学も含まれます。 ※全ての内容は英語にて実施します。 【授業計画】 10/10(火) 午前：広島県呉市の練習船基地に集合，出港，船内ガイダンス 午後：安芸灘で漁業現場の見学・漁業者インタビュー， 重要伝統的建造物群保存地区である大崎下島の御手洗地区を見学。 10/11(水) 午前：広島湾奥から湾口にかけて海洋観測実習；海底の状態の観察，食物連鎖の起点となる植物プランクトン生産量の測定 午後：各国の沿岸域における飢餓・貧困の現状紹介（事前準備のうえ学生同士のプレゼンテーションを実施），それを解決する方策の立案（学生プレゼンテーション）					
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点，計 2 回の船内プレゼンテーション 50 点					
12. 別途負担費用	約 3,000 円程度（初日昼食～2 日目昼食まで毎食分，シーツ洗濯代など） ※ 現地で徴収 ※ 乗下船地への旅費は自己負担 ※ 開催 10 日前以降の履修の辞退の場合，食費該当分は支払いが必要					

様式 2

13. その他特記事項	● 事前に学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（財団法人日本国際教育支援協会）に加入しておいてください。 ● 広島大学の新型コロナウイルス感染防止対策レベルに応じ，乗船最大人数，乗船前 PCR 検査の必要性，等の要件が異なります。実習 1 ヶ月前を目処に，対策レベルに応じた行動要件を通知します。対策レベルにかかわらず，以下の 3 点は厳守していただきます。 1. 演習開始直近 2 週間、毎日検温を行い体温が 37.5℃を超えていないこと。 2. 2 週間分の健康確認・行動記録表を作成し、演習に持参すること。 3. 演習当日の体温が 37.5℃以下であること。 ● 集合時間（別途通知）を厳守してください。欠員があっても定刻に出港します。 ● 集合・解散場所：広島大学生物生産学部 附属練習船基地 〒737-0029 広島県呉市宝町 7-4（電話 0823-23-4853） JR 広島駅から JR 呉駅約 35 分（快速），JR 呉駅より徒歩約 15 分 練習船基地 位置図 https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/kiti/kitimap.html ● 各自持参するもの：医療保険証，運動靴，船酔止薬，作業着（長袖，長ズボン，帽子），ノート PC（必須），筆記用具，洗面具，タオル，入浴用品，身の回り品等 ※ショートパンツ,ランニングシャツ，サンダル等では作業できません。 ※長靴，雨具は貸与します。 ※タオル，入浴用品は船内に備えていません。各自持参して下さい。 ● やむなく辞退する場合は，速やかに所属大学担当部署及び広島大学生物学系総括支援室に申し出て下さい。 ● 問い合わせ先：広島大学生物学系支援室（学士課程担当） 〒739－8528 東広島市鏡山 1－4－4 TEL：082－424－4323 E-mail：sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp ● 履修希望学生に対する連絡：履修決定者には担当者より履修願に記載されたメールアドレス宛に電子メールで連絡があります。履修希望届を提出した学生は，担当者のメールアドレス（担当；小池 kazkoike@hiroshima-u.ac.jp，小原 oharashizu@hiroshima-u.ac.jp）からの電子メールを受信できるように設定し，電子メールを定期的に確認してください。また，メールアドレスを変更した場合は，速やかに所属大学担当部署と広島大学生物学系総括支援室に必ず連絡してください。 ＊ 全ての内容は英語にて行います。新型コロナウイルスの感染状況や天候等の理由により，大幅な計画変更あるいは実習中止となる可能性があります.		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

（2）受講者･参加大学

受講者名簿（男性 3名　女性 8名 ）

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	生物生産学部	2	女
2	広島大学	生物生産学部	2	女
3	広島大学	生物生産学部	2	男
4	広島大学	生物生産学部	2	女
5	カセサート大学			女
6	カセサート大学			女
7	カセサート大学			男
8	カセサート大学			男
9	王立プノンペン大学			女
10	王立プノンペン大学			女
11	ボゴール農科大学			女

（３）実習風景

実習の様子

植物プランクトンの観察

海底泥の採集

船内見学（操舵室）

御手洗の街並み

釣り実習

豊潮丸の前で記念撮影

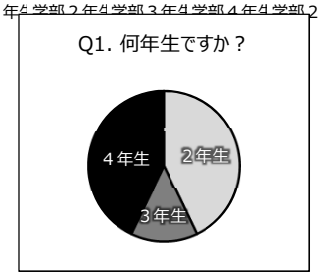
（４）受講生によるアンケート評価

受講生1	受講生2	受講生3	受講生4	受講生5	受講生6	受講生7	受講生8	受講生9	受講生10	受講生11

Q1. 何年生ですか。

学部４年生	学部４年生	学部２年生	学部２年生	学部３年生	学部４年生	学部２年生	0	0	0	0

項目	回答数
学部１年生	0
学部２年生	3
学部３年生	1
学部４年生	3

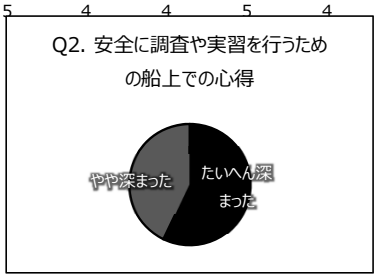


担当教員コメント：
受講生11名の内，7名から回答を得た。学部2年生から4年生までが参加した。生物生産学部の学生以外にカセサート大学（タイ），王立プノンペン大学（カンボジア），ボゴール農科大学（インドネシア）から参加者を得た。

Q2.　本実習によって，　安全に調査や実習を行うための船上での心得に関して知識や理解が深まりましたか。

5	5	5	4	4	5	4	0	0	0	0

項目	回答数
たいへん深まっ	4
やや深まった	3

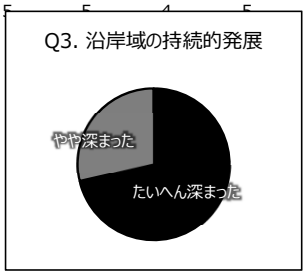


担当教員コメント：
船の上では陸上のフィールドワーク以上に危険が多いです。避難訓練や防火訓練，乗船説明をとおして安全に実習を行うことができました。

Q3.　本実習によって，沿岸域の持続的発展に関して知識や理解が深まりましたか。

5	4	5	5	4	5	5	0	0	0	0

項目	回答数
たいへん深まっ	5
やや深まった	2

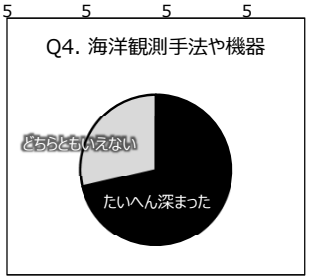


担当教員コメント：
本実習のテーマの一つでもある沿岸域の持続的発展について，海洋観測や現地視察，乗船後の発表会をとおして学びました。それぞれの母国のケースを紹介し，議論を交わすことでより学べたようでした。

Q4.　本実習によって，海洋観測手法や機器に関して知識や理解が深まりましたか。

5	3	5	5	5	5	3	0	0	0	0

項目	回答数
たいへん深まっ	5
やや深まった	0
どちらともいえな	2

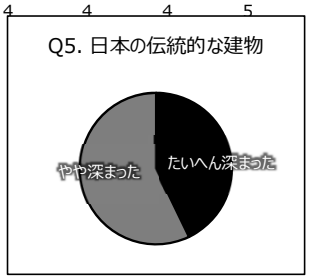


担当教員コメント：
2定点で海洋観測を行い，水質や底質の違いを比較しました。水質計による観測，プランクトンネット採集と観察，底泥の採集と観察を行いました。実習後の発表会では水質や底質について各班でまとめて発表をしてもらいました。理解度が低い学生がいたようですのでこれは来年度以降の課題として，よりわかりやすい説明を心がけたいと思います。

Q5.　本実習によって，　日本の伝統的な建物に関して知識や理解が深まりましたか。

5	4	4	4	4	5	5	0	0	0	0

項目	回答数
たいへん深まっ	3
やや深まった	4

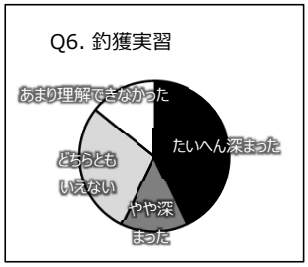


担当教員コメント：
本実習では大崎下島にある御手洗街並み保存地区を視察しました。瓦屋根や木製の建物，神社や寺など日本の伝統的な家屋を見学し，建物のつくりやその意味などについて学びました。実習後の発表では瓦屋根の種類やその意味などより深く細かく調べたことを紹介してもらいました。

Q6.　本実習によって，　釣り調査に関して知識や理解が深まりましたか。

5　3　5　3　4　5　2　0　0　0　0

項目	回答数
たいへん深まっ	3
やや深まった	1
どちらともいえな	2
あまり理解でき	1

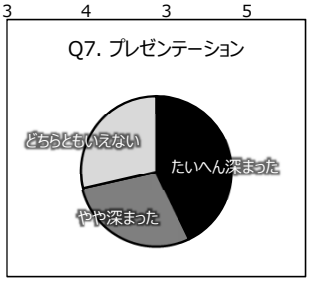


担当教員コメント：
釣り実習は1日目の夜のみ時間が取れました。豊潮丸独自のコロナ感染予防対策の影響で一部の学生は船外泊となり本実習に参加できませんでした。今回はタイラバによる釣りに挑戦しましたが，釣れたのはフグ1匹で，ほとんどの学生は釣果を得られず，残念に思ったようです。今後は昼の時間に全員でチャレンジできるとよいです。

Q7.　本実習は，プレゼンテーションに関して知識や理解が深まりましたか。

5　4　3　4　3　5　5　0　0　0　0

項目	回答数
たいへん深まっ	3
やや深まった	2
どちらともいえな	2

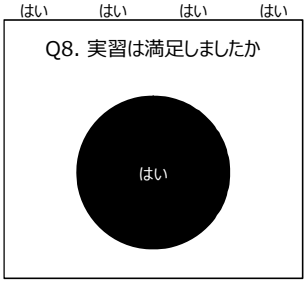


担当教員コメント：
班ごとにテーマをもって実習の数日後に発表会を行いました。テーマは海洋観測データの解析，船の操縦やエンジンについて，日本の伝統的な建物について，沿岸域の持続的発展について，など多種多様でした。どの発表も実習で得られたデータや情報をより整理し，さらに新しい知識も追加した面白い発表でした。プレゼンテーションの練習としてよい学びの場となったようです。

Q8.　本乗船実習の内容は満足しましたか。

はい　はい　はい　はい　はい　はい　はい　0　0　0　0

項目	回答数
はい	7
いいえ	0



担当教員コメント：
受講生の満足度は100％でした。今後も満足度を維持できるように努めていきたい

Q12.　その他，感想や要望などを自由に書いてください。

I like the cruise field trip so much.
I can understand about marine environment better than before and experience on the cruise with the beautiful sea.
（この乗船実習が大好きです。海の環境について実習前よりもよく理解でき，美しい海を航海する体験ができてよかったです。）
Thank you for this valuable experience! It was my second time to sail on the TOYOSHIO MARU,
but I had many first-time experiences such as using the CTD, seeing the plankton collected under a microscope,
and visiting the engine section. It was also a great opportunity to talk, eat, and
share time with international students on the sea, and it was a great way to deepen our friendship.
（価値のある体験をありがとうございます。豊潮丸への乗船は2回目でしたが，CTD観測やプランクトンの採集と観察，エンジンルームの見学など初めての体験がたくさんありました。海外の学生と交流し友人となるよい機会となりました。）

It was great experience. I learned a lot of things and enjoyed it very much.
（素晴らしい経験でした。本実習を通してたくさんのことを学び，とても楽しみました。）

担当教員コメント：
実習内容は他の乗船実習とくらべ，国際色豊かなところがポイントです。今後も様々な国からの参加を募集するとともに日本人学生が英語で学んだり，国際交流する場として有効に活用していきたいです。

様式 2

（１）シラバス

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

＊科目 No.	2118

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学　生物生産学部			開催方法	☑対面（附属練習船豊潮丸） □オンライン（同時・録画・資料提示） □その他（　　）	
	2. 正式科目名 副題	里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習 《練習船豊潮丸で学ぶ広島湾の SDGs》			配当年次	1～４
					受入学年	1～４
	学問分野	番号	33	名称	農学(水産学)	
3. 担当教員名	坂井陽一					
4. 単 位 数	１単位		5. 開講学期	後期集中		
6.開講期間 曜日・時間	2023 年　12 月　21 日（木）～　2023 年　12 月　22 日（金）					
7.基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」					
8.募集人数	10 人		9.選考方法	書類選考		
10. 科目内容・ 授業計画	広島大学生物生産学部附属練習船・豊潮丸は，令和 4 年度より第三期教育関係共同利用拠点に認定され，学外に向け共同利用の機会を提供しています。新たに提供する本科目では，練習船豊潮丸の１泊２日の広島湾航海への乗船を通じて，森・川・海のつながりと恵みに関する学びを深めます。森は自然林の残る宮島、川は太田川、海は阿多田島という代表的なフィールドを巡ります。 本科目での SDGs 学習ポイントは以下の３つです。 ・海洋水質調査から豊かな栄養分が海へと供給されるプロセスを理解 ・牡蠣養殖とカタクチイワシ漁業を通じて栄養豊かな水が育む水産資源を理解 ・釣りによる魚類採集調査から広島湾の魚類生態系の実態を理解 これらの複合的な体験学習を通じて、里海広島湾における森・川・海のつながりの大切さを実感として理解してもらいます。 実施内容（航海予定） 12/21(木)9:00 練習船基地（呉）集合，10:00 乗船・出港，漁船操業の視察と船内講義，11:00 水質調査（太田川河口付近），昼食,12:30 牡蠣養殖の学習,15:30 宮島入港,自然観察散策,夕食,釣り調査,レポート作成 12/22(金)8:00 宮島港出港，9:00 水質調査（宮島沖），カタクチイワシ漁操業視察，昼食，11:00 釣り調査，13:00 船内講義，レポート発表，船内清掃，15:30 修了式（呉基地），解散 ＊寄港先の都合，新型コロナウイルス感染症の状況等により，予定の変更・中止が生じる場合があります。					
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点，発表とレポート 50 点で評価する。					
12. 別途負担費用	約 3,000 円程度（12 月 21 日昼食～22 日昼食まで毎食分，シーツ洗濯代など） ● 集合解散場所の事前事後の交通費は自己負担となります。 ● 開催 10 日前以降のキャンセルについては乗船期間中の船内食事代全額を負担していただきます。					

様式 2

13. その他特記事項	● 事前に学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（財団法人日本国際教育支援協会）に加入しておいてください。 ● 広島大学の新型コロナウイルス感染防止対策レベルに応じ，乗船最大人数，乗船前 PCR 検査の必要性，まん延防止措置・緊急事態宣言発出の都道府県への移動履歴等の要件が異なります。実習 1 ヶ月前を目処に，対策レベルに応じた行動要件を通知します。対策レベルにかかわらず，以下の 3 点は厳守していただきます。 1. 演習開始直近 2 週間、毎日検温を行い体温が 37.5℃を超えていないこと。 2. 2 週間分の健康確認・行動記録表を作成し、演習に持参すること。 3. 演習当日の体温が 37.5℃以下であること。 ● 集合時間（別途お知らせします）を厳守してください。欠員があっても定刻に出港します。 ● 集合・解散場所：広島大学生物生産学部 附属練習船基地 〒737-0029 広島県呉市宝町 7-4（電話 0823-23-4853） JR 広島駅から JR 呉駅約 35 分（快速），JR 呉駅より徒歩約 15 分 練習船基地　位置図 https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/kiti/kitimap.html ● 各自持参するもの 医療保険証，運動靴，船酔止薬，作業着（長袖，長ズボン，帽子），ノート PC（必須），筆記用具，洗面具，タオル，入浴用品，身の回り品等 ※ショートパンツ,ランニングシャツ，サンダル，スリッパ等では作業できません。 ※長靴，雨具は貸与します。 ※タオル，入浴用品は船内に備えていません。各自持参して下さい。 ● やむなく辞退する場合は，速やかに所属大学担当部署及び広島大学生物学系総括支援室に申し出て下さい。 ● 問い合わせ先：広島大学生物学系総括支援室（学士課程担当） 〒739－8528 東広島市鏡山 1－4－4　TEL：082－424－4323 E-mail：sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp ● 履修希望学生に対する連絡 履修決定者には担当者より履修願に記載されたメールアドレス宛に電子メールで連絡があります。履修希望届を提出した学生は，担当者のメールアドレス（sakai41@hiroshima-u.ac.jp）からの電子メールを受信できるように設定し，電子メールを定期的に確認してください。また，メールアドレスを変更した場合は，速やかに所属大学担当部署と広島大学生物学系総括支援室に必ず連絡してください。 ＊ 新型コロナウイルスの感染状況により，大幅な計画変更あるいは実習中止となる可能性があります。		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

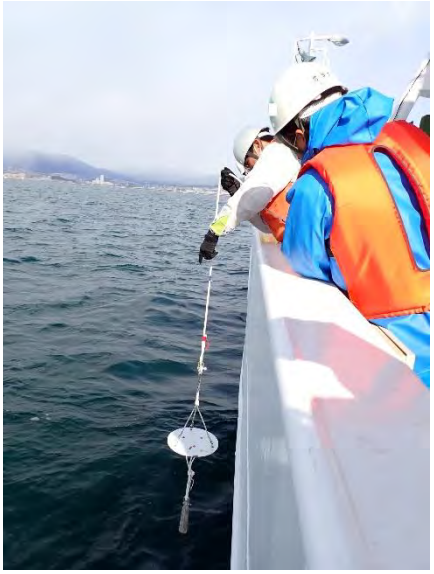
（2）受講者・参加大学

受講者名簿（男性4名　女性 4名 ）

No	大学名	所属	学年	性別
1	北里大学	海洋生命科学部海洋生命科学科	4	女
2	北里大学	海洋生命科学部海洋生命科学科	4	女
3	北里大学	海洋生命科学部海洋生命科学科	4	女
4	広島大学	生物生産学部	1	男
5	広島大学	生物生産学部	1	男
6	広島大学	生物生産学部	2	男
7	広島大学	生物生産学部	4	男
8	広島大学	総合科学部	3	女

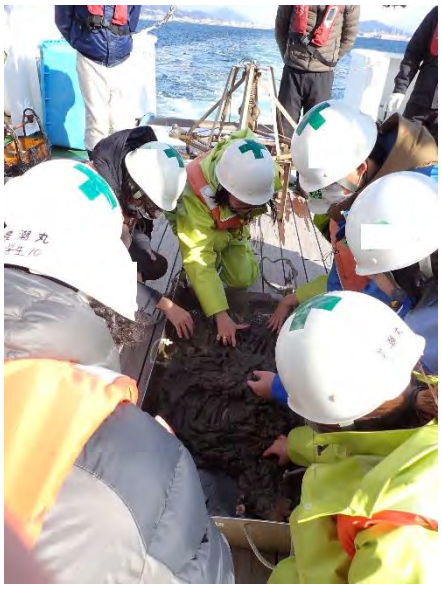
（３）実習風景

実習の様子

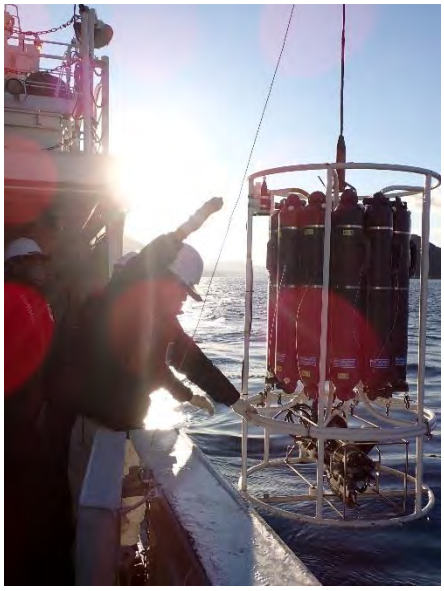


透明度板を使った海の濁り具合の調査

プランクトン採集



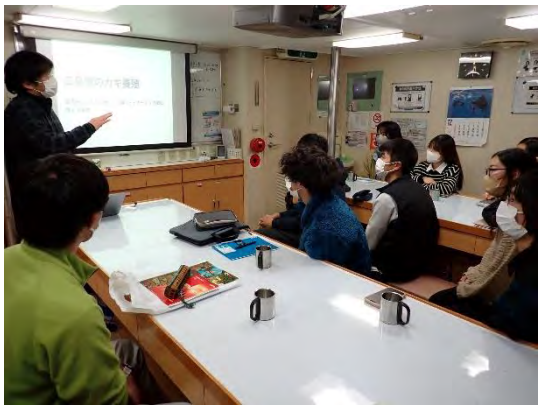
海底泥の採集・観察



大型の水質計を使用

採集したプランクトンの観察

宮島上陸；みやじマリン



広島湾やカキ養殖についての講義

釣果（キチヌ）

2 日目の釣果（マダイ）

修了証をもって記念撮影

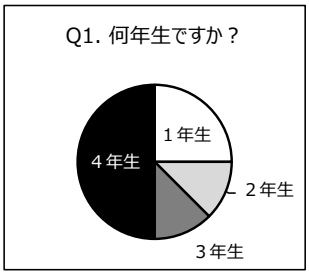
（４）受講生によるアンケート評価

受講生1　受講生2　受講生3　受講生4　受講生5　受講生6　受講生7　受講生8

Q1. 何年生ですか。

学部２年生　学部１年生　学部４年生　学部３年生　学部４年生　学部１年生　学部４年生　学部４年生

項目	回答数
学部１年生	2
学部２年生	1
学部３年生	1
学部４年生	4

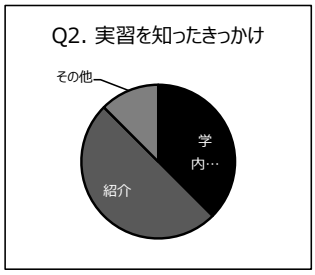


担当教員コメント：
今回は学部１～４年生までが参加した。
今後も様々な大学，学部，学年から受講生を広く受け入れていきたい。

Q2. 本実習を知ったきっかけは何ですか。

学内の掲示　教員や事務　学内の掲示　履修登録　教員や事務　学内の掲示　教員や事務　教員や事務，友人から紹介

項目	回答数
学内掲示	3
紹介	4
その他	1



担当教員コメント：
学内掲示や教員などからの紹介によって本実習を知った学生が多かった。
今後も積極的に広報して受講生を獲得していきたい。

Q3.　本実習によって，安全に調査や実習を行うための船上での心得に関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　5　4　5　5　5

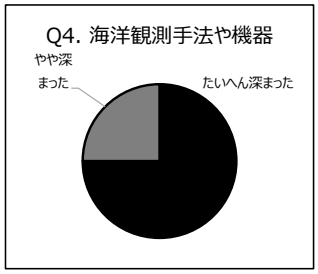
項目	回答数
たいへん深まった	7
やや深まった	1

担当教員コメント：
普段の野外調査よりも危険が多い乗船実習ですが，受講生は教員や船員の指示をよく聞いて安全に実習を終えることができた。

Q4.　本実習によって，海洋観測手法や機器に関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　5　4　4　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	6
やや深まった	2

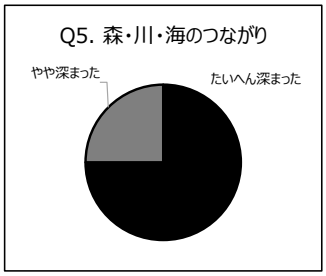


担当教員コメント：
海洋観測では高価な機器も多く，正しく使わなければ壊れてしまうことも珍しくない。
正しい手順と扱い方を一つ一つ確認しながら観測した。

Q5.　本実習によって，森・川・海のつながりに関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　4　4　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まった	6
やや深まった	2

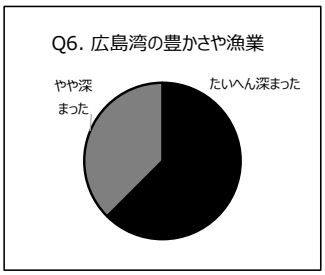


担当教員コメント：
本実習のテーマでもある森・川・海のつながりについて，講義で知識として学ぶだけでなく，実際の観測データや生き物の採集をとおして体験できた。

Q6.　本実習によって，広島湾の豊かさや漁業（カキ養殖，シラス漁）に関して知識や理解が深まりましたか。

5　4　5　4　4　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まっ	5
やや深まった	3

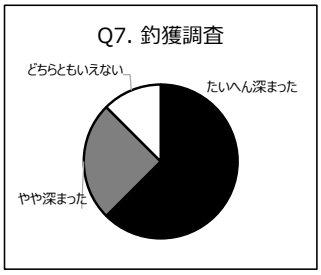


担当教員コメント：
カキ養殖場を見学後，講義でさらに詳しく養殖プロセスを学んだ。海洋観測や講義をとおして広島湾の豊かさの要因を知ることができた。シラス漁については実際に見学はできなかったが，むしろ自然相手の仕事であることを実感できた。

Q7.　本実習によって，釣り調査に関して知識や理解が深まりましたか。

5　3　5　4　4　5　5　5

項目	回答数
たいへん深まっ	5
やや深まった	2
どちらともいえな	1

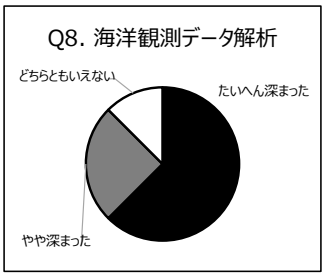


担当教員コメント：
タイラバや釣り餌での釣獲調査を行い，キチヌ１匹，マダイ６匹という大きな釣果を得た。学生たちは極寒の中，長時間釣りに真剣に取り組んでいた。釣れなかった学生は大変悔しい思いをしたようだが，これも今後の糧にしてほしい。

Q8.　本実習は，あなたの海洋観測データの解析に関して知識や理解が深まりましたか。

5　5　5　4　4　5　3　5

項目	回答数
たいへん深まっ	5
やや深まった	2
どちらともいえな	1

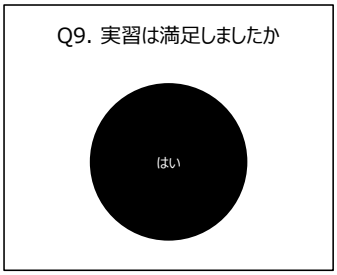


担当教員コメント：
受講生が観測したデータを実際に解析する講義をおこなった。時間の都合上，学生たち自身にデータを整理してもらうことができず残念であったが，観測データをとお

Q9.　本実習全体を通して満足しましたか。

はい　はい　はい　はい　はい　はい　はい　はい

項目	回答数
はい	8
いいえ	0



担当教員コメント：
受講生の満足度は100%だった。今後も満足度を維持できるように努めていきたい。

Q12.　その他，感想や要望などを自由に書いてください。

とても楽しかった。また船に泊まることのできる貴重な機会だったので参加できて良かった。
次こそタイラバ釣りで成果が欲しいです。
非常に楽しかったです。冬季だけでなく夏期にも行っていただけると嬉しいです。季節での変化も観測したいです。
とても楽しく学ぶことも多く、満足な実習でした。ありがとうございました！
実習の中で瀬戸内海について知識を得られ、また広島大の方々とコミュニケーションを取る中で、非常に刺激をいただけました。貴重な機会をありがとうございました。
他の実習と重なる部分（ブリッチ、機関室の説明）が同じだったなと思いました。
ありがとうございました。
短い期間でしたが、豊潮丸は乗り心地がよく、ブランクトンネットや釣りでの生物採集もできて、楽しく充実した実習になりました。ありがとうございました。

担当教員コメント：
実習内容は今後もグレードアップできるように努めていきたい。
海洋観測や生物採集は季節による影響を強く受けるため，実習の時期も今後さらに検討していきたい。
全体として満足度の高い実習であった。今後も楽しく充実した実習を目指していきたい。

（１）シラバス

2023年度後期　e-STARTプログラム コース9／e-START Program course9

所属・職名 School, Job Title	大学院統合生命科学研究科・生物資源科学プログラム Graduate School of Integrated Sciences for Life
氏名　Name ※共同実施者全員ご記入下さい	若林香織（准教授）、アニーシュ・T・パナクール（助教）、小原静夏（特任助教） Kaori Wakabayashi (Assoc. Prof.), Panakkool T. Aneesh (Assist. Prof.), Shizuka Ohara (Assist. Prof.)
メールアドレス Email address	kaoriw@hiroshima-u.ac.jp

① コーステーマ / Theme of the course
海洋観測をとおして考える海洋水産資源の持続的利用 Sustainable use of marine fishery resources: studies through the oceanographic observations
② 教養教育科目/Liberal Arts Subject
オンライン国際ゼミＡ（１単位） Online International Seminar A (1credit)

③ 共同実施先の大学名，国・地域名（２大学／国・地域以上ある場合は，欄を追加してください）
Overseas university(ies) to jointly conduct the course – add cells if needed

国・地域名１ Country/region	ペルー・リマ Peru / Lima	大学名１ Name of university	サンマルコス大学 National University of San Marcos
国・地域名２ Country/region	台湾・基隆 Taiwan / Keelung	大学名２ Name of university	臺灣海洋大学 National Taiwan Ocean University
国・地域名３ Country/region	インドネシア・スラバヤ Indonesia / Surabaya	大学名３ Name of university	アイルランガ大学 Airlangga University
国・地域名４ Country/region	インド・ケララ India / Kerala	大学名４ Name of university	ケララ大学 University of Kerala

④ コースでの使用言語/ Language to be used in the course	英語 English
⑤ 使用予定のオンラインツール /Communication platform used in the course	Microsoft Teams

⑥　対象学生等/Eligibility ※原則、最終セメスター学生は単位付与のタイミング上、「単位不要」での登録となる。 ※大学院生は学部の科目の単位付与可能	□学部生のみ/undergraduate student only □大学院生のみ/graduate student only ☑学部生・大学院生どちらでも/Both undergraduate and graduate student □教職員の見学可/ the visits are available for faculty and staff
⑦　曜日・時間/Day and Time 現時点で分かる情報をご提供ください	2024年3月1日～2024年3月22日 From 1 March 2024 to 22 March 2024
⑧　募集人数/Capacity	最小開講人数：4名/Minimum number of participants 最大募集人数：6名/Maximum number of participants
⑨　募集終了日 / Application due date	2024年　2月　9日

⑩　持っておくと望ましい背景知識
Recommended background knowledge

・海洋生物学や水産学に対する興味
Interest in Marine Biology, Fishery Biology, and Aquaculture Sciences
・生物学に関する基礎知識
Basic knowledge of Biology
・持続可能な開発目標14「海の豊かさを守ろう」の内容
Targets of the Sustainable Development Goal No. 14　“Life Below Water”

⑪　コース概要/ Outline of the course

水産資源への依存度が高い国々の学生が集い、海洋水産資源に関する基礎的な知識を学び、本学が所有する練習船豊潮丸を使って漁業や海洋観測の実際を現場またはオンラインで体験する。講義と現場体験から学んだことをグループワークによって議論しながら整理する。さらに、水産資源の持続利用に関するいくつかの課題について、グループワークによって探求する。

Students from five different countries that highly rely on the exploitation of fishery resources will participate in this course to learn the basic knowledge of marine fishery resources and to experience the fishery activities in a practice on the training vessel TOYOSHIO MARU onsite/online. Students will exchange their understandings from lectures and practice and opinions with other participants. They will then discuss issues related to the sustainable use of marine fishery resources.

⑫　コース内容詳細案　（必要に応じ補足資料を添付してください）
Detailed plan of the course (please attach supplementary documents if necessary)

(1) 講義 Plan of specialized lecture

時期/Period：Around　3月/month　1日/day　頃　～　3月/month　10日/day　頃

内容/Details：

① コーステーマに関連する数回の講義（各15－30分間）をオンデマンド形式で実施する。講義は参加大学に所属する教員による。（2023年3月1日～10日）
Several lectures (15–30 min for each session) related to the course theme will be given on demand. Lecturers will be the teaching staff belonging to each participating university. (1 to 10 March 2023)

② 洋上演習を通じて漁業や海洋生物に関する知識を深める。広島大学の学生は広島大学附属練習船「豊潮丸」に乗船し、現場で演習に参加する（演習経費2,430円を徴収します；呉市の豊潮丸基地に現地集合・解散）。海外大学の学生はオンラインで演習に参加できるよう、Microsoft Teams（またはZoom）を利用してリアルタイムで配信する。演習講師は沖縄科学技術大学院大学より招聘する。また、豊潮丸の過去の演習を収録したVR動画も活用する。詳細は「その他」を参照。（2023年3月6日～8日）
This marine practice will provide basic knowledge of fishery activities and marine organisms. Students from Hiroshima University will have an actual experience of using fishing gears and other oceanographic observation tools on the training vessel TOYOSHIO MARU (a cruise fee of 2,430 yen will be collected). The marine practice will be broadcasted for the students from overseas using Microsoft Teams (or Zoom). Instructor of this practice will be invited from Okinawa Institute of Science and Technology (OIST). VR 360 videos of the previous practices conducted on the training vessel will also be used. See “Others” for more details of the cruise. (6 to 8 March 2023)

時間数合計/Total hours：　10時間/hours

(2) グループワーク Plan of group work

時期/Period：Around　3月/month　11日/day　頃　～　3月/month　21日/day　頃

内容/Details：

5つの大学からの参加者が混合するように複数のグループを作り（各グループ3－5名）、講義や演習をとおして学習したことをグループ内で共有する。コーステーマに関連する課題を一つ掲げ、Microsoft Teams（またはZoom）を利用してグループ内で議論し、発表を準備する。
Participants from five universities will be mixed and distributed into several groups (3–5 students in a group). They will exchange their understandings from lectures and practice and opinions with other group members. Each group will select one subject related to the course theme and discuss the subject to prepare a presentation via Microsoft Teams (or Zoom).

時間数合計/Total hours：　7時間/hours

(3) グループ発表　Plan of final group presentation

時期/Period：Around　3月/month　19日/day　頃　～　3月/month　22日/day　頃

内容/Details：

各グループが、掲げた課題について整理した問題点や解決策などを発表する。発表は15～20分程度で準備し、Microsoft Teamsなどを通じてオンラインで実施する。

Each group will give a 15–20 min talk containing the topic orientation, problems, and the ideas of solution. The presentations will be done online using Microsoft Teams (or Zoom).

時間数合計/Total hours：　3時間/hours

⑬ その他/ Others

・広島大学の学生は1泊2日の瀬戸内海での洋上演習に参加します。演習経費は一人2,430円（食費1,200円、シーツクリーニング代1,230円）です。また、豊潮丸基地までの往復交通費は各自負担となります。現時点での演習日程は以下の通りです。

Students from Hiroshima University will join a 2-day cruise in the Seto Inland Sea. Cruise fee is 2,430 yen per person. Travel costs to and from the TOYOSHIO MARU Base will be borne by each student. Cruise plan at this moment is as follow:

1日目 Day 1 (6 or 7 March 2024)

12:30 呉市の練習船豊潮丸基地に集合 Gather at the base of training vessel in Kure
13:00 出港 Leave the Port
14:00 広島大学学生間の交流 Introduction
16:00 夕食 Dinner
17:00 演習準備・試験調査 Preparation and preliminary practice

2日目 Day 2 (7 or 8 March 2024)

7:00 朝食 Breakfast
8:00 演習① Practice 1
9:00 船内見学 Tour in the vessel
11:00 昼食 Lunch
12:00 演習② Practice 2
15:00 帰港 Return to the Port
解散 End

・海外大学の学生は、演習①または演習②にオンラインで参加する。Students from the overseas will join either Practice 1 or Practice 2 through Microsoft Teams (or Zoom).

（2）受講者・参加大学

乗船者　：　受講者名簿（男性4名　女性 2名 ）

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	生物生産学部	3	女
2	広島大学	生物生産学部	3	男
3	広島大学	総合科学部	1	男
4	広島大学	総合科学部	2	男
5	広島大学	統合生命科学研究科	1	男
6	広島大学	国際協力研究科	短期留学	女

オンライン受講者数

No	大学名	国	人数
1	アイルランガ大学	インドネシア	10
2	国立台湾海洋大学	台湾	6
3	国立サン・マルコス大学	ペルー	6
4	ケララ大学	インド	9

（３）実習風景

実習の様子

実習についての説明

デモンストレーションの様子
（環境 DNA を調べるための採水）

デモンストレーションの様子

海底動物の採集

植物プランクトンの観察

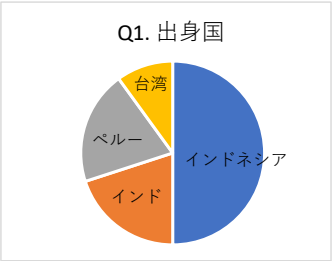
デッキ掃除

「e-STARTプログラム　コース9」アンケート

※「Virtual乗船プログラム」を含むコース全体のアンケートです。

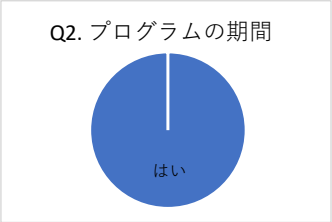
Q1. 出身はどこですか？

インドネシア	5
インド	2
ペルー	2
台湾	1



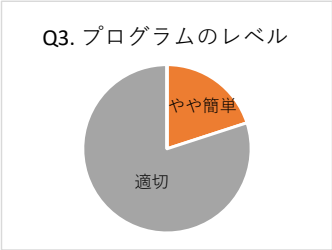
Q2. プログラムの期間は適切でしたか？

はい	10
いいえ	0



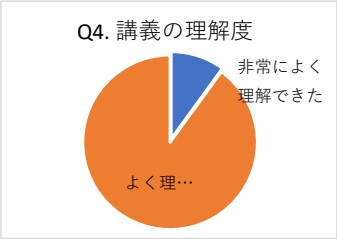
Q3. プログラムのレベルはどうでしたか？

とても簡単	0
やや簡単	2
適切	8
やや難しい	0
とても難しい	0



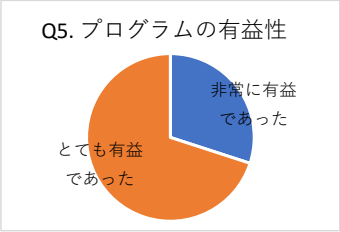
Q4. 講義はどの程度理解できましたか？

非常によく理解できた	1
よく理解できた	9
やや理解できた	0
あまり理解できなかった	0
全く理解できなかった	0



Q5. プログラムは有益でしたか？

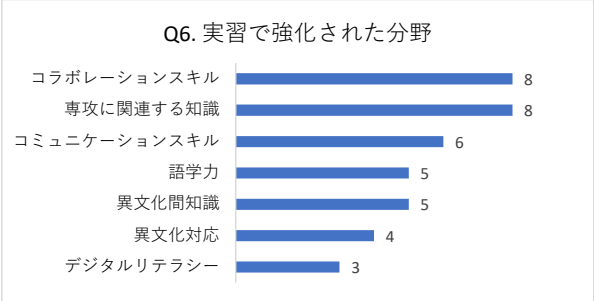
非常に有益であった	3
とても有益であった	7
やや有益であった	0
あまり有益ではなかった	0
全く有益ではなかった	0



Q6. Q5で「非常に有益であった」「とても有益であった」「やや益であった」を選択した場合、 強化された分野を3つまで選択してください。

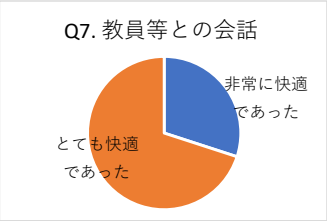
コラボレーションスキル	8
専攻に関連する知識	8
コミュニケーションスキル	6
語学力	5
異文化間知識	5
異文化対応	4
デジタルリテラシー	3

（※3つ以上選択の場合あり）



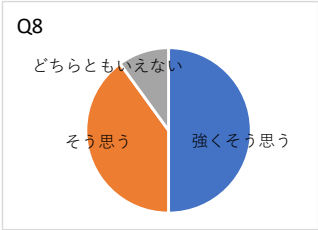
Q7. 教員やスタッフとの会話は快適でしたか？

非常に快適であった	3
とても快適であった	7
やや快適であった	0
あまり快適でなかった	0
全く快適でなかった	0



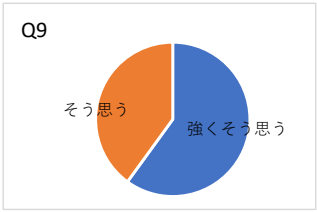
Q8. プログラムに参加して、国際交流や留学に対する考え方が変わったと思いますか？

強くそう思う	5
そう思う	4
どちらともいえない	1
そう思わない	0
強くそう思わない	0



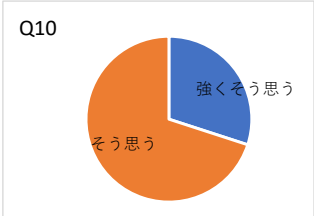
Q9. プログラムに参加して、第二言語や専門科目をもっと勉強したいと思うようになりましたか？

強くそう思う	6
そう思う	4
どちらともいえない	0
そう思わない	0
強くそう思わない	0



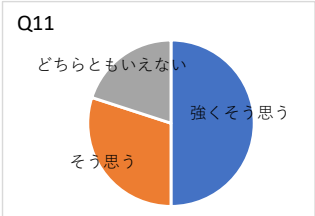
Q10. 文化の違いや類似点を意識し、敏感に感じるようになりましたか？

強くそう思う	3
そう思う	7
どちらともいえない	0
そう思わない	0
強くそう思わない	0



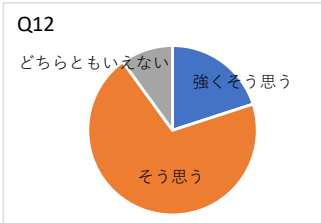
Q11. 母国語が異なる人々とのコミュニケーションに自信が持てるようになりましたか？

強くそう思う	5
そう思う	3
どちらともいえない	2
そう思わない	0
強くそう思わない	0



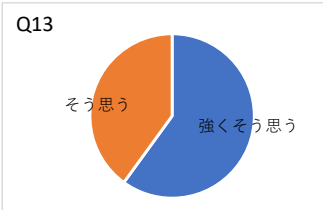
Q12. 自身の文化や個人的な視点をよりよく理解できるようになりましたか？

強くそう思う	2
そう思う	7
どちらともいえない	1
そう思わない	0
強くそう思わない	0



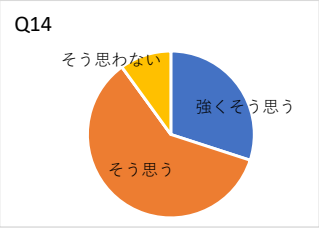
Q13. 他の国に勉強したり旅行したりすることに興味がわきましたか？

強くそう思う	6
そう思う	4
どちらともいえない	0
そう思わない	0
強くそう思わない	0



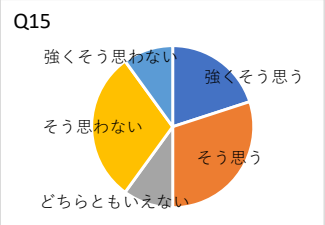
Q14. 協定校の国のニュースや出来事を常に把握しておくことに興味がわきましたか？

強くそう思う	3
そう思う	6
どちらともいえない	0
そう思わない	1
強くそう思わない	0



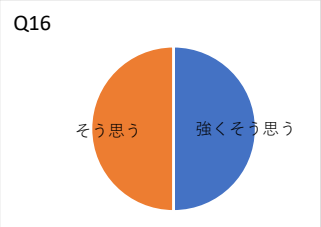
Q15. 同じ国、文化、宗教、社会経済的背景を持つ人々とのみ働くことに興味がありますか？

強くそう思う	2
そう思う	3
どちらともいえない	1
そう思わない	3
強くそう思わない	1



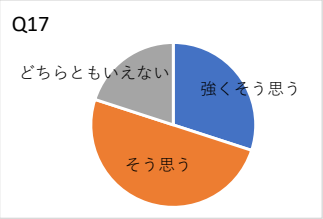
Q16. グローバルまたは国際的な問題について学ぶことに興味がわきましたか？

強くそう思う	5
そう思う	5
どちらともいえない	0
そう思わない	0
強くそう思わない	0



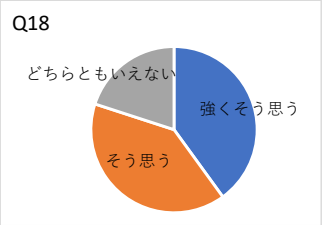
Q17. 国際協働を終え、複数の言語を話す必要性について異なる感じを受けましたか？

強くそう思う	3
そう思う	5
どちらともいえない	2
そう思わない	0
強くそう思わない	0



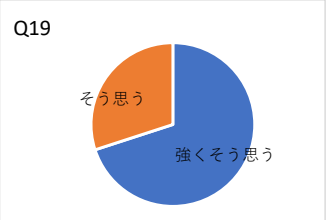
Q18. 国際協働は終わっても、協定校の学生とは連絡を取り合うことになりそうですか？

強くそう思う	4
そう思う	4
どちらともいえない	2
そう思わない	0
強くそう思わない	0



Q19. もしオンラインの国際協働で別のコースを受講できるなら、また受講したいですか？

強くそう思う	7
そう思う	3
どちらともいえない	0
そう思わない	0
強くそう思わない	0



Q20. プログラムに参加する前は、このプログラムに何を期待していましたか？
また、プログラムはどの程度期待に応えましたか?

〇コースが始まる前は、他の国の人々とコミュニケーションをとったり理解したりするのはとても難しいだろうと思っていました。
しかし、コースが始まってからは、先生や学生とのコミュニケーションはとても快適でやりやすかったです。
また、このテーマについて多くのことを学びました。
〇プレゼンテーションをすべて英語で行い、様々な国の人と出会うこと。完全に私の期待に応えていました。
〇参加者とコミュニケーションをとることや講義を理解するのは難しいと思っていました。
コミュニケーションはうまくとれ、講義もよく理解できました。
〇テーマについてもっと学ぶことを期待しました。プログラムはその期待に応えてくれました。
〇とても素晴らしい経験でした。プログラムでのテーマについて多くの情報を得ることができ、とても嬉しかったです。
〇漁業の潜在的な問題についてもっと探求したいという私の期待とよく一致していました。
このプログラムで様々な国から来た新しい友達がたくさんできました。
〇このプログラムが毎年開催されればいいなと思います。
〇私はコースに関連するテーマ、特に微細藻類と小型シークエンサーの使用に関して学ぶことを期待していました。
様々な大学の多くの学生と話をし、興味深い話を共有することができました。
〇新しい友達ができ、新しい知識を得ました。
〇期待に合っていました。お互いの国の知識を共有し、受け継ぐためにこのプログラムが必要と感じました。

Q21. プログラムで最も大変だったことは何ですか？

〇他者とのコミュニケーション
〇パートナーと議論して考えを変えること
〇議論のためにチームメイトを集めようとしたこと。連絡を取り合う方法がわからなかったため。
〇船舶機器の使用タイミング
〇良いプロジェクトをプレゼンテーションするために十分な情報を得ること
〇船上での実習をオンラインで体験すること
〇最終プレゼンテーション
〇言語。様々な国からの参加者がいたため。
〇プレゼンテーションと自己紹介

Q22. プログラムで一番良かったことは何ですか？

〇各国のタイムラインに従ったケジュール調整。おかげでとても快適に授業に参加できました。
〇チームメイトとのプレゼンテーション
〇チームメイトとの議論やプレゼンテーション
〇専門家との交流、練習船での実習、最終プレゼンテーション
〇他の国の友達に会えたこと。お互いにSNSで連絡を取り合っています。
自分の考えを他者と共有することで、コミュニケーションを改善することができました。
〇チームメイトとの議論
〇最終プレゼンテーション
〇ブルーエコノミーの展示会でお互いをよく知ることができました。
〇他の国の言語を学ぶことができ、新しい経験ができました。
〇すべてが素晴らしかったです。

Q23. どうすればプログラムを改善できますか？

〇もっとオンライン授業が増えるといいです。
〇特になし。素晴らしかったです！
〇プレゼンテーションの時間が改善できると思います。ほとんどのチームの発表が10分を超えていました。
〇特定のテーマについてより深く掘り下げ、難易度をワンランク上げること。
〇太平洋の海洋生物多様性に関する授業がもっと必要です。
〇日本で実際に実習に参加できると良いです。
〇もっといろんな国から人が来て、授業日数がもっと増えたらいいと思います。
〇日本で実際にこのプログラムに参加したいです。
〇実際に参加できたら素晴らしいと思います。

Q24. プログラムについてコメントをお願いします。

〇このプログラムは様々な国の人を繋ぐ素晴らしい取り組みであり、絆を深めてくれました。

〇世界の人々と学び、出会う絶好の機会でした。素晴らしいコースをありがとうございました！

〇このコースを開催していただき本当にありがとうございました。おかげで新しい経験と知識を得ることができました。

〇自分の専攻科目と合っていて、有益でした。

〇このような機会を与えていただきありがとうございました！

〇将来のキャリアに非常に役立ちます。

6. 受講生の負担金額

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

・受講生　1名当たり　　3,930 円

（内訳）

事項	単価（円）	数量・単位	3泊4日（円）
食事代（朝）	300	3 食	900
食事代（昼）	450	2 食	900
食事代（夕）	450	2 食	900
クリーニング代	1,230	1 回	1,230
計			3,930

2. Blue Growthを目指したオーダーメイド洋上演習

・受講生　1名当たり　　3,180 円

（内訳）

事項	単価（円）	数量・単位	2泊3日（円）
食事代（朝）	300	2 食	600
食事代（昼）	450	3 食	1,350
食事代（夕）	450	0 食	0
クリーニング代	1,230	1 回	1,230
計			3,180

3. 飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習

・受講生　1名当たり　　2,880 円

（内訳）

事項	単価（円）	数量・単位	1泊2日（円）
食事代（朝）	300	1 食	300
食事代（昼）	450	2 食	900
食事代（夕）	450	1 食	450
クリーニング代	1,230	1 回	1,230
計			2,880

4. 里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習

・受講生 1名当たり 2,880 円

（内訳）

事項	単価（円）	数量・単位	1泊2日（円）
食事代（朝）	300	1 食	300
食事代（昼）	450	2 食	900
食事代（夕）	450	1 食	450
クリーニング代	1,230	1 回	1,230
計			2,880

5. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム

・受講生 1名当たり 2,430 円

（内訳）

事項	単価（円）	数量・単位	1泊2日（円）
食事代（朝）	300	1 食	300
食事代（昼）	450	1 食	450
食事代（夕）	450	1 食	450
クリーニング代	1,230	1 回	1,230
計			2,430

7. 成績評価

（１）成績評価方法

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演
   受講態度５０点，発表・レポート５０点で評価する。
2. 飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習
   受講態度５０点，計２回の船内プレゼンテーション５０点で評価する。
3. Blue Growth を目指したオーダーメイド洋上演習
   受講態度５０点，指導教員による評価５０点で評価する。
4. 里海再生のための陸~川~海パートナーシップ策に関する演習
   受講態度５０点，発表・レポート５０点で評価する。
5. With/Post コロナ時代を見据えた Virtual 乗船プログラム
   洋上実習・グループディスカッションでの受講態度およびプレゼンテーションで評価する。

（２）成績評価基準

・秀（S），優（A），良（B），可（C）及び不可（D）の５段階評価とする。
・５段階評価の基準は，１００点満点で採点し，９０点以上を「秀（S）」，８０～８９点を「優（A）」，７０～７９点を「良（B）」，６０～６９点を「可（C）」とし，６０点未満は「不可（D）」とする。

第2章

共同利用の実績

他大学等共同利用状況

授業科目名等	実施期間	概要
海洋観測実習 （教育1）	5月28日～6月3日:台風中止	一般海洋観測 ・高知大学　単独
フィールド生態環境実習 （教育3）	6月14日～17日	一般海洋観測 ・福山大学生命工学部　教授2名、学部生30名
海洋生物学特別実習-3 （公開A3）	6月26日～27日	瀬戸内海におけるプランクトンの調査・観察 ・県立広島大学　准教授1名、学部生2名
海洋生物学特別実習-5 （公開A5）	7月24日～28日	有用生理活性物質開発の為の海洋生物採集 ・早稲田大学先進理工学部　教授1名、助教1名、学部生4名、院生3名
洋上里海総合演習 （教育8）	8月7日～10日	一般海洋観測 ・福山大学生命工学部　学部生9名
里海フィールド演習 （教育10）	8月28日～29日	一般海洋観測 ・鳥取大学農学部　学部生2名　・山口大学農学部　学部生4名 ・高知大学農林海洋科学部　学部生1名　・愛媛大学農学部　学部生3名 ・岡山大学農学部　学部生　2名
Blue Growth洋上演習 （教育13）	9月20日～22日	Blue Growthを目指したオーダーメイド洋上演習 ・県立広島大学　学部生3名
環境科学実践演習 （教育14）	9月25日～28日	一般海洋観測 ・香川大学農学部　教授1名、学部生13名
飢餓・貧困解決洋上演習 （教育15）	10月10日～11日	飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習 ・カセサート大学（タイ）学部生4名　・王立プノンペン大学（カンボジア）学部生2名 ・ボゴール農科大学（インドネシア）1名
体験実習1 （教育16）	10月14日～20日	一般海洋観測 ・北里大学　教授1名、院生5名
海洋生物学特別実習-6 （公開A6）	10月23日～28日	豊後水道における水産有用甲殻類の調査 ・北海道大学　助教1名　・福山大学　講師1名
体験実習2 （教育17）	11月6日～10日	一般海洋観測 ・北里大学　講師1名、学部生3名、院生2名
体験実習3 （教育19）	12月11日～15日	一般海洋観測 ・北里大学　講師1名、学部生1名、院生3名
練習船で学ぶ広島湾SDGs （教育20）	12月21日~22日	里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習 ・北里大学　学部生3名
Virtual プログラム （教育28）	3月6日～7日	With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム ・沖縄科学技術大学院大学　研究員1名 （オンライン参加） ・アイルランガ大学　教員1名、学生10名　・ケララ大学　学生9名 ・国立台湾海洋大学　学生6名　・国立サン・マルコス大学　学生6名

*共同利用は、原則として単位認定を伴う教育課程上の乗船実習を練習船保有大学が利用大学に提供することをいう。

区 分	令和5年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内	6	112	342
国立大学	8	27	48
公立大学	1	5	13
私立大学	5	67	191
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	15	118	170
外国の研究機関	3	7	14
その他	4	97	97
（うち大学院生）		（67）	（265）
計	42	433	875

* 大学の利用人数は学生の利用人数のみとした（教職員等の利用は含まない）。

* 交換留学プログラムによる利用は外国の研究機関に含めた。

令和5年度（2023度）　練習船共同利用拠点化における乗船実績

広島大学生物生産学部

練習船名	整理記号	航海期間	大学（含：準ずるもの） 広島大学内 教 院 学 研 職 計	延べ人数 教 院 学 研 職 計	広島大学外 教 院 学 研 職 計	延べ人数 教 院 学 研 職 計	大学外（その他） 研究機関・企業等 教 生 研 般 他 計	延べ人数 教 生 研 般 他 計	余席数	延べ余席数	航海区分
豊潮丸（256.00トン）	2301	4月10日 ～ 4月14日（5日）	統合生命科学研究科 1 3 1 0 0 5	5 15 5 0 0 25			水産研究・水産技術研究所 0 0 1 0 0 1	0 5 0 0 0 5	14	70	R C
	2302	4月17日 ～ 4月21日（5日）	統合生命科学研究科 1 2 2 0 0 5	5 10 2 0 0 17	東京大学院農学生命科学研究科 0 2 0 0 0 2	0 10 0 0 0 10	山陰海岸ジオパーク 0 0 0 1 0 1 なぎさ水族館 0 0 0 1 0 1 2	0 0 0 5 0 5 0 0 0 5 0 5 10	11	68	R C
	2303	4月26日 ～ 4月26日（1日）							20	20	K
	2304	5月8日 ～ 5月12日（5日）	統合生命科学研究科 2 3 1 0 0 6	10 15 5 0 0 30					14	70	T C
	2305	5月23日 ～ 5月24日（2日）	先進理工系科学研究科 2 6 0 0 2 10 工学部 0 0 5 0 0 5 15	3 9 0 0 4 16 0 0 8 0 0 8 24					5	16	R C
	2306	5月28日 ～ 6月2日（0日）			高知大学　中止				20	0	T C
	2307	6月11日 ～ 6月11日（1日）	統合生命科学研究科 1 0 15 0 0 16	1 0 15 0 0 16					4	4	T C
	2308	6月14日 ～ 6月17日（4日）			福山大学生命工学部 2 0 30 0 0 32	4 0 30 0 0 34			−12	46	T I
	2309	6月21日 ～ 6月23日（3日）	食料生産生理学 1 1 6 0 0 8	4 3 16 0 0 23					12	37	T C
	2310	6月24日 ～ 6月24日（1日）	総合生命科学研究科 1 0 13 0 0 14	1 0 13 0 0 14					6	6	T C
	2311	6月26日 ～ 6月27日（2日）	統合生命科学研究科 1 2 1 0 0 4	2 4 2 0 0 8	県立広島大学　1 0 2 0 0 3	2 0 4 0 0 6			13	26	T C
	2312	7月3日 ～ 7月7日（5日）	統合生命科学研究科 2 4 0 0 0 6 総合科学部 0 0 3 0 0 3 9	7 17 0 0 0 24 0 0 12 0 0 12 36					11	64	R C
	2313	7月10日 ～ 7月12日（3日）	統合生命科学研究科 1 5 1 0 0 7	3 15 3 0 0 21					13	39	T C
	2314	7月22日 ～ 7月22日（1日）	統合生命科学研究科 1 0 2 0 0 3 経済学部 0 0 3 0 0 3 工学部 0 0 14 0 0 14 総合科学部 0 0 8 0 0 8 文学部 0 0 1 0 0 1 29	1 0 2 0 0 3 0 0 3 0 0 3 0 0 14 0 0 14 0 0 8 0 0 8 0 0 1 0 0 1 29					0	0	T C
	2315	7月24日 ～ 7月28日（5日）	統合生命科学研究科 1 3 4 0 0 8	5 15 20 0 0 40	早稲田大学　2 3 4 0 0 9	10 15 20 0 0 45			3	15	T C

備考

航海区分

T：教育実習航海
R：調査実習航海
S：社会貢献航海
D：入渠補修工事
K：海上試運転

共同利用区分

単位認定を伴う
他大学利用

C　：混乗
I　：単独

その他の共同利用

乗船者区分

教：教員・教諭
院：大学院生
学：学部学生・研究生
職：事務員・技官
研：研究員・調査員

その他の共同利用

CO：便乗

その他の共同利用

CO：便乗
般：社会人
他：報道・マスコミ
その他

令和5年度（2023度）　練習船共同利用拠点化における乗船実績

広島大学生物生産学部

練習船名 豊潮丸 (256.00トン)	整理記号	航海期間	大学(含:準ずるもの) 広島大学内 教 院 学 研 職 計	延べ人数 教 院 学 研 職 計	広島大学外 教 院 学 研 職 計	延べ人数 教 院 学 研 職 計	大学外(その他) 研究機関・企業等 教 生 研 般 他 計	延べ人数 教 生 研 般 他 計	余席数	延べ余席数	航海区分
	2316	7月29日 ～ 7月29日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1 経済学部 0 0 2 0 0 2 工学部 0 0 17 0 0 17 総合科学部 0 0 6 0 0 6 文学部 0 0 2 0 0 2 28	1 0 0 0 0 1 0 0 2 0 0 2 0 0 17 0 0 17 0 0 6 0 0 6 0 0 2 0 0 2 28					0	0	T C
	2317	7月31日 ～ 7月31日 (1 日)					安田女子中学高等学校 1 18 0 0 0 19	3 32 0 0 0 35	0	0	S I
	2318	8月2日 ～ 8月2日 (1 日)	統合生命科学研究科 0 0 2 0 0 2	0 0 2 0 0 2			広島大学附属高等学校 1 22 0 0 0 23	1 22 0 0 0 23	0	0	S I
	2319	8月3日 ～ 8月3日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 1 0 0 0 2	1 1 0 0 0 2			広島国泰寺高等学校 2 19 0 0 0 21	2 19 0 0 0 21	0	0	S I
	2320	8月4日 ～ 8月4日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1 教育部 0 0 7 0 0 7 8	1 0 0 0 0 1 0 0 7 0 0 7 8	広島国際大学 0 0 4 0 0 4 4	0 0 4 0 0 4 4	江田島青少年交流の家 0 0 0 3 0 3 受講者 0 24 0 0 0 24 27	0 0 0 3 0 3 0 24 0 0 0 24 27	0	0	S I
	2321	8月5日 ～ 8月6日 (2 日)	統合生命科学研究科 2 0 3 0 0 5 総合科学部 0 0 26 0 0 26 31	4 0 6 0 0 10 0 0 26 0 0 26 36					0	4	T C
	2322	8月7日 ～ 8月10日 (4 日)	統合生命科学研究科 0 0 2 0 0 2	0 0 8 0 0 8	福山大学 0 0 9 0 0 9	0 0 36 0 0 36			9	36	T C
	2323	8月19日 ～ 8月19日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 1 1 0 0 3	1 1 1 0 0 3			大和ミュージアム 0 0 0 6 0 6 受講者 0 26 0 0 0 26 32	0 0 0 6 0 6 0 26 0 0 0 26 32	0	0	S I
	2324	8月21日 ～ 8月25日 (5 日)	統合生命科学研究科 0 0 11 0 0 11	0 0 55 0 0 55					9	45	T C
	2325	8月28日 ～ 8月29日 (2 日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1	1 0 0 0 0 1	鳥取大学農学部 0 0 2 0 0 2 高知大学農林海洋科学部 0 0 1 0 0 1 岡山大学農学部 0 0 2 0 0 2 山口大学農学部 0 0 4 0 0 4 愛媛大学農学部 0 0 3 0 0 3 12	0 0 2 0 0 2 0 0 1 0 0 1 0 0 2 0 0 2 0 0 4 0 0 4 0 0 3 0 0 3 12			7	27	T C
	2326	8月30日 ～ 8月31日 (2 日)	統合生命科学研究科 1 2 0 0 0 3	2 4 0 0 0 6			岩国市ミクロ博物館 0 0 0 2 0 2 受講者 0 30 0 0 0 30 32	0 0 0 4 0 4 0 30 0 0 0 30 34	0	0	S I

備考

航海区分

T：教育実習航海
R：調査実習航海
S：社会貢献航海
D：入渠補修工事
K：海上試運転

共同利用区分
単位認定を伴う

C ：混乗
I ：単独
院：大学院生
学：学部学生・研究生
職：事務員・技官
研：研究員・調査員
学：学部学生・研究生
職：事務員・技官
研：研究員・調査員
その他の共同利用

CO：便乗
その他の共同利用

般：社会人
他：報道・マスコミ
その他

令和5年度（2023度）　練習船共同利用拠点化における乗船実績

広島大学生物生産学部

練習船名	整理記号	航海期間	大学（含：準ずるもの） 広島大学内 教	院	学	研	職	計	延べ人数 教	院	学	研	職	計	広島大学外	教	院	学	研	職	計	延べ人数 教	院	学	研	職	計	大学外（その他） 研究機関・企業等	教	生	研	般	他	計	延べ人数 教	生	研	般	他	計	余席数	延べ余席数	航海区分	備考
豊潮丸（256.00トン）	2327	9月4日 ～ 9月8日（5日）	統合生命科学研究科	0	0	10	0	0	10	0	0	50	0	0	50																											10	50	T C	
	2328	9月11日 ～ 9月15日（5日）	統合生命科学研究科	0	0	11	0	0	11	0	0	55	0	0	55																											9	45	T C	
	2329	9月19日 ～ 9月19日（1日）	統合生命科学研究科	1	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	2													東広島市木谷小学校	3	17	0	3	0	23	3	17	0	3	0	23	0	0	S I	
	2330	9月20日 ～ 9月22日（3日）	総合生命科学研究科	1	1	2	0	0	4	3	3	6	0	0	12	県立広島大学	0	0	3	0	0	3	0	0	9	0	0	9													13	39	T C	
	2331	9月25日 ～ 9月28日（4日）														香川大学	1	0	13	0	0	14	2	0	26	0	0	28	川崎重工業	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	0	T I	
	2332	10月1日 ～ 10月7日（7日）	統合生命科学研究科 総合科学部	1 1	7 0	0 0	0 0	0 0	8 1 9	7 7	48 0	0 0	0 0	0 0	55 7 62																											11	78	R C	
	2333	10月10日 ～ 10月11日（2日）	統合生命科学研究科	2	1	4	0	0	7	3	2	7	0	0	12	カセサート大学 王立プノンペン大学 ボゴール農科大学	0 0 0	0 0 0	4 2 1	0 0 0	0 0 0	4 2 1 7	0 0 0	0 0 0	8 4 2	0 0 0	0 0 0	8 4 2 14													6	14	T C	
	2334	10月14日 ～ 10月20日（7日）														北里大学	1	5	0	0	0	6	7	35	0	0	0	42	新江ノ島水族館 峯水写真事務所	0 0	0 0	2 0	0 2	0 0	2 2 4	0 0	0 0	14 0	0 14	0 0	14 14 28	10	70	T C	
	2335	10月23日 ～ 10月28日（6日）	統合生命科学研究科	3	0	5	0	0	8	18	0	30	0	0	48	北海道大学 福山大学	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1 2	6 2	0 0	0 0	0 0	0 0	6 2 8	なぎさ水族館	0	0	0	1	0	1	0	0	0	6	0	6	9	58	T C	
	2336	10月29日 ～ 10月30日（2日）	統合生命科学研究科	2	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	4														日本野鳥の会広島県支部 広島市安佐動物公園	0 0	0 0	0 0	7 5	0 0	7 5 12	0 0	0 0	0 0	13 8	0 0	13 8 21	6	15	R C	
	2337	11月6日 ～ 11月10日（5日）														北里大学	1	2	3	0	0	6	5	10	15	0	0	30													14	70	T I	
	2338	11月14日 ～ 11月14日（1日）	統合生命科学研究科	1	7	26	1	0	35	1	7	26	1	0	35																											0	0	T C	
	2339	11月16日 ～ 12月8日（23日）																																								0	0	D	
	2340	12月11日 ～ 12月15日（5日）														北里大学	1	3	1	0	0	5	5	15	5	0	0	25													15	75	T I	
	2341	12月18日 ～ 12月20日（3日）	統合生命科学研究科	2	3	3	0	0	8	6	9	9	0	0	24																											12	36	T C	
	2342	12月21日 ～ 12月22日（2日）	統合生命科学研究科 総合科学部	2 0	1 0	4 1	0 0	0 0	7 1 8	4 0	2 0	8 2	0 0	0 0	14 2 16	北里大学	0	0	3	0	0	3	0	0	6	0	0	6													9	20	T C	

航海区分

T：教育実習航海
R：調査実習航海
S：社会貢献航海

共同利用区分

単位認定を伴う他大学利用
C　：混乗
I　：単独

その他の共同利用

CO：便乗

乗船者区分

教：教員・教諭
院：大学院生
学：学部学生・研究生
職：事務員・技官
研：研究員・調査員
学：学部学生・研究生
職：事務員・技官

その他の共同利用

CO：便乗

その他の共同利用

CO：便乗
般：社会人
他：報道・マスコミ その他

令和5年度（2023度）　練習船共同利用拠点化における乗船実績

広島大学生物生産学部

練習船名	整理記号	航海期間	大学（含：準ずるもの） 広島大学内 教	院	学	研	職	計	延べ人数 教	院	学	研	職	計	広島大学外 教	院	学	研	職	計	延べ人数 教	院	学	研	職	計	大学外（その他） 研究機関・企業等	教	生	研	般	他	計	延べ人数 教	生	研	般	他	計	余席数	延べ余席数	航海区分	備考
豊潮丸（256.00トン）	2343	12月26日 ～ 12月26日（1日）	統合生命科学研究科	1	3	0	0	0	4	1	3	0	0	0	4													広島国泰寺高等学校	3	11	0	0	0	14	3	11	0	0	0	14	0	0	S I	
																												広島市RDB調査員	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0		
																												中外テクノス株式会社	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0		
																																		16						16				
	2344	1月13日 ～ 1月13日（1日）	統合生命科学研究科	0	0	18	0	0	18	0	0	18	0	0	18																											2	2	T C	
	2345	1月14日 ～ 1月14日（1日）	統合生命科学研究科	0	0	13	0	0	13	0	0	13	0	0	13																											7	7	T C	
	2346	1月20日 ～ 1月20日（1日）	統合生命科学研究科	0	0	15	0	0	15	0	0	15	0	0	15																											5	5	T C	
	2347	1月25日 ～ 1月25日（1日）	統合生命科学研究科	2	1	1	0	0	4	2	1	1	0	0	4																											16	16	R C	
	2348	1月27日 ～ 1月27日（1日）	統合生命科学研究科	0	0	18	0	0	18	0	0	18	0	0	18																											2	2	T C	
	2349	2月12日 ～ 2月16日（5日）	統合生命科学研究科	0	0	10	0	0	10	0	0	50	0	0	50																											10	50	T C	単位認定を伴う他大学利用
	2350	3月6日 ～ 3月7日（2日）	統合生命科学研究科	2	1	4	1	0	8	4	2	8	2	0	16	沖縄科学技術大学院大学	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	2															12	24	T C	
	2351	3月15日 ～ 3月15日（1日）	統合生命科学研究科	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1																											19	19	K	
	2352	3月25日 ～ 3月25日（1日）																																								20	20	K	

	教	院	学	研	職	計	教	院	学	研	職	計
	44	59	304	2	3	412	119	187	577	3	5	891
	広島大学内						広島大学内延べ人数					

	教	院	学	研	職	計	教	院	学	研	職	計
	11	15	91	1	0	118	43	85	181	2	0	311
	広島大学外						広島大学外延べ人数					

	教	生	研	般	他	計	教	生	研	般	他	計	余席	余席
	10	167	6	32	0	215	12	188	15	68	0	283	376	###
	大学外						大学外延べ人数							

	教	院	学	研	職	生	般	他	計
合計	65	74	395	9	3	167	32	0	745

	教	院	学	研	職	生	般	他	計
延べ人数合計	174	272	758	20	5	188	68	0	1485

航海区分

T：教育実習航海
R：調査実習航海
S：社会貢献航海
D：入渠補修工事

院：大学院生
学：学部学生・研究生
職：事務員・技官
研：研究員・調査員
学：学部学生・研究生
職：事務員・技官
研：研究員・調査員

その他の共同利用

CO：便乗

その他の共同利用

CO：便乗
般：社会人
他：報道・マスコミ その他

2023年度（令和5年度） 豊潮丸 運航実績表（2024年3月28日）

広島大学生物生産学部

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	月別航海日数	停泊日数	合計	備考
4月	△	○						△	○	公開B1（調査）1					△	○	公開B2（調査）2					△	○			海上1 3			昭和 ◎	○		11	19	30	
5月			憲法 ◎	みどり ◎	こども ◎	△	○	公開A1（教育）4				短縮	△	○						△	○		公開B3 5				△	教育1（高知大・単独）6○ 台風2号の影響で中止				7	24	31	5/8～新型コロナウイルス感染症は5類に移行
6月	教育1（高知大）6		△	○						△	教2 7○			教育3（福山大・単独）8	△	○					公開A2（教育）9			教4 10△	○	公開A3 11						11	19	30	教育1（高知大・単独）台風2号の影響で中止
7月	△	○	公開B4（調査）12					△	○	公開A4（教育）13					△	○	海 ◎					教5 14△	○	公開A5（教育）15					教6 16△	○	社1 17	16	15	31	
8月		社2 18	社3 19	社4 20	教7 21△	○	教8 洋上里海 22				山 ◎	△	○						社5 23△	○	教9 乗船1 24					△	○	教10 里海 25		社6 26		19	12	31	
9月		△	○	教11 乗船2 27					△	○	教12 乗船3 28					△	○	敬老 ◎	社7 29	教13 Blue・Grow 30			秋分 ◎	○	教育14（香川大・単独）31				短縮	△		18	12	30	教育14（香川大・単独）順調に進行のため1日短縮
10月	公開B5（調査）32○						△	○	◎	教15 飢餓 33				教育16（北里大・単独）34△	○						△	○	公開A6（教育）35					△	公開B6（調査）36○			24	7	31	
11月			文化 ◎	△	○	教育17（北里大・単独）37					△	○		教18 38	教育19	ドック（第2A・3種中間検査−17年目）39		△	○					◎	△	○							21	9	30	
12月	ドック（第2A・3種中間検査−17年目）39		△	○					△	○	教育19（北里大・単独）40				短縮	△	○	公開A7（教育）41			教20SDGs 42		△	○		社8 43				△	○	19	12	31	フィールド科学演習 人数調整で教育24と教育26を削除
1月	元旦 ◎					△	○	成人 ◎					教21 44△	教22 45○						教23 46△	教育24 45○				B7 47		教25 48△	教育26 47○				5	26	31	B7（調査）47 追加
2月			△	○	海上2 中止					△	建国 ◎	教27 乗船4 49●				△	○						天皇 ◎	△	○	海上2 中止						5	24	29	海上2 中止
3月		△	○			教28 Virtual 50 内2日間		△	○						海上2 51	△	○			春分 ◎			△	○	海上3 52				△	○	4	27	31	
																													合計			160	206	366	

△：土曜日　○：日曜日　◎：祝日　●：振替休日

＊定員20名（教員＆学生）+船員12名。　臨時定員50名（平水区域・航行予定時間6時間未満）+船員12名。

整理番号	航海区分	授業科目	航海目的	航海海域	代表者	日数	乗船者数	共同利用
2304	公開A1	海洋生物学特別実習-1	魚類寄生虫相及び外洋性プランクトンの分布調査	瀬戸内海～豊後水道	大塚	5	6	混乗
~~2306~~	~~教育1~~	~~海洋観測実習~~	~~一般海洋観測（高知大学・単独）~~	~~土佐湾　台風中止~~	~~足立~~	~~0~~	~~0~~	~~単独~~
2307	教育2	水圏フィールド科学実習I-1	一般海洋観測	広島湾	橋本	1	16	混乗
2308	教育3	フィールド生態環境実習	一般海洋観測（福山大学・単独）	芸予瀬戸	満谷	4	32	単独
2309	公開A2	海洋生物学特別実習-2	瀬戸内海島嶼の文化・歴史・ツーリズム	瀬戸内海	細野	3	8	混乗
2310	教育4	水圏フィールド科学実習I-2	一般海洋観測	広島湾	橋本	1	14	混乗
2311	公開A3	海洋生物学特別実習-3	瀬戸内海におけるプランクトンの調査・観察	瀬戸内海	小原	2	7	混乗
2313	公開A4	海洋生物学特別実習-4	安芸灘における魚類調査	瀬戸内海	冨山	3	7	混乗
2314	教育5	フィールド科学入門-1	一般海洋観測	広島湾	中口	1	29	混乗
2315	公開A5	海洋生物学特別実習-5	有用生理活性物質開発の為の海洋生物採集	瀬戸内海～四国沿岸	平山	5	17	混乗
2316	教育6	フィールド科学入門-2	一般海洋観測	広島湾	中口	1	28	混乗
2321	教育7	自然環境航海実習	一般海洋観測	広島湾	竹田	2	31	混乗
2322	教育8	洋上里海総合演習	体験航海・一般海洋観測	広島湾～安芸灘	中口	4	11	混乗
2324	教育9	乗船実習-1	航海実習・海洋観測と海洋生物採集	瀬戸内海	中口	5	11	混乗
2325	教育10	里海フィールド演習	体験航海・一般海洋観測	広島湾～安芸灘	橋本	2	13	混乗
2327	教育11	乗船実習-2	航海実習・海洋観測と海洋生物採集	瀬戸内海	中口	5	10	混乗
2328	教育12	乗船実習-3	航海実習・海洋観測と海洋生物採集	瀬戸内海	中口	5	11	混乗
2330	教育13	Blue Growth洋上演習	Blue Growthを目指したオーダーメイド洋上演習	瀬戸内海	小原	3	7	混乗
2331	教育14	環境科学実践演習	一般海洋観測（香川大学・単独）	瀬戸内海	一見	4	16	単独
2333	教育15	飢餓・貧困解決洋上演習	飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習	瀬戸内海	小池	2	14	混乗
2334	教育16	体験実習1	一般海洋観測（北里大学・単独）	広島湾～芸予瀬戸	三宅	7	10	単独
2335	公開A6	海洋生物学特別実習-6	豊後水道における水産有用甲殻類の調査	瀬戸内海～豊後水道	若林	6	11	混乗
2337	教育17	体験実習2	一般海洋観測（北里大学・単独）	広島湾～芸予瀬戸	広瀬	5	6	単独
2338	教育18	水圏生物学実験I	一般海洋観測	呉湾	小原	1	35	混乗
2340	教育19	体験実習3	一般海洋観測（北里大学・単独）	広島湾～芸予瀬戸	広瀬	5	5	単独
2341	公開A7	海洋生物学特別実習-7	亜熱帯性魚類および昆虫類の採集	瀬戸内海～豊後水道	斉藤	3	8	混乗
2342	教育20	練習船で学ぶ広島湾SDGs	里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習	瀬戸内海	坂井	2	11	混乗
2344	教育21	フィールド科学演習-1	生物生産現場の体験と理解	広島湾	中口	1	18	混乗
2345	教育22	フィールド科学演習-2	生物生産現場の体験と理解	広島湾	中口	1	13	混乗
2346	教育23	フィールド科学演習-3	生物生産現場の体験と理解	広島湾	中口	1	15	混乗
2348	教育25	フィールド科学演習-5	生物生産現場の体験と理解	広島湾	中口	1	18	混乗
~~2347~~	~~教育26~~	~~フィールド科学演習-6~~	~~生物生産現場の体験と理解~~	~~広島湾　削除~~	~~中口~~	~~0~~	~~0~~	~~混乗~~
2349	教育27	乗船実習-4	航海実習・海洋観測と海洋生物採集	瀬戸内海	中口	5	10	混乗
2350	教育28	virtualプログラム	With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム	瀬戸内海	若林	2	9	混乗
教育実習航海				**小計**		**98**	**457**	

整理番号	航海区分	授業科目（年次）	航海目的	航海海域	代表者	日数	乗船者数	共同利用
2301	公開B1	卒論・修論(4,M,D)①	瀬戸内海におけるプランクトンの調査・観察	瀬戸内海	小原	5	6	混乗
2302	公開B2	卒論・修論(4,M,D)②	響灘における水産有用甲殻類の調査	広島湾	若林	5	9	混乗
2305	公開B3	卒論・修論(4,M,D)③	大崎上島・百島周辺海域の流向・流速及び堆積土	瀬戸内海	畠	2	15	混乗
2312	公開B4	卒論・修論(4,M,D)④	大気水圏における物質循環と光化学過程の解明	瀬戸内海	竹田	5	9	混乗
2332	公開B5	卒論・修論(4,M,D)⑤	口永良部島周辺水域における魚類相調査	薩南海域	坂井	7	9	混乗
2336	公開B6	卒論・修論(4,M,D)⑥	カンムリウミスズメ調査	瀬戸内海	近藤	2	14	混乗
2347	公開B7	卒論・修論(4,M,D)⑦	コア採泥のトレーニング，プランクトン調査	広島湾	小原	1	4	混乗
調査実習航海				**小計**		**27**	**66**	
2317	社会1	SSH海洋セミナー	海洋観察体験（安田女子高）	広島湾～安芸灘	中口	1	19	単独
2318	社会2	SSH先端研究実習	海洋生物実習（広大附属高）	広島湾	若林	1	25	単独
2319	社会3	体験航海	海洋観測体験実習（広島国泰寺高）	広島湾	坂井	1	23	単独
2320	社会4	海洋調査セミナー	子供・海のふしぎ発見隊（江田島青少年交流の家）	広島湾	橋本	1	39	単独
2323	社会5	体験航海	海洋観察体験（大和ミュージアム）	広島湾	小原	1	35	単独
2326	社会6	体験航海	体験航海（岩国市ミクロ生物館）	広島湾	小原	2	35	単独
2329	社会7	体験航海	体験航海（東広島市木谷小学校）	芸予瀬戸	小原	1	25	単独
2343	社会8	体験航海	海洋観測体験実習（広島国泰寺高）	広島湾	坂井	1	20	単独
社会貢献航海				**小計**		**9**	**221**	
停泊実習				**小計**		**0**	**0**	
2303	海上運転1	海上運転1	出入港習熟、エンジン・各機器の作動確認	広島湾	中口	1	0	
2351	海上運転2	海上運転2	出入港習熟、エンジン・各機器の作動確認	広島湾	中口	1	1	
2352	海上運転3	海上運転3	出入港習熟、エンジン・各機器の作動確認	広島湾	中口	1	0	
海上運転				**小計**		**3**	**1**	
2339	ドック	ドック航海	第2A・3種中間検査−17年目	瀬戸内海～響灘	中口	23	0	
ドック航海				**小計**		**23**	**0**	

合計　160　日　　**乗船者数　745 人**

＊教育関係共同利用拠点に関する留意点：共同利用は、原則として単位認定を伴う教育課程上の乗船実習を保有大学が利用大学に提供することをいう。教育には卒業研究や修士・博士論文研究指導を含む。

＊単独航海とは他大学の学生のみが航海することをいう。混乗航海「教育8,10,13,15,21,29特定&公開実習A（課題提供）、公開実習B（課題募集）」とは保有大学の学生と一緒に他大学の学生が航海することをいう。その他の共同利用は便乗航海とする。

第３章

共同利用の実施に係る
経費

令和5年度　特別経費（教育関係共同利用実施分）

費　　目	金額（千円）
コーディネート担当人件費	2,474
実習生送迎バス借上げ費	171
広報関係費	0
共同利用運営協議会開催費 （出席委員の旅費含む）	113
重油料	394
観測機器整備費	1,686
実習消耗品費	278
実習雑費（入館料等）	47
計	5,163

第４章

共同利用に係る
検討会議の状況

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会

日　時　　令和６年３月４日（月）１３：００～１５：００
場　所　　広島大学生物生産学部　会議室（オンライン併用）
審議者　　若林（共同利用運営協議会議長／豊潮丸運営委員会委員長・准教授），中口（副議長／船長・准教授），小池（教授），平山（講師），足立（高知大学農林海洋科学部・教授），一見（香川大学農学部瀬戸内圏研究センター・教授），広瀬（北里大学海洋生命科学部・講師）
陪席者　　坂井（豊潮丸運営委員会委員・教授），浅岡（豊潮丸運営委員会委員・准教授），小原（豊潮丸運営委員会委員・助教），花岡（支援室・室長），大下（支援室・主査），田邉・神農（支援室・契約一般職員）

協議・報告事項等は以下のとおりである。

1. 共同利用航海について
   (1) 令和５年度の取組報告
   (2) 令和６年度の取組予定（案）

2. 豊潮丸運航計画等（共同利用実績等を含む）について
   (1) 令和５年度実績
   (2) 令和６年度計画（案）

3. 教育関係共同利用拠点経費について
   (1) 令和４年度決算報告
   (2) 令和５年度の執行状況
   (3) 令和６年度予算執行計画

4. その他
   (1) 令和６年度練習船豊潮丸共同利用運営協議会委員について
   (2) 練習船豊潮丸　航海実施チェックシートの改訂について
   (3) 食卓費・クリーニング代の変更について

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会委員名簿

令和５年度

所　　属	役　　職	氏　　名	任期満了の日	備考
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	議長（運営委員会委員長） ・准教授	若林　香織	職指定	第1号委員
生物生産学部附属練習船 豊潮丸	副議長 船長・准教授	中口　和光	職指定	第2号委員
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	教授	小池　一彦	～2024.3.31	第3号委員
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	講師	平山　真	～2024.3.31	第3号委員
高知大学 農林海洋科学部	教授	足立　真佐雄	～2024.3.31	第4号委員
福山大学 生命工学部	教授	北口　博隆	～2024.3.31	第4号委員
香川大学 農学部 瀬戸内圏研究センター	教授	一見　和彦	～2024.3.31	第4号委員
北里大学 海洋生命科学部	講師	広瀬　雅人	～2024.3.31	第4号委員

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則 （抜粋）

(共同利用運営協議会)
第 3 条 豊潮丸に，共同利用の実施に関する事項を審議するため，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。
第 4 条 運営協議会は，次に掲げる委員で組織する。
(1) 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会委員長(以下「運営委員会委員長」という。)
(2) 豊潮丸船長
(3) 広島大学生物生産学部(以下「本学部」という。)の担当を命じられている教員のうちから，広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人
(4) 広島大学以外の大学又は高等専門学校に所属する練習船の共同利用に関する有識者若干人
2 前項第 3 号及び第 4 号の委員は，学部長が任命又は委嘱する。
3 第 1 項第 3 号及び第 4 号の委員の任期は，2 年とし，再任を妨げない。
4 第 1 項第 3 号及び第 4 号の委員が辞任を申し出たとき，又は欠員となったときの後任者の
任期は，前任者の残任期間とする。
第 5 条 運営協議会は，次に掲げる事項について審議する。
(1) 豊潮丸の共同利用に係る公募及び選考に関すること。
(2) 豊潮丸の共同利用に係る運航計画に関すること。
(3) 豊潮丸の共同利用に係る利用環境に関すること。
(4) その他豊潮丸の共同利用に関すること。
第 6 条 運営協議会に議長を置き，運営委員会委員長をもって充てる。
2 議長は，運営協議会を主宰する。
3 運営協議会に副議長を置き，第 4 条第 1 項第 2 号及び第 3 号の委員のうちから，議長が指
名する。
4 副議長は，議長を補佐し，議長に事故があるときは，その職務を代行する。
第 7 条 運営協議会は，委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。
2 運営協議会の議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
第 8 条 運営協議会は，必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，その意見を聴くことができる。

参　考　資　料

１．教育関係共同利用拠点に関する法令等

（１）教育関係共同利用拠点制度について

教育関係共同利用拠点制度について

《制度の趣旨》

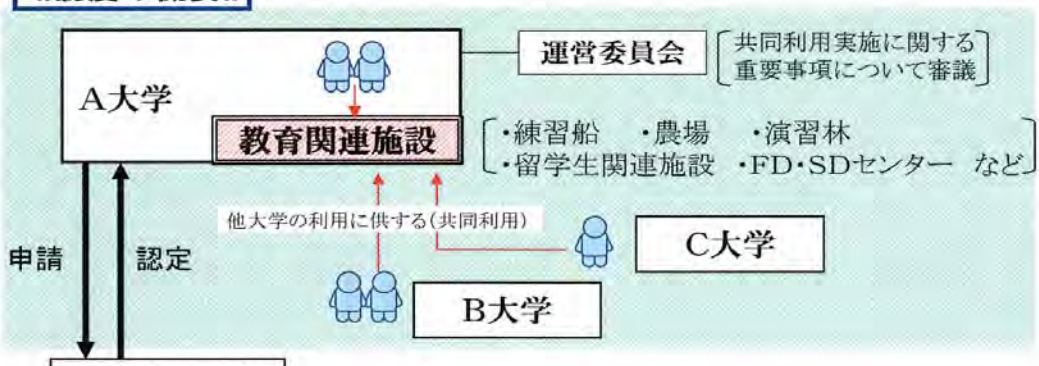
多様化する社会と学生のニーズに応えるべく、各大学において、それぞれの教育理念に基づいて機能別分化を図り、個性化・特色化を進めながら教育研究活動を展開していくことが重要。

質の高い教育を提供していくためには、個々の大学の取組だけでは限界があるため、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進することにより、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが必要不可欠。

大学の教育関連施設の共同利用の促進を図るための制度を創設し（「教育関係共同利用拠点」。21年9月より施行＊）、大学間連携を図る取組を一層推進。

＊「学校教育法施行規則(第143条の2)」、「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程」
（学術研究分野については、平成20年に「共同利用・共同研究拠点」を既に制度化）

《制度の概要》



【認定基準】
- ○ 大学教育の充実に特に資すると認められるものであること
- ○ 共同利用実施に関する重要事項について審議する委員会を置くこと
- ○ 利用する大学を広く募集するものであること
- ○ 共同利用に必要な設備・資料等を備えていること　など

《中教審での審議状況》

・21年7月～8月　全国共同利用検討WGにて，改正内容に関して審議。
・22年8月22日　大学規模・大学経営部会に，制度の改正について報告。

（2）学校教育法施行規則（抜粋）

（略）

第9章　大学

第1節　設備，編制，学部及び学科

第142条　大学（大学院を含み，短期大学を除く。以下この項において同じ。）の設備，編制，学部及び学科に関する事項，教員の資格に関する事項，通信教育に関する事項その他大学の設置に関する事項は，大学設置基準（昭和31年文部省令第28号），大学通信教育設置基準（昭和56年文部省令第33号），大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）及び専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）の定めるところによる。

2　短期大学の設備，編制，学科，教員の資格，通信教育に関する事項その他短期大学の設置に関する事項は，短期大学設置基準（昭和50年文部省令第21号）及び短期大学通信教育設置基準（昭和57年文部省令第3号）の定めるところによる。

第143条　教授会は，その定めるところにより，教授会に属する職員のうちの一部の者をもつて構成される代議員会，専門委員会等（次項において「代議員会等」という。）を置くことができる。

2　教授会は，その定めるところにより，代議員会等の議決をもつて，教授会の議決とすることができる。

第143条の2　大学における教育に係る施設は，教育上支障がないと認められるときは，他の大学の利用に供することができる。

2　前項の施設を他の大学の利用に供する場合において，当該施設が大学教育の充実に特に資するときは，教育関係共同利用拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

第143条の3　大学には，学校教育法第96条の規定により大学に附置される研究施設として，大学の教員その他の者で当該研究施設の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させるものを置くことができる。

2　前項の研究施設のうち学術研究の発展に特に資するものは，共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

（略）

（３）教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程
（平成21年8月20日文部科学省告示第155号）

（趣旨）

第1条　学校教育法施行規則（以下「規則」という。）第143条の2第2項の規定に基づく教育関係共同利用拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については，この規程の定めるところによる。

（認定の基準）

第2条　規則第143条の2第2項に規定する教育関係共同利用拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。

(1)　学生に対する教育，学生の修学等の支援，教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって，大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。

(2)　拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が，他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。

(3)　申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ，共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として，次に掲げる委員で組織する委員会（この条及び次条において「運営委員会」という。）を置き，イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。

イ　当該申請施設の職員

ロ　当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者

ハ　その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者

(4)　申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。

(5)　申請施設の種類等に応じ，共同利用に必要な設備及び資料等を備えていること。

(6)　申請施設を利用する大学に対し，申請施設の利用に関する技術的支援，必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。

(7)　申請施設の利用の方法及び条件，利用可能な設備及び資料等の状況，申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。

(8)　申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。

（認定の申請）

第3条　申請施設を置く大学の学長は，申請書に次に掲げる書類を添えて，文部科学大臣に申請するものとする。

(1)　拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類

(2)　学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの

(3)　申請施設の名称，目的，所在地その他の概要を説明する書類

(4)　運営委員会の規則及び名簿

(5)　申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類

(6)　申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類

(7)　申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類

(8)　申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類

(9)　その他第2条に規定する基準に適合することを説明する書類

（認定の手続）
第4条　文部科学大臣は，前条の申請があった場合には，当該申請に係る認定をするかどうかを決定し，当該申請をした大学の学長に対し，速やかにその結果を通知するものとする。
2　文部科学大臣は，前項の認定を行う場合において，その有効期間を定めるものとする。
（変更及び廃止等の届出）
第5条　拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長（以下「学長」という。）は，次に掲げる場合には，あらかじめ，その旨を文部科学大臣に届け出るものとする。
(1)　当該施設の名称，目的又は所在地を変更しようとするとき。
(2)　当該施設を廃止しようとするとき。
(3)　当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。
（文部科学大臣への報告等）
第6条　学長は，毎年度，当該年度における共同利用の実施計画を定め，当該年度の開始前に，文部科学大臣に提出するものとする。
2　学長は，毎年度終了後3月以内に，当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ，文部科学大臣に提出するものとする。
（認定の取消し）
第7条　文部科学大臣は，拠点が第2条に規定する基準に適合しなくなったと認めるとき又は第5条第2号若しくは第3号の届出を受けたときは，認定を取り消すことができる。
（認定等の公表）
第8条　文部科学大臣は，拠点の認定をし，又はこれを取り消したときは，インターネットの利用その他適切な方法により，その旨を公表するものとする。

（４）学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について（通知）

２１年文科高第３８号
平成２１年８月２７日

各国公私立大学長
大学を設置する各地方公共団体の長
各公立大学法人の理事長　　殿
大学を設置する各学校法人の理事長
大学を設置する各学校設置会社の代表取締役
放送大学学園理事長

文部科学省高等教育局長
徳　永　　保

学校教育法施行規則の一部を改正する省令
及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について（通知）

このたび，別添１とおり，学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成２１年文部科学省令第３０号）が，また，別添２のとおり，教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（平成２１年文部科学省告示第１５５号）が，それぞれ平成２１年８月２０日に公布され，平成２１年９月１日から施行されることとなりました。

今回創設される教育関係共同利用拠点制度は，多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために，各大学の有する人的・物質資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく大学の取組を支援するものです。
既に教育課程の共同実施制度や学術研究分野における共同利用・共同研究拠点制度が施行されているところですが，各大学におかれては，下記に示す今回の新たな制度の詳細について十分ご了知いただき，同制度をご活用いただくようお願い致します。

なお，文部科学大臣への申請様式や対象施設，施設の種類等に応じた認定基準等，申請手続きにあたり必要な事項や今後の申請スケジュール等については，別途お知らせします。

記

第１　学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成２１年文部科学省令第３０号）の概要

（１）　大学における教育に係る施設は，教育上支障がないと認められるときは，他の大学の利用に供することができること。（第１４３条の２第１項関係）

（２）　（１）の施設を他の大学の利用に供する場合において，当該施設が大学教育の充実に特に資するときは，教育関係共同利用拠点（以下「拠点」という。）として文部科学大臣の認定を受けることができること。（第１４３条の２第２項関係）

第２　教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（平成２１年文部科学省告示第１５５号）の概要

（１）　趣旨（第１条関係）

拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については，この規程の定めるところによること。

（２）　認定基準（第２条関係）

拠点の認定の基準は次の①～⑧の要件に適合するものであること。

①　学生に対する教育，学生の修学等の支援，教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって，大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。（第１号）

②　拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が，他の大学の利用に供するものとしで大学の学則その他これに準ずる学内規程等に記載されていること。新設の施設の場合にあっては，当該施設が設置された際に学内でどのような位置づけを有するのか明らかにすること。（第２号）

③　開かれた運営体制を確保し，幅広い意見を拠点の運営等に反映させれるため，申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ，共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として，次に掲げる委員で組織する運営委員会を置いていること。また，その際，イの委員の数が運営委員会の委員の総数の２分の１以下であること。なお，「申請施設の運営について権限を有する者」に具体的に該当する者については，各大学において実態に即して判断することとする。また，ロの委員については，学外者であることが望ましいこととする。（第３号）

イ　当該申請施設の職員

ロ　当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者

ハ　その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者

④　申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。なお，近隣の大学のみによる共同利用も許容されることとする。また，当該施設を利用する機関は大学のみに限定されるものではなく，各大学の判断で，大学以外に高等専門学校や専門学校等にも拠点の利用を認めることができるものであることとする。（第４号）

⑤　申請施設の種類等に応じ，共同利用に必要な設備，要件及び資料，データベース等を備えていること。（第５号）

⑥　申請施設を利用する大学に対し，申請施設の利用に関する技術的支援，必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。（第６号）

⑦　より多くの大学の利用を図り，成果を広く発信するという観点から，申請施設の利用の方法及び条件，利用可能な設備及び資料等の状況，申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。（第７号）

⑧　申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。なお，望ましい具体的な利用大学数については，申請施設の種類等に応じて判断することとする。（第８号）

（３）　認定の申請（第３条関係）

申請施設を置く大学の学長は，申請書に次の①～⑨の書類を添えて，文部科学大臣に申請すること。

①　拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類（第１号）

② 学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの（第２号）
③ 申請施設の名称，目的，所在地その他の概要を説明する書類（第３号）
④ 運営委員会の規則及び名簿（第４号）
⑤ 申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類（第５号）
⑥ 申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類（第６号）
⑦ 申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類（第７号）
⑧ 申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類（第８号）
⑨ その他第２条に規定する基準に適合することを説明する書類（第９号）

（４） 認定の手続（第４条関係）

文部科学大臣は，申請があった場合には，当該申請に係る認定をするかどうかを決定し，当議申請をした大学の学長に対し，速やかにその結果を通知するものとすること。また，当該認定を行う場合において，その有効期間を定めるものとすること。なお，有効期間については，各施設ごとに認定の際に判断することとする。

（５） 変更及び廃止等の届出（第５条関係）

拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長（以下「学長」という。）は，次に掲げる湯合には，あらかじめ，その旨を文部科学大臣に届け出るものとすること。

① 当該施設の名称，目的又は所在地を変更しようとするとき。
② 当該施設を廃止しようとするとき。
③ 当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。

（６） 文部科学大臣への報告等（第６条関係）

学長は，毎年度，当該年度における共同利用の実施計画を定め，当該年度の開始前に，文部科学大臣に提出するものとすること。また，学長は，毎年度終了後３ヶ月以内に，当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ，文部科学大臣に提出するものとすること。

（７） 認定の取消し（第７条関係）

文部科学大臣は，拠点が（２）に規定する基準に適合しなくなったと認めるとき又は（５）②若しくは③の届出を大学から受けたときは，認定を取り消すことができること。

（８） 認定等の公表（第８条関係）

文部科学大臣は，拠点の認定をし，又はこれを取り消したときは，インターネットの利用その他適切な方法により，その旨を公表するものとすること。

（９） 施行期日（附則関係）

教育関係共同利用拠点制度は，平成２１年９月１日から実施するものであること。

２．共同利用に関する広島大学の規則

（１）練習船豊潮丸運営内規

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規

平成16年4月26日

学部長決裁

改正　平成18.3.7，平成21.4.20，平成22.9.27，平成23.8.24，平成24.5.21，平成24.6.21，平成27.9.28，平成29.1.23
平成30.2.15，平成31.4.15，令和2.6.2

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規

(趣旨)

第1条　この内規は，広島大学学則(平成16年4月1日規則第1号)第13条第2項の規定に基づき，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸(以下「豊潮丸」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条　豊潮丸は，水産学，海洋学並びに広く生物生産学に関する教育研究を行い，これらの分野において貢献できる人材を育成するとともに，社会の発展に寄与することを目的とする。

(共同利用)

第3条　豊潮丸は，学校教育法施行規則(昭和22年5月23日文部省令第10号)第143条の2に基づき，他の大学等の利用に供することができる。

2　前項の利用に関し必要な事項は，別に定める。

(船員)

第4条　豊潮丸に，広島大学船員就業規則(平成16年4月1日規則第79号)第2条に規定する船員を置く。

2　船員のうち船長及び首席一等航海士は，教員をもって充てる。

3　船長の選考に関し必要な事項は，別に定める。

4　船員の服務等に関し必要な事項は，別に定める。

(運営委員会)

第5条　豊潮丸に，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

第6条　運営委員会は，次に掲げる構成員で組織する。

(1)　豊潮丸船長

(2)　副学部長(総務担当)

(3)　広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人

2　前項第3号の委員の任期は，2年とし，再任を妨げない。

3　第1項第3号の委員が辞任を申し出たとき，又は欠員となったときの後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

4　第1項第3号の委員の任期は，学部長の任期を超えないものとする。

第7条　運営委員会は，豊潮丸に関し次に掲げる事項を審議する。

(1)　管理運営の基本方針に関すること。

(2)　船員（船長及び首席一等航海士は除く。）の人事に関すること。

(3)　予算及び決算に関すること。

(4)　運航計画に関すること。

(5)　基地施設及び桟橋に関すること。

(6)　船内の利用環境に関すること。

(7)　その他豊潮丸の運営に関すること。

第8条　運営委員会に委員長を置き，委員のうちから学部長が指名する。

2　委員長は，運営委員会を招集し，その議長となる。

3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

第9条　運営委員会は，必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，その意見を聴くことができる。

(事務)

第10条　豊潮丸の事務は，生物学系総括支援室において処理する。

(雑則)

第11条　この内規に定めるもののほか，豊潮丸に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

この内規は，平成16年4月26日から施行し，平成16年4月1日から適用する。

附　則（平成18年3月7日　一部改正）

この内規は，平成18年4月1日から施行し，この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規は，平成17年10月1日から適用する。

附　則（平成21年4月20日　一部改正）

この内規は，平成21年4月20日から施行し，この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規は，平成21年4月1日から適用する。

附　則（平成22年9月27日　一部改正）

この内規は，平成22年9月27日から施行する。

附　則（平成23年8月24日　一部改正）

この内規は，平成23年8月24日から施行する。

附　則（平成24年5月21日　一部改正）

この内規は，平成24年5月21日から施行し，この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は，平成24年4月1日から適用する。

附　則（平成24年6月21日　一部改正）

この内規は，平成24年6月21日から施行し，この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は，平成24年4月1日から適用する。

附　則（平成27年9月28日　一部改正）

この内規は，平成27年9月28日から施行し，この内規による改正後の広島大学生物生

産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は，平成27年4月1日から適用する。

附　則（平成29年1月23日　一部改正）

この内規は，平成29年1月23日から施行する。

附　則（平成30年2月15日　一部改正）

この内規は，平成30年4月1日から施行する。

附　則（平成31年4月15日　一部改正）

この内規は，平成31年4月15日から施行し，平成31年4月1日から適用する。

附　則（令和2年6月2日　一部改正）

この内規は，令和2年6月2日から施行し，この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は，令和2年4月1日から適用する。

（２）練習船豊潮丸共同利用細則

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則

平成22年9月27日

学部長決裁

改正　平成28.4.18，平成29.1.23，平成30.9.3，平成31.4.15，令和2.6.2

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則

(趣旨)

第1条　この細則は，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規(平成16年4月26日学部長決裁。以下「運営内規」という。)第3条第2項の規定に基づき，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸(以下「豊潮丸」という。)の共同利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条　この細則において，「共同利用」とは，他の大学(外国の大学を含む。)又は高等専門学校(以下「他大学等」という。)が教育課程上の実習等を行うため豊潮丸を利用すること(単位認定を含む。)をいう。

(共同利用運営協議会)

第3条　豊潮丸に，共同利用の実施に関する事項を審議するため，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。

第4条　運営協議会は，次に掲げる委員で組織する。

(1)　広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会委員長(以下「運営委員会委員長」という。)

(2)　豊潮丸船長

(3)　広島大学生物生産学部(以下「本学部」という。)の担当を命じられている教員のうちから，広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人

(4)　広島大学以外の大学又は高等専門学校に所属する練習船の共同利用に関する有識者若干人

2　前項第3号及び第4号の委員は，学部長が任命又は委嘱する。

3　第1項第3号及び第4号の委員の任期は，2年とし，再任を妨げない。

4　第1項第3号及び第4号の委員が辞任を申し出たとき，又は欠員となったときの後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

第5条　運営協議会は，次に掲げる事項について審議する。

(1)　豊潮丸の共同利用に係る公募及び選考に関すること。

(2)　豊潮丸の共同利用に係る運航計画に関すること。

(3)　豊潮丸の共同利用に係る利用環境に関すること。

(4)　その他豊潮丸の共同利用に関すること。

第6条　運営協議会に議長を置き，運営委員会委員長をもって充てる。

2　議長は，運営協議会を主宰する。

3　運営協議会に副議長を置き，第4条第1項第2号及び第3号の委員のうちから，議長が指名する。

4　副議長は，議長を補佐し，議長に事故があるときは，その職務を代行する。

第7条　運営協議会は，委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2　運営協議会の議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

第8条　運営協議会は，必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，その意見を聴くことができる。

(公募及び決定)

第9条　学部長は，適切な時期に次年度の共同利用について公募を行う。

2　共同利用については，前項の公募により応募のあった他大学等のうちから選考するものとし，運営協議会における審議を経て，学部長が決定する。

(実習等の実施)

第10条　共同利用に参加する学生への実習等の指導については，本学部の教員及び豊潮丸の船員並びに利用する他大学等の教員が行うものとする。

(損害賠償)

第11条　共同利用を行う他大学等は，その責に帰すべき事由により，豊潮丸の設備及び備品等を損傷又は滅失したときは，その損害を賠償しなければならない。

2　本学部は，その責に帰さない事由により，共同利用に参加した学生等に事故が発生したときは，その損害の賠償の責を負わない。

(事務)

第12条　共同利用に関する事務は，生物学系総括支援室において処理する。

(雑則)

第13条　この細則に定めるもののほか，共同利用に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

1　この細則は，平成22年9月27日から施行する。

2　この細則の施行後最初に任命又は委嘱される運営協議会委員の任期は，第4条第3項の規定にかかわらず，平成24年3月31日までとする。

附　則(平成28年4月18日　一部改正)

この細則は，平成28年4月18日から施行し，この細則による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則の規定は，平成28年4月1日から適用する。

附　則(平成29年1月23日　一部改正)

この細則は，平成29年1月23日から施行する。

附　則(平成30年9月3日　一部改正)

この細則は，平成30年9月3日から施行する。

附　則（平成31年4月15日　一部改正）

この細則は，平成31年4月15日から施行し，平成31年4月1日から適用する。

附　則(令和2年6月2日　一部改正)

この細則は，令和2年6月2日から施行し，この細則による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則の規定は，令和2年4月1日から適用する。

（３）練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

（平成30年 7月20日学部長決裁）
改正　令和2年10月29日一部改正

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

第1　この申合せは，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規（平成16年4月26日学部長決裁）第11条及び広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則（平成22年9月27日学部長決裁。以下「利用細則」という。）第13条の規定に基づき，広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸（以下「豊潮丸」という。）の共同利用等に関し，必要な事項を定めるものとする。

2　利用細則第2条に定める共同利用において，申請ができる機関及び個人は次のとおりとする。

（1）国内外の大学又は高等専門学校（以下「他大学等」という。）

（2）豊潮丸に乗船を希望する他大学等の学生及び航海責任者が航海計画において同乗することを認めた者（以下「学生等」という。）

（共同利用の区分）

第2　共同利用は次の区分に分けて，公募の実施又は利用申請を受け付けるものとする。

（1）単独航海利用

教育実習航海として他大学等が航海計画を立案し，他大学等の学生が乗船定員の範囲内で教員の引率の下，実施する航海において利用する場合。

（2）混乗航海利用

広島大学が主催する教育実習航海，調査実習航海，社会貢献航海のうち，乗船定員に余席がある航海において，航海責任者が認めた学生等が利用する場合。

（共同利用の公募）

第3　広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会（以下「運営協議会」）は，利用規則第5条1号に規定する共同利用に係る公募及び選考を行うため，毎年度，第2（1）及び（2）の区分ごとに公募要領を作成し，関係の他大学等へ周知を行うほか，生物生産学部ホームページ等を活用し，広く共同利用の公募を行うものとする。

2　公募要領には，公募内容，申込資格，申込期限，申込先，審査及び採否などの情報を記載する。

（利用申請）

第4　共同利用を希望する者は，利用の区分ごとにそれぞれ次に定める様式に必要事項を記載し，利用申請するものとする。

（1）単独航海利用……別記様式１

（2）混乗航海利用……別記様式２

（利用の許可）

第5　第4（1）については，運営協議会で審査・承認後，学部長が許可を行い申請者に通知

するものとする。

2　第4（2）については，航海責任者が余席及び乗船について確認を行い，航海責任者が利用の可否を決定し，申請者に連絡するものとする。

3　利用を許可された者は，別記様式3に定める「乗船者名簿・食事表」を作成の上，航海責任者を通じて航海実施日の10日前までに豊潮丸船長に提出し，内容の確認を受けるものとする。

4　利用を許可された者は，別記様式4に定める「覚書」を航海実施日の原則10日前までに豊潮丸に提出するものとする。なお,「覚書」を提出しない者は乗船の許可を取り消す。

（利用にかかる経費）

第6　豊潮丸乗船に際し，利用者が負担すべき経費は別に定める。

（共同利用以外の利用）

第7　共同利用以外に練習船基地（桟橋）の利用に関する申請があった時は，豊潮丸船長が利用申請の可否について決定し，通知するものとする。

2　練習船基地（桟橋）の利用を希望する者は，原則として利用日の2日前までに別記様式5に必要事項を記載し，豊潮丸船長に利用申請するものとする。

附 則

1　この申合せは，平成30年 7月21日から施行する。

2　この申合せの制定に伴い,「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用に関する申し合わせ（平成29年7月4日承認）」は廃止とする。

附　則

この申合せは，令和2年10月29日から施行する。

別記様式1

附属練習船共同利用申請書(単独航海)

広島大学生物生産学部長　殿　　令和　　年　　月　　日

利用代表者（申請者）

大　学　名
職　名　等
氏　　名　　印
（自署の場合は押印不要）

連絡先(電話番号)
Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
なお，利用に際しては，乗船活動に関する保険加入を済ませ，広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸
利用計画	(目的・教育・調査研究内容等:※記入欄が不足する場合には別紙添付としてください。)

利用希望者（別紙添付可）	氏　名	大学・学部・学年等	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間

使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器	申請者持込み予定の観測機器

航海責任者:所属機関連絡先(※申請者と同じ場合は記入不要)		備考欄
航海責任者 氏名 (部署・職名) TEL Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	(印またはサイン)	*この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが，その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。

＊　乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合，練習船への乗船は許可しません。
＊　乗船者名簿及び覚書を**航海実施日の10日前まで**に提出願います。

上記の利用申請について，許可します。

令和　　年　　月　　日

広島大学生物生産学部長　　(公印省略)

別記様式1

附属練習船共同利用申請書（単独航海）

広島大学生物生産学部長　殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例

利用代表者（申請者）

大　学　名　〇〇大学大学院〇〇研究科
職　名　等　教授
氏　　名　〇〇　〇〇　印（自署の場合は押印不要）

連絡先（電話番号）　XXX-XXX-XXXX（内XXXX）
Eメールアドレス　〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
なお，利用に際しては，乗船活動に関する保険加入を済ませ，広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸
利用計画	（目的・教育・調査研究内容等：※記入欄が不足する場合には別紙添付としてください。） 別紙のとおり

利用希望者（別紙添付可）	氏　名	大学・学部・学年等	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・教授	〇〇保険	R〇〇/〇/〇 ～ R〇〇/〇/〇
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・M2	学研災	R〇〇/〇/〇 ～ R〇〇/〇/〇
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・M1	学研災	R〇〇/〇/〇 ～ R〇〇/〇/〇
	〇〇 〇〇	〇〇大学〇〇学部・B4	学研災	R〇〇/〇/〇 ～ R〇〇/〇/〇
	〇〇 〇〇	〇〇大学〇〇学部・B4	学研災	R〇〇/〇/〇 ～ R〇〇/〇/〇

使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器	申請者持込み予定の観測機器
	プランクトンネット（手で引くことのできるサイズ）	実体顕微鏡 ドローン 暗箱

航海責任者：所属機関連絡先（※申請者と同じ場合は記入不要）		備考欄
航海責任者氏名 （部署・職名） TEL Eメールアドレス	（印またはサイン） 申請者と同じ	問合せ先：〇〇大学〇〇学部支援室（担当〇〇） TEL: XXX-XXX-XXXX（内XXXX） E-mail;〇〇〇@〇〇〇 *この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが，その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。

＊　乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合，練習船への乗船は許可しません。
＊　乗船者名簿及び覚書を**航海実施日の10日前まで**に提出願います。

上記の利用申請について，許可します。

令和　　年　　月　　日

広島大学生物生産学部長　（公印省略）

別記様式2

附属練習船共同利用申請書（混乗航海）

広島大学生物生産学部長　殿　　令和　　年　　月　　日

利用代表者（申請者）

所属大学名等
学年・職名等
氏　　名　　印
（自署の場合は押印不要）

連絡先（電話番号）
Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
なお，利用に際しては，乗船活動に関する保険加入を済ませ，広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸			
航海名（整理番号）			航海責任者	
利用希望者（別紙添付可）	氏　名	所属機関・職名	**加入保険の名称(必須)**	乗船利用期間
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
申請者所属機関　指導教員等連絡先			備考欄	
担当者氏名 （部署・職名） TEL Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	（印またはサイン）		***この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが，その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。**	

＊　乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合，練習船への乗船は許可しません。

＊　乗船者名簿及び覚書を**航海実施日の10日前まで**に提出願います。

別記様式2

附属練習船共同利用申請書（混乗航海）

広島大学生物生産学部長　殿

令和○○年○○月○○日

記入例1
学生が個人で参加する場合

利用代表者（申請者）

所属大学名等　○○高等専門学校
学年・職名等　○○科　5年
氏　　名　○○　○○　印（自署の場合は押印不要）

連絡先（電話番号）　XXX-XXX-XXXX（内XXXX）
Eメールアドレス　○○○@○○○○

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
なお，利用に際しては，乗船活動に関する保険加入を済ませ，広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸		
航海名（整理番号）	○○○○実習（XXXX）	航海責任者	○○　○○

利用希望者（別紙添付可）	氏　名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
	○○　○○	○○高等専門学校 ○○科 5年	学研災	R○○/○/○ ～ R○○/○/○

使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器	申請者持込み予定の観測機器
	ORIネット 集魚灯	冷却装置 観察用プラスチックケース

申請者所属機関　指導教員等連絡先		備考欄
担当者氏名	○○　○○　（印または サイン）	
（部署・職名）	○○高等専門学校　○○科　教授	
TEL	XXX-XXX-XXXX	
Eメールアドレス	○○○@○○○○	*この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが，その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。

＊　乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合，練習船への乗船は許可しません。
＊　乗船者名簿及び覚書を**航海実施日の10日前まで**に提出願います。

別記様式2

附属練習船共同利用申請書（混乗航海）

広島大学生物生産学部長　殿

令和○○年○○月○○日

記入例2
教員が取りまとめて
学生を集団で参加させる場合

利用代表者（申請者）

所属大学名等　○○高等専門学校
学年・職名等　教授
氏　　名　○○　○○　印（自署の場合は押印不要）

連絡先（電話番号）　XXX-XXX-XXXX（内XXXX）
Eメールアドレス　○○○@○○○○

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
なお，利用に際しては，乗船活動に関する保険加入を済ませ，広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸		
航海名（整理番号）	○○○○実習（XXXX）	航海責任者	○○　○○

利用希望者（別紙添付可）	氏　名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
	○○　○○	○○高等専門学校 ○○科 5年	学研災	R○○/○/○ ～ R○○/○/○
	○○　○○	○○高等専門学校 ○○科 4年	学研災	R○○/○/○ ～ R○○/○/○
	○○　○○	○○高等専門学校 ○○科 3年	学研災	R○○/○/○ ～ R○○/○/○

使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器	申請者持込み予定の観測機器
	ORIネット 集魚灯	冷却装置 観察用プラスチックケース

申請者所属機関　指導教員等連絡先		備考欄
担当者氏名	○○　○○　（印またはサイン）	
（部署・職名）	○○高等専門学校　学生課教務係	
TEL	XXX-XXX-XXXX	
Eメールアドレス	○○○@○○○○	*この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが，その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。

＊　乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合，練習船への乗船は許可しません。
＊　乗船者名簿及び覚書を**航海実施日の10日前まで**に提出願います。

練習船豊潮丸　　－　　航海　　乗船者名簿

申込責任者:

	氏　名	身　分 （職名・学年・学生番号）	性別	緊急時連絡先 （実家・父・母等　記入の事）	加入保険の名称	現住所・携帯電話番号	この欄は広島大学の方への質問です TAの学生は〇を付けてください	この欄は広島大学以外の方への質問です 過去に豊潮丸への乗船履歴の有・無
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

※ 学部外者については，「覚書」（別途様式4）を提出のこと。

※ 申込期限は出航の10日前まで。
（食事代金＝朝：300円、昼：450円、夕：450円）

メールに添付する場合は、パスワードを掛けてください。

練習船豊潮丸　　－　　航海　　食事申込書

申込責任者:

	氏　名	身　分 （職名・学年・学生番号）	性別	期間 月日～月日		乗下船地 乗船～下船		／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	／　日 朝	昼	夕	食数	備考 （アレルギー等）
1																																							0
2																																							0
3																																							0
4																																							0
5																																							0
6																																							0
7																																							0
8																																							0
9																																							0
10																																							0
11																																							0
12																																							0
13																																							0
14																																							0
15																																							0
16																																							0
17																																							0
18																																							0
19																																							0
20																																							0
								0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※ 学部外者については，「覚書」（別途様式4）を提出のこと。

※ 申込期限は出航の10日前まで。
（食事代金＝朝：300円、昼：450円、夕：450円）

練習船豊潮丸　　2020-00 航海　　乗船者名簿

申込責任者：広島一郎

	氏　名	身　分 （職名・学年・学生番号）	性別	緊急時連絡先 （実家・父・母等　記入の事）	加入保険の名称	現住所・携帯電話番号	この欄は広島大学の方への質問です TAの学生は〇を付けてください	この欄は広島大学以外の方への質問です 過去に豊潮丸への乗船履歴の有・無
1	広島一郎	広島大学生物生産学部・教	男	090－0123－4567（妻）	労災	東広島市鏡山1－4－4　電話　〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇〇		
2	豊潮太郎	4年生　1234567	男	090－1234－5678（父）	学研災	広島県呉市宝町7－4　電話　〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇〇		
3								
4		記入例						
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

※ 学部外者については，「覚書」（別途様式4）を提出のこと。

※ 申込期限は出航の10日前まで。
（食事代金＝朝：300円、昼：450円、夕：450円）

メールに添付する場合は、パスワードを掛けてください。

練習船豊潮丸　　2020-00 航海　　食事申込書

申込責任者: 広島一郎

	氏　名	身　分 （職名・学年・学生番号）	性別	期間 月日～月日		乗下船地 乗船～下船		／　日			／　日			／　日			／　日			／　日			／　日			／　日			／　日			／　日			／　日			食数	備考 （アレルギー等）
								朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕		
1	広島一郎	広島大学生物生産学部・教	男	11/2	11/4	呉	呉		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			11	
2	豊潮太郎	4年生　1234567	男	11/2	11/4	呉	呉		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			11	
3																																						0	
4																																						0	
5																																						0	
6																																						0	
7																																						0	
8																																						0	
9																																						0	
10																																						0	
11																																						0	
12																																						0	
13																																						0	
14																																						0	
15																																						0	
16																																						0	
17																																						0	
18																																						0	
19																																						0	
20																																						0	
								0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	

記入例

※ 学部外者については，「覚書」（別途様式4）を提出のこと。

※ 申込期限は出航の10日前まで。
（食事代金＝朝：300円、昼：450円、夕：450円）

別記様式４

令和　　年　　月　　日

広島大学生物生産学部長　殿

覚書

令和　　年　　月　　日から令和　　年　　月　　日の間、豊潮丸乗船及び基地施設使用の許可を得ましたが、乗船中及び基地施設使用中、自己の不注意により事故が生じた場合、身体上・財産上の損害補償については一切自己において責任を持ち、貴学にご迷惑をお掛けいたしません。

令和　　年　　月　　日

名前　　印

（自署の場合は、押印不要）

APPENDED FORM #4

Date(month/day/year)

The Dean of the Faculty of Applied Biological Science, Hiroshima University

Pledge

I,(name)_____, am allowed to ride on board of the Toyoshio Maru on (Date) , under the following conditions:

"I promise to take full responsibility on the compensation fees of any trouble/accident caused by my careless mistakes while being on board of the Toyoshio Maru, without causing any problems to your faculty at Hiroshima University. "

Date(month/day/year) : _____ Name:_____

Signature: _____

別記様式5

附属練習船基地(桟橋)利用申請書

広島大学生物生産学部長　殿　　令和　　年　　月　　日

利用代表者(申請者)

所属機関名
職　　名
氏　　名　　印
(自署の場合は押印不要)

連絡先(電話番号)
Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ

下記のとおり「附属練習船基地(桟橋)」の一時利用をしたく申請します。
なお，利用に際し，貴学の桟橋等構造物に損害を与えた場合は，賠償責任を負い，速やかに修復することを誓約します。
また，利用期間内であっても貴学から離岸の指示があった時は，速やかに出港し退避します。

利用施設	附属練習船豊潮丸呉基地(桟橋)
利用目的	

船舶名称								
船舶諸元	全長	m	全幅	m	喫水	m	ﾄﾝ数	ﾄﾝ
船長氏名								
桟　橋 利用期間	自:令和　年　月　日　～　令和　年　月　日 時　分頃入港予定　時　分頃出港予定							
備　考								

船舶保険加入 (必須)	船舶保険の名称	船舶保険の内容	申請者所属機関　緊急連絡先情報
			担当者氏名 (部署・職名) TEL Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ

＊1　この利用申請書は，pdfのメール送信で受け付けるものとする。
＊2　船舶保険加入欄は，船舶保険証券の写しをpdfで送信することでも構わないものとする。
＊3　国の機関の船舶が利用申請する場合，船舶保険加入欄の記載は不要とする。
＊4　個人からの利用申請は原則認めない。(国等の公的機関からの要請があれば応じる)
＊5　利用許可の可否は，豊潮丸船長から申請者に通知する。

別記様式5

附属練習船基地(桟橋)利用申請書

広島大学生物生産学部長　殿

令和○○年○○月○○日

記入例

利用代表者(申請者)

所属機関名　○○機構○○丸
職　　名　船長
氏　　名　○○　○○　印
(自署の場合は押印不要)

連絡先(電話番号)　XXX-XXX-XXXX
Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　○○○@○○○○

下記のとおり「附属練習船基地(桟橋)」の一時利用をしたく申請します。
なお，利用に際し，貴学の桟橋等構造物に損害を与えた場合は，賠償責任を負い，速やかに修復することを誓約します。
また，利用期間内であっても貴学から離岸の指示があった時は，速やかに出港し退避します。

利用施設	附属練習船豊潮丸呉基地(桟橋)
利用目的	台風○号接近に伴い寄港地を変更するため，仮停泊場所として貴桟橋を利用したい。

船舶名称	○○機構○○丸							
船舶諸元	全長	XX.X　m	全幅	XX.X　m	喫水	XX.X　m	トン数	XXX　トン
船長氏名	○○　○○							
桟　橋 利用期間	自：令和○○年○○月○○日　～　令和○○年○○月○○日 ○○時○○分頃入港予定　○○時○○分頃出港予定							
備　考								

船舶保険加入 (必須)	船舶保険の名称	船舶保険の内容	申請者所属機関　緊急連絡先情報	
	○○○○保険	船主責任保険(P&I保険)	担当者氏名	○○　○○
			(部署・職名)	○○係・係長
			TEL	XXX-XXX-XXXX
			Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	○○○@○○○○

＊1　この利用申請書は，pdfのメール送信で受け付けるものとする。
＊2　船舶保険加入欄は，船舶保険証券の写しをpdfで送信することでも構わないものとする。
＊3　国の機関の船舶が利用申請する場合，船舶保険加入欄の記載は不要とする。
＊4　個人からの利用申請は原則認めない。(国等の公的機関からの要請があれば応じる)
＊5　利用許可の可否は，豊潮丸船長から申請者に通知する。

3. 豊潮丸の共同利用の概要

（1）取組の趣旨・目的

本事業は，教育関係共同利用拠点としての広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸（以下「豊潮丸」という。）の効率的かつ効果的な拠点運営を支援することを目的としており，その目的を達成するために，共同利用校の拡張，教育プログラムの充実化と開発，ならびに教育設備の充実化など，瀬戸内海における里海教育の中核として豊潮丸が機能するための支援環境の整備を行い，我が国の直面する水産・環境問題，社会経済問題，および島嶼部の文化・歴史的背景に精通した人材を育成することを目標とする。

これまでにも豊潮丸では，学外の学生を対象とした教育航海を通じて「瀬戸内海における人と海の関わり」と「瀬戸内海の環境としての特異性」について，水産学，海洋学，生物学，歴史民俗学，文化人類学等の多様な切り口からの理解を進め，里海がもたらす恵みとその豊かさを，実感として理解させる教育活動の実践を進めてきた。本事業は、そのような他大学に属する海洋に興味を持つ学生が航海実習・演習に正規の科目として参加できる教育機会をさらに拡張・充実化させ，大学間共同利用体制を強化することを目指すものである。

人間が里海から受ける恩恵によって成り立ってきた文化・歴史的背景や，第一次産業構造，沿岸の人間活動や開発が里海の環境および生態系に与えた影響などの諸問題を現場で理解させるフィールド教育は，一般社会人として身に付けておかねばならない海洋基本法が謳う理念の啓蒙の推進，海洋基本計画が求める人材の育成に大きく貢献しうるものである。

さらに「里海」というキーワードの下，他大学他分野の学生の専門教育の場としての意義もある。工学や環境学などの理系分野に加えて，農漁村学・ツーリズムといった社会経済学的な分野の学生にも洋上教育の場を提供することも積極的に推進し，一人一人の学生に多様な問題意識を惹起せしめることも期待できる。

また，乗船経験を経た学生にとっては，豊潮丸で過ごす数日間の洋上体験は一生の思い出となるだけでなく，その結果，水産学・海洋学そして練習船に対する良き理解者になることは間違いない。混乗による実習では複数の大学の学生が乗り合わせて，共同作業をすることにより，参加学生の視野が広がるだけでなく，コミュニケーション能力の向上を図ることができる。一方，他大学の下級生を指導する立場の本学学生にとっても，自らの専門的知識と技術の向上にはげみ，リーダーシップを培うことができる。このように，練習船ゆえの教育効果を広く供与しうることにもつながる。

加えて，身近な海洋環境の多様な魅力を引き出そうとする本事業の里海教育は，フィールド教育に於ける大学間連携の新たなモデルとして注目しうるものとなるはずである。

（２）拠点の認定理由

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸は，平成２４年７月３１日付け２４文科高第４０３号により，学校教育法施行規則第１４３条の２に基づき，「教育関係共同利用拠点」に認定されたものである。

教育関係共同利用拠点名は「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点」，認定の有効期間は「平成２４年７月３１日～平成２９年３月３１日」である。

「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規定（平成２１年８月２０日文部科学省告示第１５５号）」第２条に規定されている次の認定基準を満たすものとして認定された。

第2期，平成２８年７月２９日付け２８文科高第４５６号により，「教育関係共同利用拠点」に再認定された。認定の有効期限は「平成２９年４月１日～平成３４年３月３１日」である。

第3期，令和３年７月３０日付け３文科高第４６５号により，「教育関係共同利用拠点」に再認定された。教育関係共同利用拠点名は「人と海の持続的共存・発展を目指したOn-ship里海教育　共同利用拠点」，認定の有効期限は「令和４年４月１日～令和９年３月３１日」である。

【教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（抜粋）】

（認定の基準）

第2条　規則第143条の2第2項に規定する教育関係共同利用拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。

(1)　学生に対する教育，学生の修学等の支援，教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって，大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。

(2)　拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が，他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。

(3)　申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ，共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として，次に掲げる委員で組織する委員会（この条及び次条において「運営委員会」という。）を置き，イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。

イ　当該申請施設の職員

ロ　当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者

ハ　その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者

(4)　申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。

(5)　申請施設の種類等に応じ，共同利用に必要な設備及び資料等を備えていること。

(6)　申請施設を利用する大学に対し，申請施設の利用に関する技術的支援，必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。

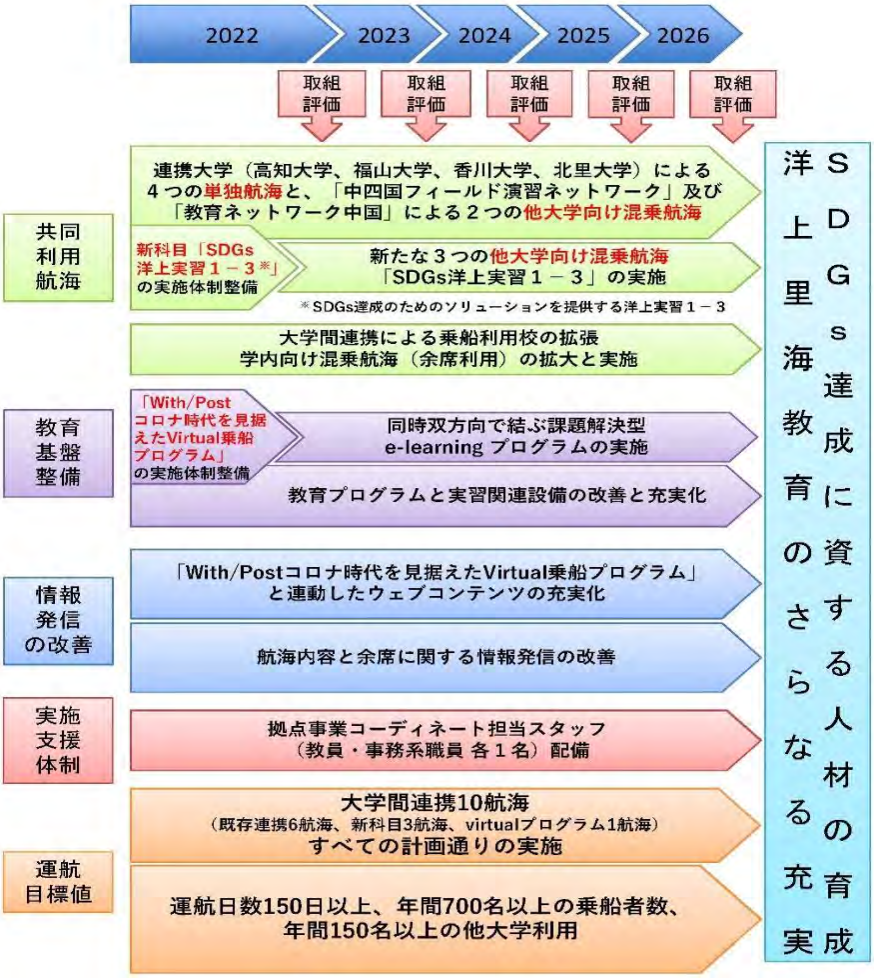
(7)　申請施設の利用の方法及び条件，利用可能な設備及び資料等の状況，申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。

(8)　申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。

（３）取組計画

練習船豊潮丸では，平成２４年に「教育関係共同利用拠点」（以下「教育拠点」）の認定を受けたことを契機に，広大な「里海」である瀬戸内海の中央部に位置する利点を生かし，海洋環境や水産生物の生産過程ならびに「里海」と沿岸住民との持続的共存に関する学習の機会を，全国の大学および高等専門学校等に提供するための教育機能および行動利用体制を強化させる取り組みを進めてきた。

そこで本事業では，共同利用を推進させるこれまでの取り組み事業を基盤として維持・継承しつつ，他大学などの学生の乗船機会を拡大させ，学生一人一人の個性を伸ばし得るような発展的学習の機会を提供する教育拠点としての新展開を目指す。具体的には，１）年間１５０日を超える運航実績（整備航海を除く），２)年間約７００名の乗船者，３）すべての大学間連携航海（単独航海と他大学向け混乗航海）の計画通りの実施，４)年間１５０名を超える他大学利用，の４点を従来と同様に維持させつつ，５)他大学学生の乗船機会の拡大と，より高度な学習機会を求める再乗船学生（学習リピーター）への対応を主眼に置いた取り組みを進める。



（4）実施体制

豊潮丸の管理運営，船員の人事，予算・決算など運営に関する必要事項については，豊潮丸の船長と支援室長および学部教員６名から構成された「豊潮丸運営委員会」が，共同利用に関しては，学内委員４名，学外委員４名からなる「豊潮丸共同利用運営協議会」がそれぞれ審議・決定している。

豊潮丸には，船長以下，３名の航海士，機関長，２名の機関士および機関員，甲板長，甲板員，通信長，司厨長の，合計１２名の船員が配置されている。このうち，２名は海事職教員（船長：准教授、首席一等航海士：助教）である。演習・実習の教育に際しては，海事職教員２名の責任の下，豊潮丸船員が中心となり，観測調査作業，海洋生物採集作業等の指導にあたる。

連携教育機関が実施する単独航海については，利用大学の引率教員，海事職教員が共に教育指導にあたる。残りの豊潮丸船員が利用大学の教員・学生の教育・実習の支援を行う。

また，広島大学が主催し学外学生を対象とした混乗航海「里海フィールド演習」，「飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習」，「Blue Growth を目指したオーダーメイド洋上演習」，「里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習」および「瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習」では，生物生産学部（大学院統合生命科学研究科）に属する担当陸上教員が，豊潮丸船員と共に実習の指導にあたる。

共同利用に係る航海で女性乗船者が参加した際には，船長及び航海代表者の要請に基づいて女性 TA を配置する。豊潮丸の運航および共同利用に関する事務は，生物学系総括支援室が一括して管理をし，そのうち演習・実習に必要な機器等の管理，共同利用航海における現場教育の補助，女性に配慮した乗船環境の提案・推進等，拠点活動に特化した業務を専任のコーディネーター（女性）が担当する。

写

２４文科高第４０３号
平成２４年７月３１日

広島大学
学長　浅原　利正　殿

文部科学大臣　平野　博文

教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第１４３条の２に基づき，貴学の「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸」を，下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお，教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において，下記３のとおり意見がありましたので，今後の拠点活動の参考としてください。

記

１．教育関係共同利用拠点名
「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点（広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸）」

２．認定の有効期間
平成２４年７月３１日～平成２９年３月３１日

３．特記事項
これまでの共同利用の実績や多数の利用が見込まれる点は評価できる。瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点としての今後の活動を期待する。

２８文科高第４５６号
平成２８年７月２９日

広島大学
学長　越智　光夫　殿

文部科学大臣　馳　浩

教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第１４３条の２の規定に基づき、貴学の「生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において、下記３のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

１．教育関係共同利用拠点名
「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点（生物生産学部附属練習船豊潮丸）」

２．認定の有効期間
平成２９年４月１日　～　平成３４年３月３１日

３．特記事項
教育関係共同利用拠点としての活動を行うにあたっては、以下の点に留意されたい。
（１）近年の全受講者に占める女子学生の割合等の増加を踏まえると、女性の施設利用に支障がない環境の充実が求められる。そのため、運営委員会の女性委員比率を高め、女性に配慮した環境づくりに一層努めることが望まれる。
（２）運営委員会等での議論を踏まえた教育の質向上に資する取組については、その成果を積極的に広報し、教育関係共同利用拠点の充実に努めること。

以上

３ 文 科 高 第 465 号
令 和 ３ 年 ７ 月 30 日

広島大学長　殿

文部科学大臣　　萩　生　田　　光　一

教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第 143 条の２の規定に基づき、貴学の「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点の認定等に関する有識者会議等における審査において、下記３のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

１．教育関係共同利用拠点名
「人と海の持続的共存・発展を目指した On-ship 里海教育　共同利用拠点」

２．認定の有効期間
令和４年４月１日～令和９年３月 31 日

３．特記事項
女性乗船者に配慮し、女性教員を運営委員会委員長および共同利用運営協議会議長とし、女性乗船者がより利用しやすい船内環境の整備を進めている点は評価できるが、船内での配慮を充実するために乗組員として女性を配乗することや、乗組員として女性が確保できないのであれば、女性教員が乗船してサポートする体制をより強化することが望まれる。

【本件担当】
文部科学省高等教育局大学振興課
大学改革推進室学務係　（木俣）
電話：03-6734-3334（直通）
03-5253-4111（内線 3334）
E-mail：daikaika@mext.go.jp

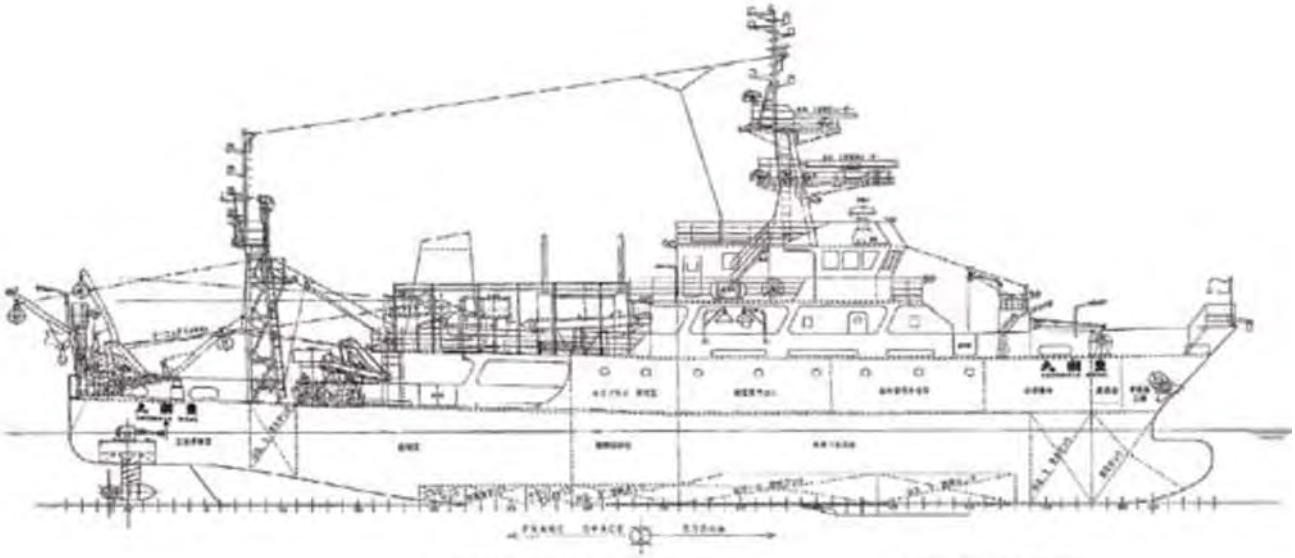
４．豊潮丸の概要

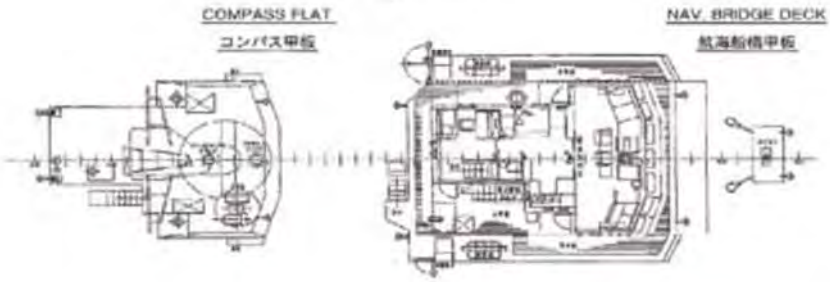
主要目 Ship specifications

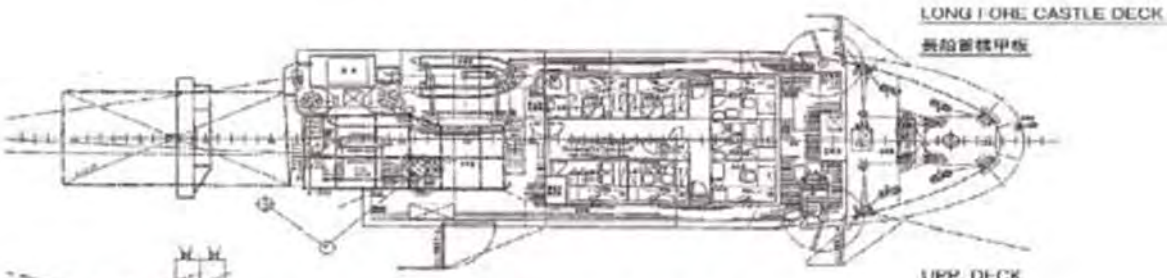
船舶番号 Official Number	第 140428 号
信号符号 Call sign	7JBU
漁船登録番号 Registry number of fishing vessel	HS1-24
船種 Type of Vessel	汽船 Motor Vessel
用途および従業制限 Service and fishing restriction	漁業練習船，第三種船 Fisheries training vessel, Category 3
IMO 番号 International Marine Organization number	IMO9384423
船級 Classification	JG
船質 Material of Hull	鋼　steel
所有者 Owner	国立大学法人広島大学　Hiroshima University
船籍港 Port of Registry	広島県呉市　Kure, Hiroshima
長さ（全長）Length Over All	40.50m
長さ（垂線間長） Length between Perpendiculars	35.50m
幅（型）Breadth(mid)	8.50m
深さ（型）Register Depth(mid)	3.71m
満載吃水 Full load Draft	3.1m
国際総トン数 International gross tonnage	400t
総トン数 Gross Register tonnage	256t
航海速力 Service speed	10 ノット（時間／海里）knots
航続距離 Endurance	2900 海里 nautical miles
航行区域 Navigation area	近海区域（国際航海） Greater coasting area (International voyage)
航海日数 Endurance	10 日 days
最大搭載人員 Complement	船員 12 名,教員 2 名,学生 18 名,計 32 名 Officers and Crew members 12P, Professors 2P, Students 18P, Total 32P 臨時定員（平水区域 6 時間未満）62 名 Special regular number, in Heisui area, designated pursuant to Ordinance for Enforcement of the Ship Safety Act, no longer than 6 hours , Total 62P
燃料油槽容積 Fuel oil tank	71.2 ㎥
水槽容積 Fresh water tank	41.6 ㎥

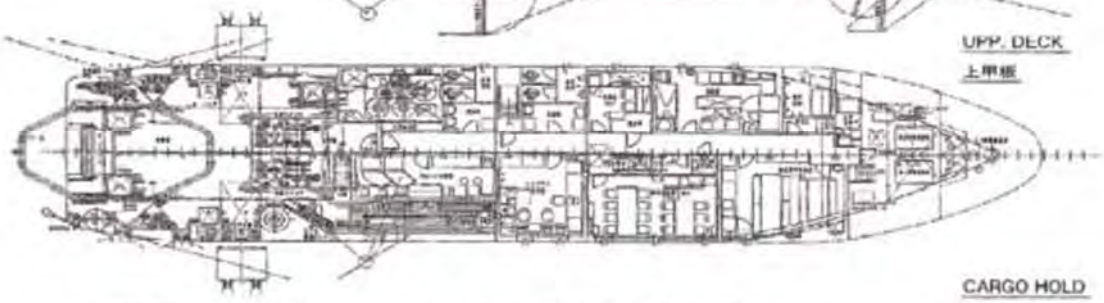
発電機関 Engine for generators	立形単動直列 6 気筒 4 サイクル過給機空気冷却器付ディーゼル機関 441kW(600PS)×1200RPM　3 台 6 cylinder 4 cycle diesel engines have vertical single series with turbo charger & air cooler 441kw(600PS)×1200rpm×3sets
発電機 Generator	防滴自己通風型片軸受自己給油式ブラシレス交流発電機 400kW×450V×60Hz　3 台 Self-oiling brushless alternative generators have one side bearing with water proof & self-air draft 400kW×450V×60Hz×3sets
推 進 電 動 機　Propulsion motors	全閉防まつ形水冷空気冷却器付自己通風形　船用三相誘導電動機　2 台 405kW／55kW×1180RPM／585RPM All mounting close 3 phase electric motors for ship have water proof & self-air draft through water 405kW／55kW × 1180RPM／585RPM×2sets
推進機 Propulsion system 	全旋回式縦軸型推進機（プロペラ回転方向：船尾より見て内回り）　2 台 プロペラ回転数：245RPM (入力軸回転数 1180RPM のとき) プロペラ直径：1900mm (ハイスキュード可変ピッチプロペラ) 360°　Rotating-2axis-vertical propulsion system × 2sets：　Inside rotation Propeller revolution:245rpm (Input axis revolution: 1180rpm) Propeller diameter:1900mm (High-skewed 3 blades variable pitch)
無線装置 Wireless equipment	A1，A2，A3 対応　GMDSS 海事衛星通信装置（フリート 33）1 台， 国際 VHF　2 台 Match for A1, A2, A3 GMDSS, International VHF×2
船舶電話 Ship telephone	沿岸用衛星船舶電話 1 台　090-3022-4347 Coastal satellite telephone ×1
竣工年月日 Date of delivered	平成 18 年 11 月 29 日　Nov.29,2006
造船所 Builder	三井造船株式会社 Mitsui Engineering & Shipbuilding Co., Ltd.

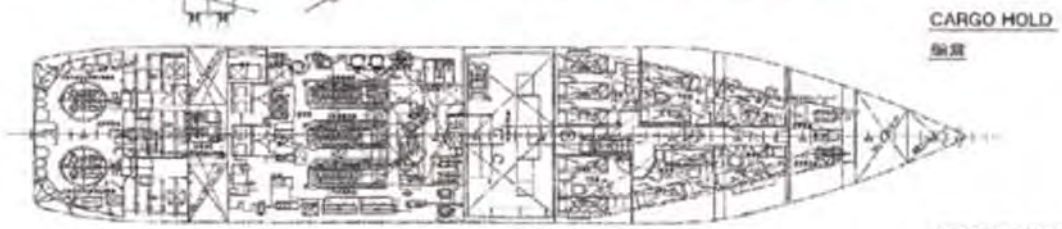
一般配置図　General arrangement

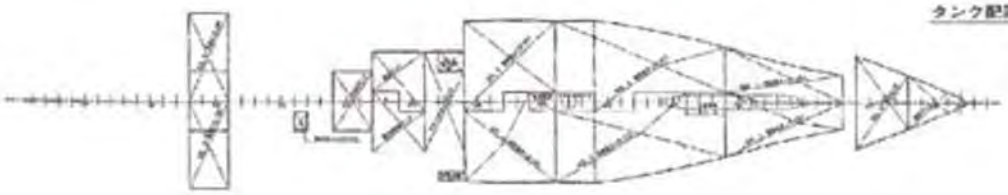












航海区画　Navigation/chart space

航海に関する操作･監視設備を集約している．操縦盤で推進装置，可変ピッチプロペラを操作する．海図室区画に船舶電話・ファックスを設置している．

＜航海設備＞

マグネットコンパス（投影式）	Magnet compass (Projection formula)	R165A	布谷舶用計器工業
ジャイロコンパス	Gyro compass	TG-8000	東京計器
サテライトコンパス	Satellite compass	SC-110	古野電気
レーダ　S バンド	Radar S-Band with ARPA	FAR-2127-20AF	古野電気
レーダ　X バンド	Radar X-Band with ARPA	FAR-2137S-30AF	古野電気
DGPS 航法装置	Differential global positioning system navigator	GP-150	古野電気
電子海図	Electronic chart display and information system	EC-7000	古野電気
自動気象観測装置	Automatic weather observation system		ANEOS
国際船舶自動識別装置(AIS)	Automatic identification system	FA-150	古野電気
音響測深器	Navigational echo sounder	FE-700	古野電気
デジタル水温計	Digital water temperature indicator	TI-20	古野電気
船舶用水晶親時計装置	Marine crystal master clock	TXS-12S	古野電気
電磁ログ	Electromagnetic log	EML500	YOKOGAWA
カラー魚群探知機	Color video sounder	FCV-1500L	古野電気
カラースキャニングソナー	Color scanning sonar	FSV-30	古野電気
高機能魚群探知機	High performance video sounder	FCV-30	古野電気

機関区画　Engine room

機関制御室及び機関室並びに主推進機室を有し，機関室に設置された自動制御発電機３台により推進用電力をはじめ船内の全ての電力需要に応じた電力を供給し，各発電機関の最適負荷にて運航する．機関室や機関制御室においては，発電機関や推進装置をはじめ全ての機器において始動停止操作及び制御を行うことができ，機関制御室ではデータロガーによる各機器の温度･圧力等の計測・監視・記録を行なうとともに，統合制御システムによる推進機を含めた機関部全般機器の制御を行う．また，主配電盤により，各発電機の周波数･電圧の制御ならびに並列運転･負荷分担や，負荷状態に合わせた自動始動・停止を行うことができる（パワーマネジメント）．主推進機室には電気推進装置が設置され，全旋回式縦軸型推進機が推進電動機により駆動される．

＜機関設備＞

発電機関　３台	Engine for generator 3sets	6NY16L-EN	ヤンマー
発電機　３台	Generator 3sets	NTAKL-VEK	西芝電機
推進電動機　２台	Propulsion motor 2sets	NTIKE-RCK5	西芝電機
推進機　２台	Propulsion system 2sets	KST-130ZC/ADN	川崎重工業
クラゲ除去装置　１式	Jellyfish removal system 1set	JF-140	菱洋産業
油水分離器　１式	Bilge separator system 1set	USH-03	大晃機械工業
海洋生物付着防止装置　１式	Marine life exclusion system 1set		アタカ大機
機関部統合制御システム　１式	Engine central control system 1set		JRCS

機関制御室／Engine control room

発電機関／Engine for generator

推進装置／Propulsion system

クラゲ除去装置／Jellyfish removal system

無線区画　Radio space

無線に関する操作，監視設備を集約している．また，全球海上遭難・安全システム（GMDSS: Global Maritime Distress and Safety System）対応の設備を設け，通信機能の効率化を図っている．

＜無線設備＞

MF/HF 250W 無線通信装置（SSB,DSC,NBDP）	250W Radio equipment (SSB Radio equipment, Digital selective calling, Narrow band direct printing)	JSS-296	JRC
インマルサット C 通信装置	INMARSAT-C Mobile earth station	JUE-85	JRC
国際 VHF 無線電話装置	Marine VHF radio telephone	JHS-32B	JRC
ナブテックス受信装置	Navigation telex	NCR-333	JRC
衛星用 EPIRB	Emergency position indicating radio beacon	JQE-3A	JRC
双方向無線電話装置	Two-way VHF transceiver	JHS-7	JRC
レーダートランスポンダ	Search and rescue radar transponder	JQX-30A	JRC
気象ＦＡＸ受信装置	Weather facsimile receiver	JAX-90	JRC

無線区画－1／Radio equipment area-1

無線区画－2／Radio equipment area-2

漁労及び観測支援設備　Fishery and oceanographic research support systems

CTD ウインチ	CTD winch	1 set	8.1mm φ×2000m	ダイナコン 10030
船首観測ウインチ	Fore part survey winch	1 set	6.0mm φ×1000m	川崎ﾌﾟﾚｼｼﾞｮﾝﾏｼﾅﾘ
曳網ウインチ	Trawl winch	2 sets	12mm φ×2000m	川崎ﾌﾟﾚｼｼﾞｮﾝﾏｼﾅﾘ
観測ウインチ	Oceanographic survey winch	1 set	3.0mm φ×1500m	川崎ﾌﾟﾚｼｼﾞｮﾝﾏｼﾅﾘ
起倒式 A フレーム	A-frame for survey	1 set		川崎ﾌﾟﾚｼｼﾞｮﾝﾏｼﾅﾘ
起倒式ランプドア	Ramp door	1 set		川崎ﾌﾟﾚｼｼﾞｮﾝﾏｼﾅﾘ
船首観測ダビット	Fore part survey davit	2 sets		川崎ﾌﾟﾚｼｼﾞｮﾝﾏｼﾅﾘ
CTD クレーン	CTD crane	1 set	HIAB 081	HIAB
船尾観測クレーン	Aft part survey crane	1 set	HIAB 081	HIAB
全自動イカ釣機	Automatic squid angling machine	1 set	SANMEI SE-UA1	ニチモウ
魚網監視装置	Fishing net watch system	1 set	SCANMAR	日本海洋

CTD ウインチ／CTD winch

船首観測ウインチ
／Fore part survey winch

曳網ウインチ／Trawl winch

観測ウインチ
／Oceanographic survey winch

起倒式 A フレーム及び起倒式ランプドア
／A-frame and Ramp door for survey

船首観測ダビット
／Fore part survey davit

CTD クレーン
／CTD crane

船尾観測クレーン
／Aft part survey crane

調査研究設備　Research equipment

ＣＴＤ測定装置（多筒採水器付）	CTD octopus system and water sampling bottles	SBE- 9plus，SBE- 11 plus 10L×12 本	EMS
多層式超音波流速計	Acoustic Doppler current profiler	Teledyne RD Instruments WHD300kHz	HSD
表層連続観測装置	Surface CTD self-recorder	SEB-45, BBE 社 AOA	日本海洋
海底地形探査装置	marine topography profiling system	HS-600	古野電気
船内 LAN システム	Ship LAN system	JEE ソルデック	日本海洋
水中テレビカメラ装置	Underwater TV vehicle	RTV-100MK II	三井造船
実体顕微鏡	Actual objects microscope	ZEISS Stemi 2000	日本海洋
ダイビング用空気圧縮機	Diving air compressor	田邊空気機械製作所 V-11	日本海洋
生物飼育水槽　　２個	Aquarium for keeping live samples ×2 sets	250 リットル WTCA-401L	日本海洋
試料保存用冷凍冷蔵庫	Storage freezer for experimental substances	SJ-54H-S	SANWA
低温恒温器	Incubator	FLT-15	日本海洋
バンドン採水器	Van-Dorn water bottle	10L×2 本	離合社
スミスマッキンタイヤ採泥器	Smith-Macintyre sediment grab sampler	小型 0.05m2，中型 0.1m2	離合社
エクマンバージ採泥器	Ekman-Berge sediment sampler	小型 0.02m2，大型 0.04m2	離合社
小型簡易ドレッジ	Dredge	0.5m×0.2m	離合社
G.S.型表層採泥器（アシュラ）	G.S.type core sampler (ASYURA)	柱状採泥器×3 本	離合社
鉛直多層式開閉ネット	Vertical multiple plankton net	VMPS1000	鶴見精機
表中層プランクトン採集網	Surface-mid layer plankton net	LCP-003	ニチモウ
表中層稚魚採取網	Plankton and larva net	LC-20M-SMR	ニチモウ
底魚採集底曳網	Kite type trawl net	LC-V1	ニチモウ
ビームトロール（桁網）	Beam trawl net		
ニューストンネット	Neuston net		
アイザックキッド	IKMT net		
ORI ネット	Ocean Research Institute net		
ソリネット	Sled net		

CTD 測定装置（多筒採水器付）
/ CTD octopus system /
and water sampling bottles

水中テレビカメラ装置
Underwater TV vehicle

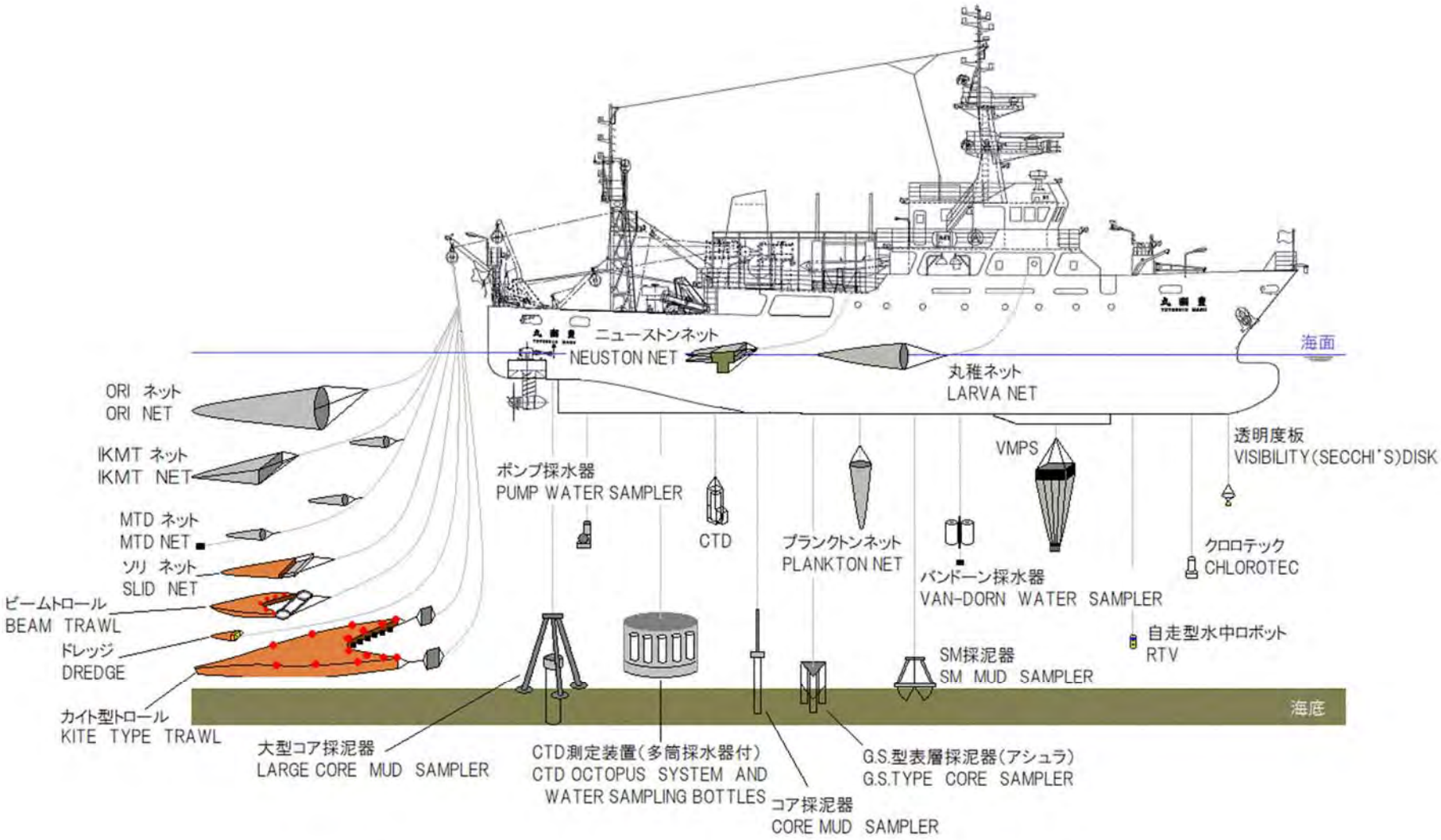
セミドライ研究室／Laboratory (semi dry)

ウエット研究室／Laboratory (wet)

映像配信装置／Television image transmitter system

船内情報指示装置
／Monitoring system for ship information

海洋調査機器概略図　Oceanographic instruments



生活環境設備　Living quarters

教室兼学生食堂／Student lecture and mess room

船員食堂／Crew mess room

教員室／Professor's room

学生室／Student room

調理室／Galley

広島大学生物生産学部附属練習船基地
〒737-0029　広島県呉市宝町 7 番 4 号
Kure Marine Station
School of Applied Biological Science, Hiroshima University
7-4, Takara-machi, Kure, Hiroshima, 737-0029 JAPAN
TEL:0823-23-4853　　FAX:082-553-0237
URL: https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp

附属練習船豊潮丸
Training and Research vessel TOYOSHIO MARU
TEL:090-3022-4347　FAX:082-553-0237
URL: https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp

広島大学　東広島地区　運営支援部
生物学系総括支援室
〒739-8528　広島県東広島市鏡山一丁目 4 番 4 号
TEL：082-424-7904　FAX：082-424-7947
URL: https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei
https://www.hiroshima-u.ac.jp/ilife